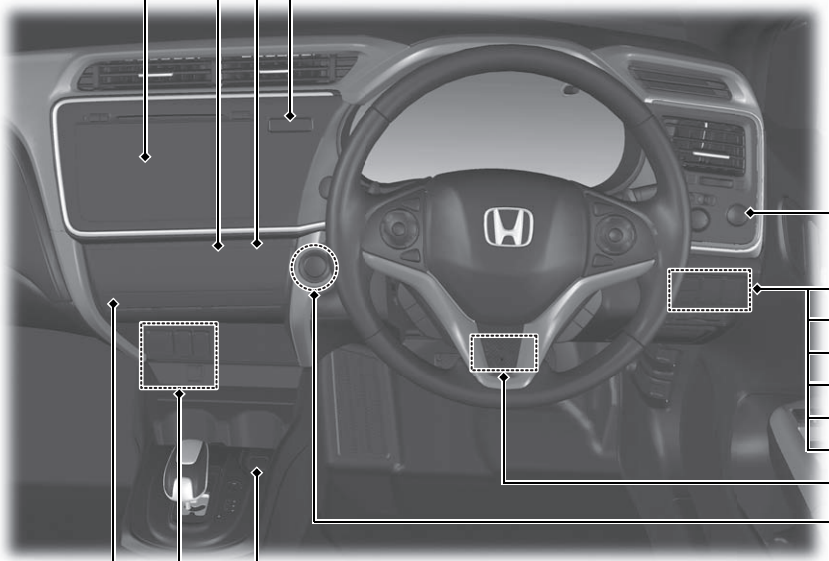
HONDA

GRACE Hybrid

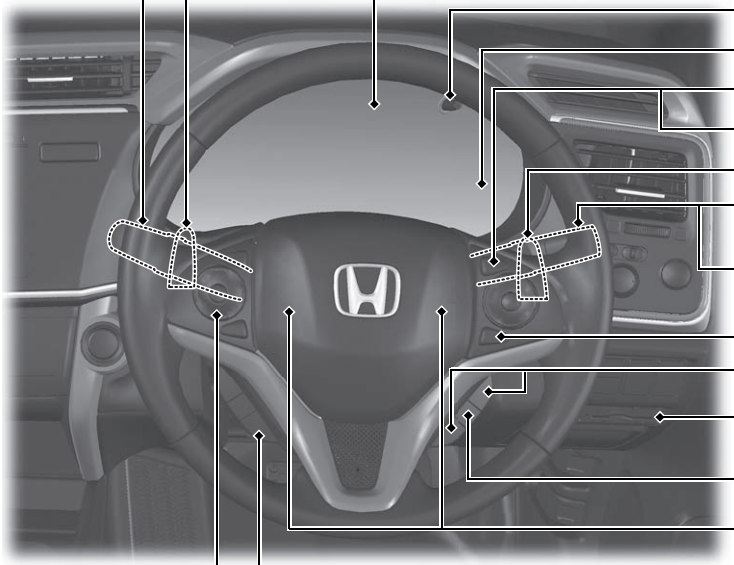
オーナーズマニュアル

クイックガイド
安全なドライブ
計器の見かた
各部の操作
オーディオ
運転
メンテナンス
万一の場合には
資料
索引

ビジュアル目次



Honda インターナビシステム*※1
オートエアコン P. 184
シートヒーター* P. 182
非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）
ECON スイッチ P. 209
VSA OFF スイッチ P. 216
フロントガラス熱線スイッチ* P. 163
ヘッドライトレベリングダイヤル* P. 159
車両接近通報装置OFFスイッチ P. 210
CMBS OFF スイッチ* P. 222
路外逸脱抑制スイッチ* P. 262
ハンドル位置調節レバー P. 164
POWER スイッチ P. 149
S モードスイッチ P. 209
USB/HDMI® ジャック*※1
アクセサリーソケット P. 180
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* スイッチ P. 163

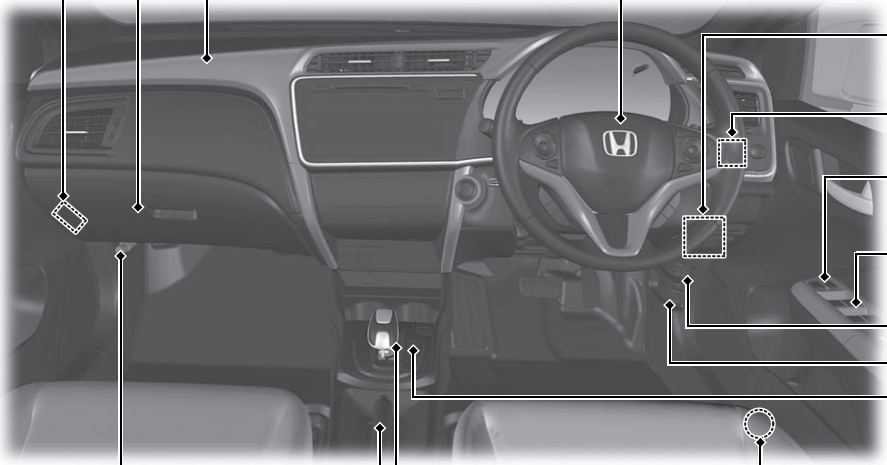


ワイパー / ウォッシャースイッチ P. 160
シフトスイッチ(シフトダウン)* P. 208
メーター P. 96
警告灯 P. 65
表示灯 P. 75
時計 P. 124
セレクト / リセットノブ P. 100, 162
マルチインフォメーションディスプレイ P. 98
CRUISE スイッチ* P. 211
MAIN スイッチ* P. 236, 251
シフトスイッチ(シフトアップ)* P. 208
ライト / 方向指示器
(ウィンカー)スイッチ P. 152,153
フォグライトスイッチ* P. 155
LKAS スイッチ* P. 251
インフォメーション(i)スイッチ(▲ / ▼) P. 99
ETC 車載器*※2
SEL/RESET スイッチ P. 100
ホーンスイッチ(周辺)
発話スイッチ*※1
オーディオリモートコントロールスイッチ* ※1

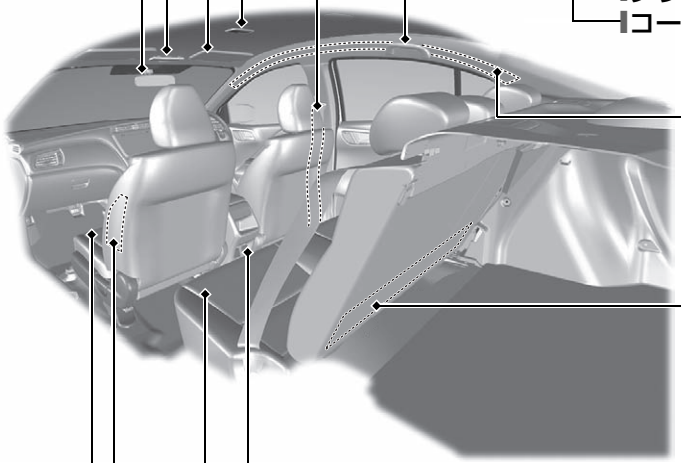
※1：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。
※2：別冊「ETC 車載器」を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



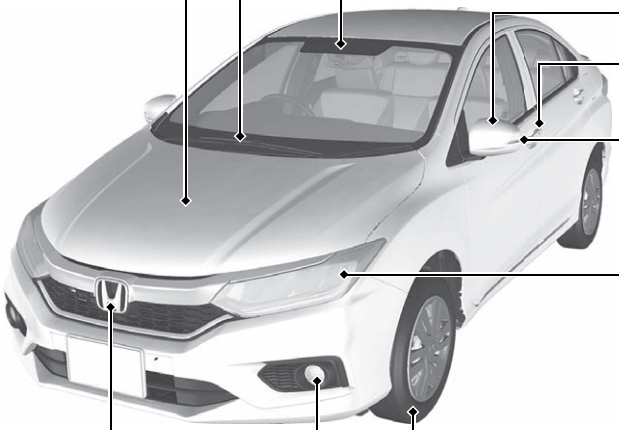
室内助手席側ヒューズボックス P. 364
グローブボックス P. 176
SRS エアバッグシステム（助手席用） P. 39
SRS エアバッグシステム（運転席用） P. 39
室内運転席側ヒューズボックス P. 360
ドアミラー調節スイッチ P. 166
マスタードアロックスイッチ P. 139
パワーウィンドースイッチ P. 147
フューエルリッドオープナー P. 288
ボンネット解除ノブ P. 296
パーキングスイッチ P. 203
トランクオープナー P. 143
発炎筒 P. 332
セレクトレバー P. 203
パーキングブレーキ P. 280



ルームミラー P. 165
マップランプ P. 175, 306
サンバイザー
バニティミラー
室内灯 P. 174, 306
シートベルト P. 32
グラブレール
コートフック P. 181
サイドカーテンエアバッグシステム* P. 44
ISOFIX/i-Size 取付装置 P. 52, 58
アクセサリーソケット* P. 180
リヤシート P. 170
サイドエアバッグシステム* P. 42
フロントシート P. 168

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



エンジンルーム内のメンテナンス P. 295

ワイパー P. 160, 308

フロントセンサーカメラ* P. 277

オートハイビームカメラ* P. 156

ドアミラー P. 166

ドアの施錠 / 解錠 P. 127

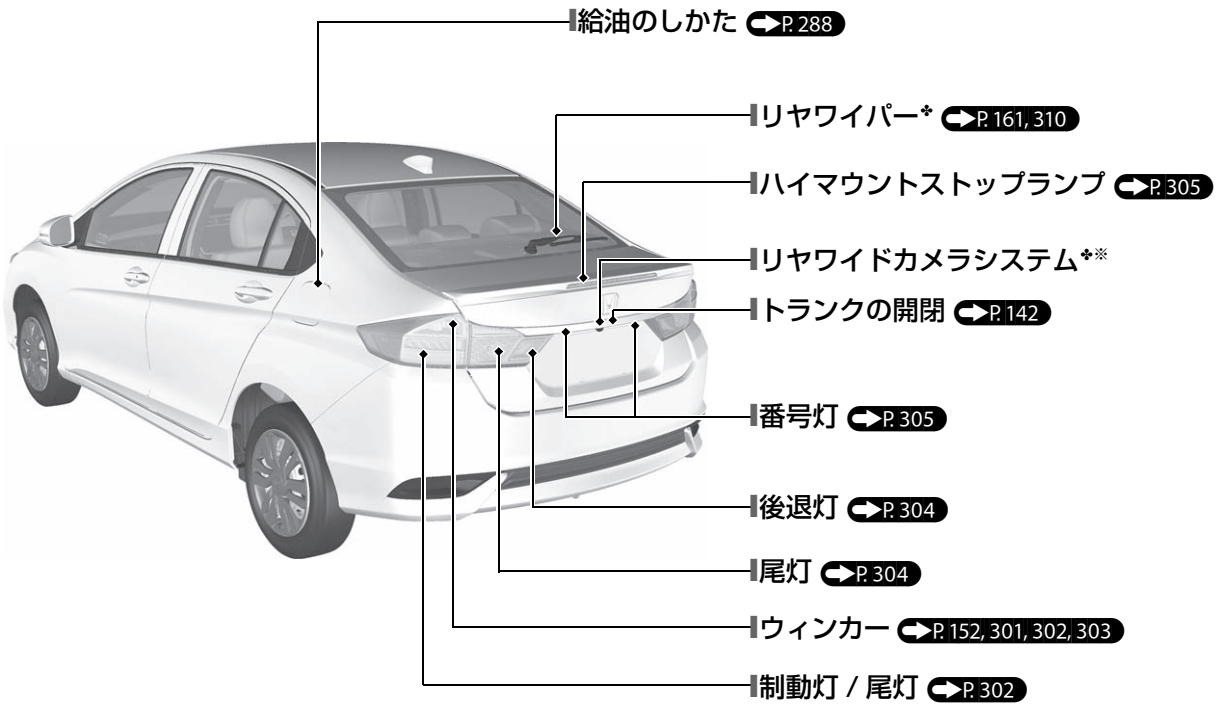
ドアミラーウィンカー P. 152, 302

ヘッドライト P. 153, 299

タイヤ P. 312, 333

フォグライト* P. 155, 302

レーダーセンサー* P. 22, 235, 219



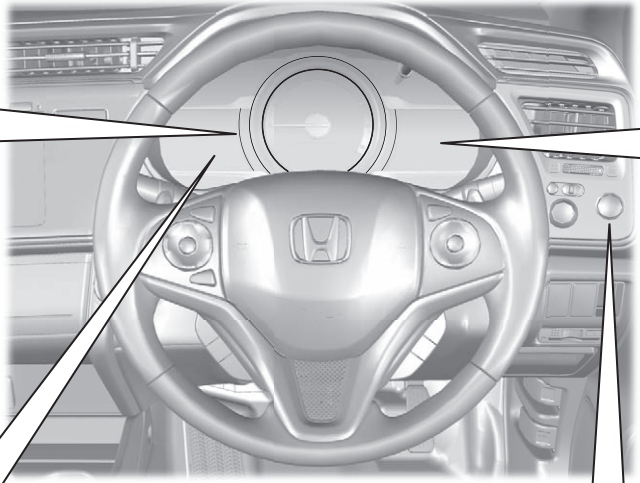
※：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。

この「❖」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

エコアシストシステム

アンビエントメーター

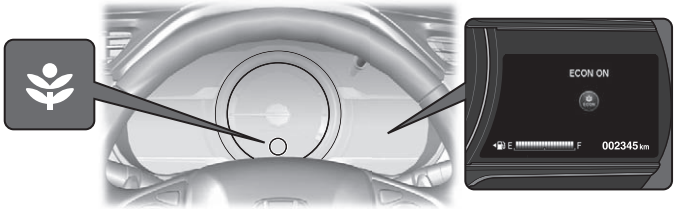
●運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。



ECON 表示灯 P.78

●ECON スイッチを押して、ECON モードにすると点灯します。

●ECON スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを数秒間表示します。



ECON スイッチ P.209

●ECON スイッチを押すことで、ハイブリッドシステムやエアコンを、より省燃費運転となるように制御します。



ECO ドライブディスプレイ P.102

運転操作の状態に応じて車両のアイコンが前後に動きます。

●急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。

●円の中心に車両アイコンが維持できるように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。運転操作の状態に応じて、背景の色が変化します。



ECO スコア

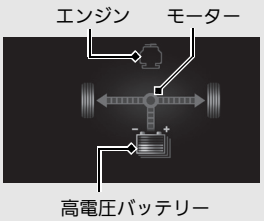
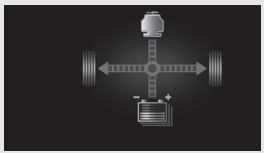
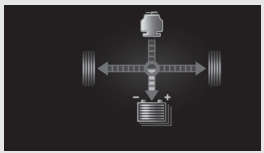
●パワーモードを OFF モードにしたときに表示します。



スポーツ ハイブリッドi-DCD（インテリジェント デュアルクラッチ ドライブ）

スポーツ ハイブリッド i-DCD は、モーターとガソリンエンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用します。

➲ 高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示 P. 108

走行モード	EV 走行	ハイブリッド走行	エンジン走行（直接駆動）	回生
走行状態	発進加速・低速および中速クルーズ時 • モーターの動力のみで走行 • モーターだけでの走行になると、メーター内の EV 表示灯が点灯します。 ➲ EV 表示灯 P. 77	しっかりとした加速時 • エンジンとモーターの動力で走行	ゆるやかな加速・高速クルーズ時 • エンジンの動力のみで走行 • 車の状態に応じて、モーターを発電機として作動させ、高電圧バッテリーに充電します。	減速中かつアクセルペダルも操作していないとき • モーターが回生ブレーキで得た電気を高電圧バッテリーへ供給します。
パワーフローモニター				
モーター	作動	作動	発電	回生
エンジン	停止	作動	作動	停止 / 出力なし
高電圧バッテリー	放電	放電	充電 / 放電	充電

省燃費運転の方法

燃費をよくするため、次の点に気をつけて走行してください。

●不必要な急加速、急減速を避ける

●メーターに表示される燃費表示を参考に走行する P. 105

バッテリーのタイプ

2 種類のバッテリーが装備されています。エアバッグ、ライト類や電気アクセサリーを使用するための 12V バッテリーと、モーターの駆動と 12V バッテリーを充電する高電圧バッテリーです。

回生エネルギーと回生ブレーキ

減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、発電した電気を高電圧バッテリーに充電します。
この回生ブレーキ機能は、エンジンブレーキと同じような働きをします。

エンジンの自動停止・始動

車の状態に応じて、エンジンが自動的に停止、始動します。停車中は、エンジンが停止状態から始動することがあります。
ただし、以下の状態では自動的に停止しないことがあります。

●急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき

●オートエアコンの温度を過度に高く設定しているとき

●S モードスイッチが ON しているとき P. 209

●セレクトレバーが L になっているとき

●高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき

これらの状態以外でも、外気温や車の走行状態によりエンジンが自動的に停止しない場合があります。
次のようなときは、エンジンが自動的に始動することがあります。

●シフトポジションが P のまま、運転席のシートベルトをはずし、運転席ドアを開けたとき

ハイブリッド車について

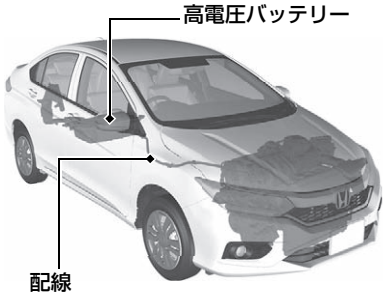
高電圧部位や高電圧配線部は電磁シールド構造になっています。
従来の車や家電製品と比べて電磁波が多いということはありません。

ハイブリッド車特有の音について

車の始動時や走行中に、次のような箇所から、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

音が聞こえるとき	状況
エンジンの始動 / 停止、低速走行時	トランスミッションの作動音が車両前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
減速時・停車時	エネルギーを回生するために、モーター回生作動音がエンジンルーム内から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだとき、アクセルペダルを踏んでいるときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがあります。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。

ご使用時の注意



冷却風取り入れ口をふさがない



冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や 12V バッテリー充電警告灯が点灯することがあります。

高電圧システムには触れない

高電圧システムの分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ず Honda 販売店にご相談ください。

事故が起きたとき

●感電に注意する

▶車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線(オレンジ色)には、絶対に触れないでください。

●高電圧バッテリー液に触れない

▶高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

●火災が発生したら電気火災用消火器を使用する

▶少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

●Honda 販売店で修理を受ける

▶車体が損傷を受けたときは、必ず Honda 販売店で修理を受けてください。

高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的に OFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、Honda 販売店にご連絡ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、必ず下記にご相談ください。

(株)ホンダトレーディング 0120-910574(フリーダイヤル)

安全なドライブ P. 30

運転を始める前の確認

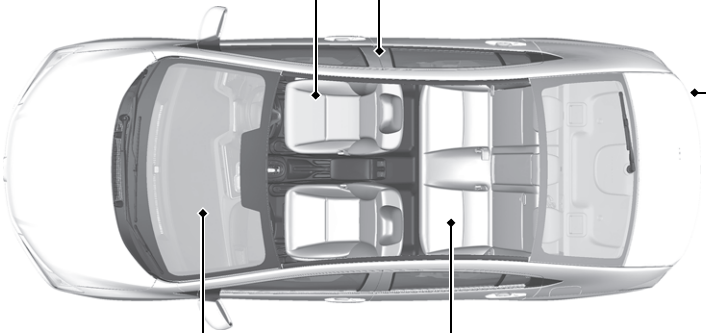
P. 194

●運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



●正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
●同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
●妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

シートベルト P. 32

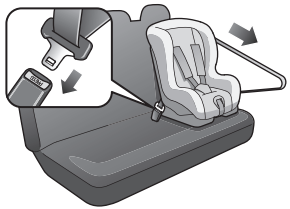


排気ガスについて P. 63

●車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではパワーシステムを起動しないでください。

お子さまの安全 P. 48

●シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

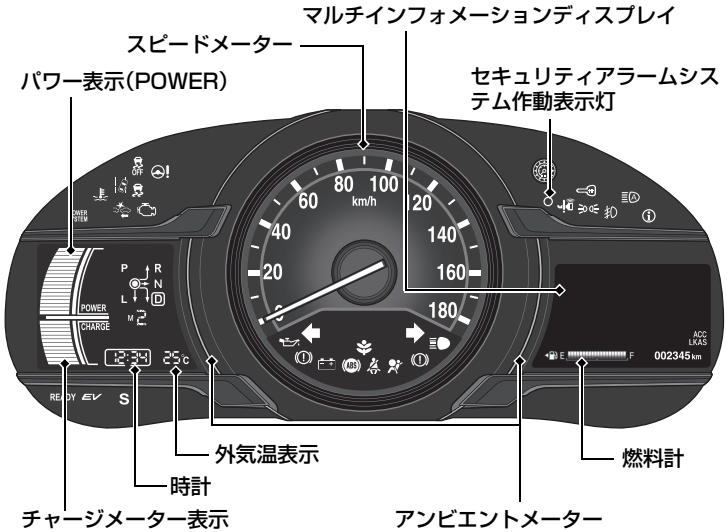


エアバッグ P. 39

●万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた P.64

警告灯 P.65 表示灯 P.75 メーター P.96 マルチインフォメーションディスプレイ P.98



警告灯 / 表示灯

- EPS システム警告灯
- Honda スマートキーシステム警告灯
- VSA OFF 警告灯
- VSA 警告灯
- インフォメーション表示灯
- PGM-FI 警告灯
- 高水温警告灯(レッド)
- 低水温表示灯(ブルー)
- 油圧警告灯
- 12V バッテリー充電警告灯
- ECON 表示灯
- ブレーキ警告灯(レッド)
- オートハイビーム表示灯*
- 方向指示器 / 非常点滅表示灯
- エアバッグシステム警告灯

警告灯 / 表示灯

- イモビライザーシステム表示灯
- シートベルト非着用警告灯
- シフトポジション表示灯(トランスミッション警告灯)

ライト表示灯

- ハイビーム表示灯
- ライト点灯表示灯
- フォグライト点灯表示灯*

警告灯 / 表示灯

- ABS 警告灯
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- パワーシステム警告灯
- EV 表示灯
- M(7速シーケンシャルシフトモード)表示灯*
  シフトインジケーター*
- READY 表示灯
- S モード表示灯
- ACC 警告灯*(オレンジ)
  ACC 表示灯*(グリーン)
- LKAS 警告灯*(オレンジ)
  LKAS 表示灯*(グリーン)
- クルーズメイン表示灯*
- クルーズコントロール表示灯*
- 路外逸脱抑制機能警告灯*
- CMBS 警告灯*

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

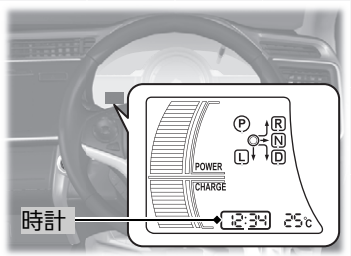
各部の操作 P.123

時刻を合わせる P.124

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

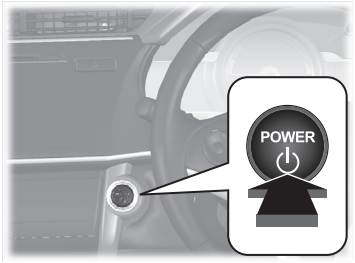
メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車の時計は、人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車



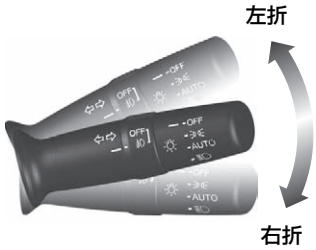
POWER スイッチ P.149

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



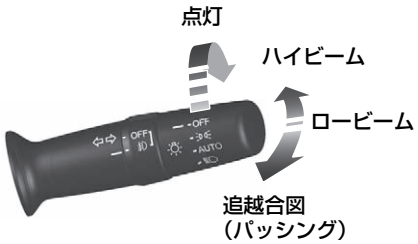
ウィンカー P.152

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



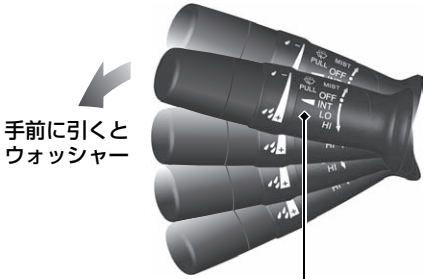
ライト P. 153

ライトスイッチ



ワイパー P. 160

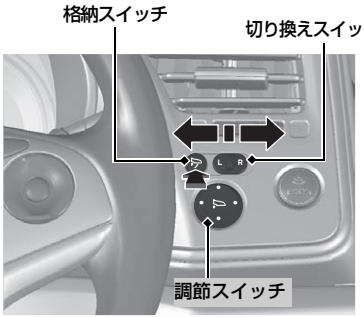
ワイパー / ウォッシャースイッチ



- OFF　停止
- INT　間欠（雨量が少ないとき）
- LO　低速（普通の雨量のとき）
- HI　高速（雨量の多いとき）

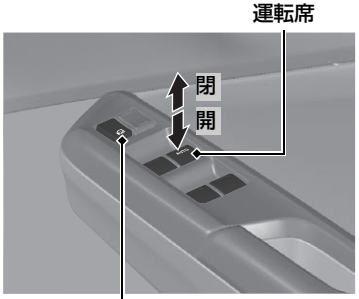
ドアミラー P. 166

●パワーモードがONモードのとき、ドアミラーの格納または角度の調節ができます。



パワーウィンドー P.147

●パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。

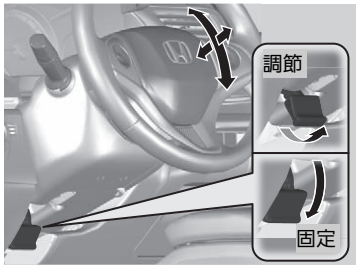


パワーウィンドーロックボタン
- ON　運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF　全てのウィンドーが作動

ハンドル位置の調節

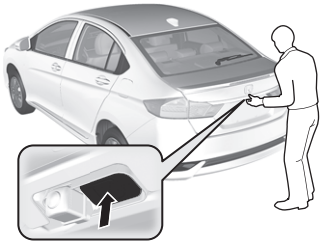
P.164

●ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



トランク P.142

●トランクは、運転席右下にあるトランクオープナーを引くか、キーレスエントリーのトランク解錠ボタン、トランクオープンスイッチを押して開きます。



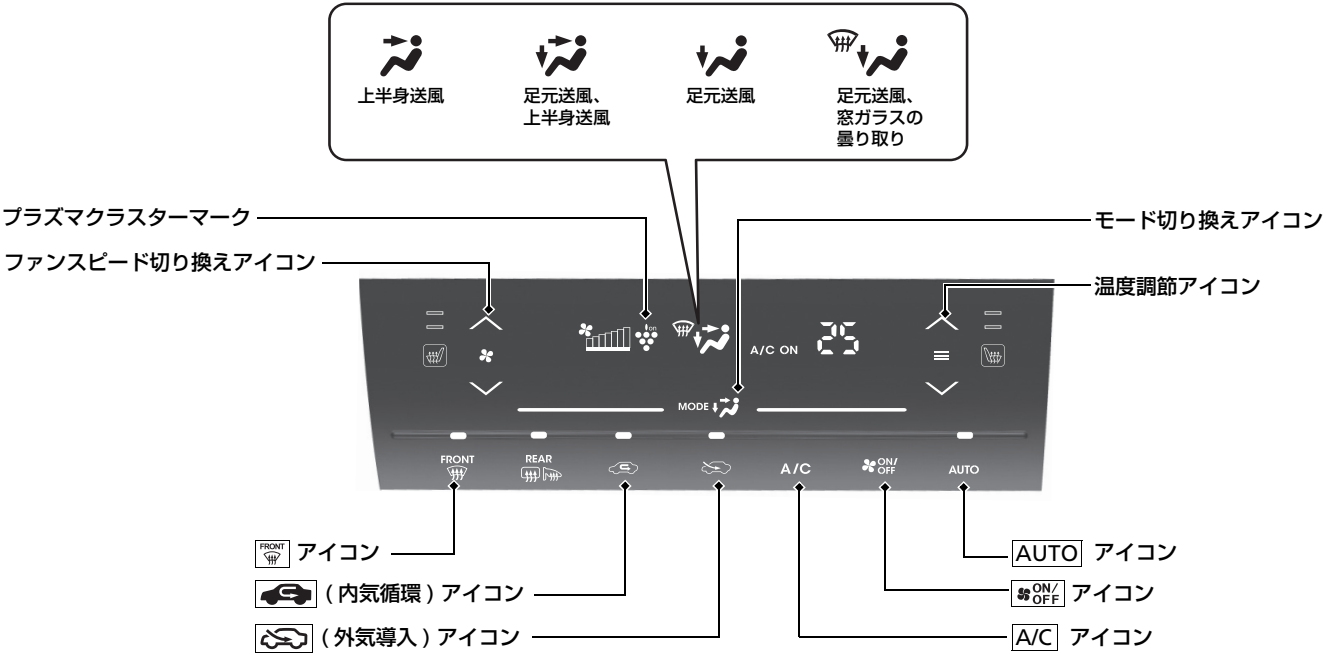
運転席ドアハンドルでの解錠 P.138

●運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



エアコン P.183

- AUTO を押すと、オートエアコンが作動します。
- ON/OFF を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、FRONT を押します。



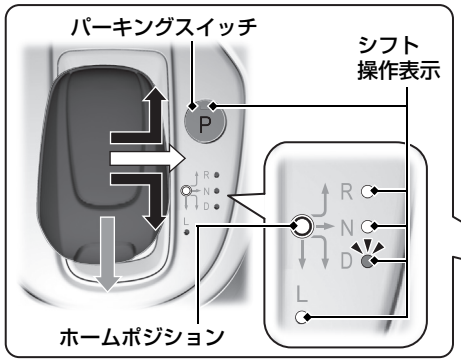
運転 P.193

デュアルクラッチトランスミッション車 P.203

●ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。 パワーシステムの起動 P.196

セレクトレバー

セレクトレバーの操作





シフトポジション表示灯

選択されたシフトポジションは、シフト操作表示とシフトポジション表示灯に、連動して表示されます。





Ⓟにするときは、パーキングスイッチを押します



R 、 D にするときは、矢印の方向にセレクトレバーを操作します



N にするときは、セレクトレバーを右にスライドさせ、少しの間保持します



L は D のときのみ選択できます
そのため L にするときは D にしてから、矢印の方向にセレクトレバーを操作します

操作後、セレクトレバーから手を離すと◎(ホームポジション)位置へ自動的に戻ります。

P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
- 通常走行
- 7 速マニュアルシフトモードにするとき*

L ロー
強いエンジンブレーキが必要なとき

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

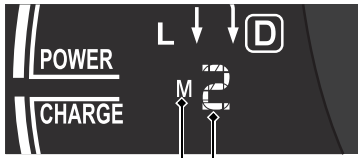
シフトスイッチ装備車

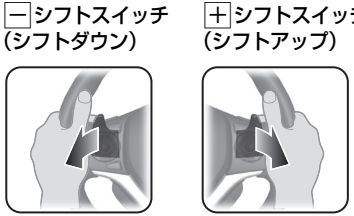
シフトポジションが D で、S モードスイッチが OFF のとき

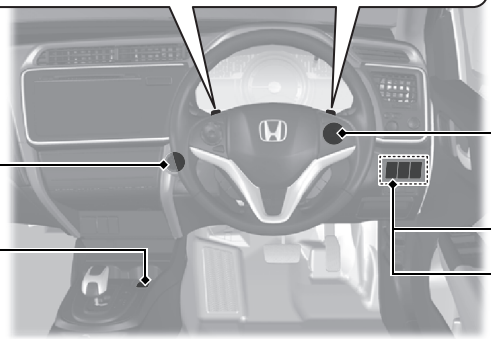
●ハンドルから手を放さずシフトスイッチを引いて、シフト操作ができます。
●ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、一時的に 7 速マニュアルシフトモードになります。シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。

シフトポジションが D で、S モードスイッチが ON のとき

●ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードになります。M (7 速マニュアルシフトモード)表示灯が点灯し、シフトインジケーターにギヤ位置が表示されます。







VSA の ON と OFF P. 215

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、OFF を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するには OFF を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。
- パワーシステムを起動すると自動的に VSA は ON になります。

CRUISE スイッチ* P. 211

- クルーズコントロールは、高速道路などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
- クルーズコントロールを使用しないときは、安全のために CRUISE を押して OFF にしてください。

CMBS の ON と OFF*

P. 222

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝突の衝撃を軽減する装置です。
- CMBS を停止(OFF)状態にするには、OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するには OFF を「ピーッ」とブザーが鳴るまで押します。

ガソリンを入れる P. 288

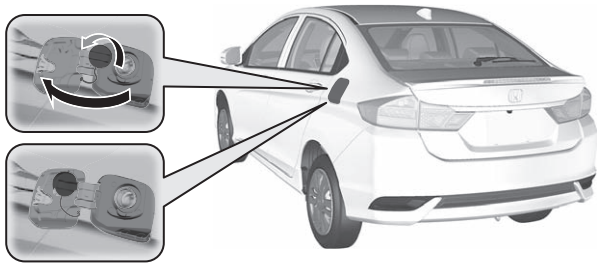
指定燃料：	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)
タンク容量：	40 リットル

❶ フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。



❷ ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。

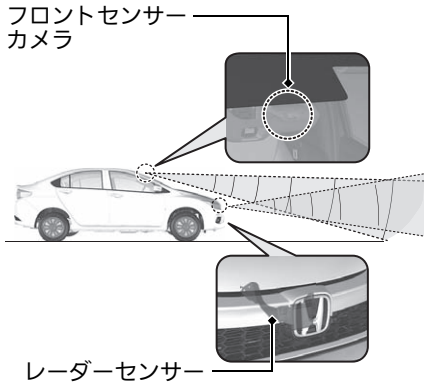
❸ キャップをホルダーにかける。



この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ホンダセンシング※

フロントグリル内に設置したレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置したフロントセンサーカメラの、特性の異なる2種類のセンサーで構成された運転支援システムです。
ホンダセンシングは、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。



衝突軽減ブレーキ(CMBS)

P. 219

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

誤発進抑制機能

P. 226

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示等で接近を知らせる機能です。

歩行者事故低減ステアリング

P. 228

歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

ACC(アダプティブクルーズコントロール)

P. 234

先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。

LKAS(車線維持支援システム)

P. 248

左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

路外逸脱抑制機能

P. 259

車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

先行車発進お知らせ機能

P. 266

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能 P. 270

走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

メンテナンス P. 291



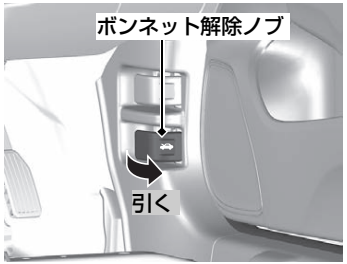
ワイパーブレード P. 308

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

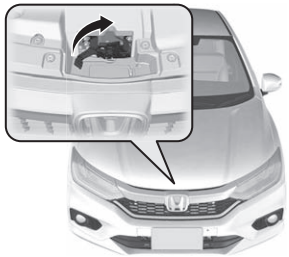
エンジンルーム P. 295, 297, 351

●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
●12V バッテリーを点検します。

❶ 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



❷ レバーを押してボンネットを開ける。



ライト P. 299, 327

●ヘッドライト、後退灯、番号灯電球などの点検または交換を行います。
●電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
●ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。P. 366

タイヤ P. 312

●タイヤ、ホイールを点検します。
●降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

万一の場合には P. 331

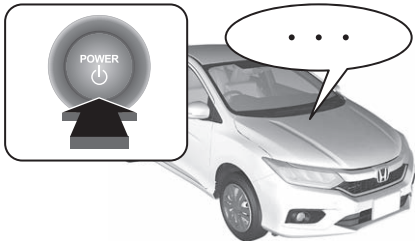
パンクした P. 333

●安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



パワーシステムが起動しない P. 345

●12V バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



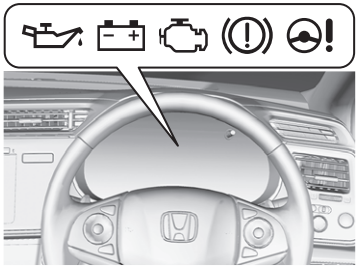
オーバーヒートした P. 351

●安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



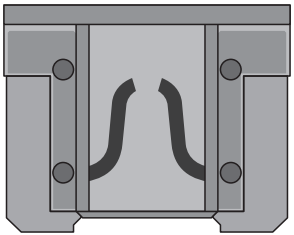
警告灯が点灯した P. 353

●詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



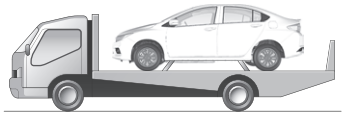
ヒューズが切れた P. 357

●室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



けん引してもらいたい P. 367

●必ず専門業者に依頼してください。



こんなときは

Q ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。
▶ABS(アンチロックブレーキシステム) P. 282

Q 後席ドアが車内から開けられない

A
- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A
- Honda スマートキーシステム で解錠してから、約 30 秒以内にドア、トランクを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A
- パワーモードをアクセサリーモードにしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？



Q ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る

A
- ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？
  ▶施錠するには（降車時オートロック機能） P. 133

Q 走行するとブザーが鳴る

A
- 運転席および助手席シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

A
- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q 車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションが P になって車が停止した

A
- 運転席シートベルトを着用していますか？
  運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。
  ▶ドア Open 自動パーキング選択制御 P. 205

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム（ハイオク）ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A
- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの
⚠警告	指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
⚠注意	指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 運転席および助手席のシートベルト着用の有無（E- プリテンショナー装備車）
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.30

安全なドライブのために 31　シートベルト 32　エアバッグ 39　お子さまの安全 48
排気ガスの危険性 63

計器の見かた P.64

警告灯と表示灯 65　メーターとマルチインフォメーションディスプレイ 96

各部の操作 P.123

時刻の設定 124　ドアの施錠と解錠 127　トランクの開閉 142　セキュリティシステム 145
ウィンドーの開閉 147　ハンドルまわりのスイッチ操作 149　ミラー類の調節 165
シートの調節 168　室内灯 / 室内装備品 174　エアコン 183

オーディオ P.191

オーディオ装置* 192

運転 P.193

運転の前に 194　運転操作 196　ブレーキ操作 280　駐停車操作 285
リヤワイドカメラシステム* 287　給油 288

メンテナンス P.291

メンテナンスの前に 292　エンジンルーム内のメンテナンス 295　電球の交換 299
ワイパーブレードラバーの点検と整備 308　タイヤの点検と整備 312　Honda スマートキー 319
エアコンのお手入れ 321　清掃 323　アクセサリーと改造 329

万一の場合には P.331

工具、発炎筒 332　パンクしたとき 333　ジャッキの取り扱い 343
パワーシステムが起動しない 345　ジャンプスタート 349　オーバーヒート 351
警告灯の点灯 / 点滅 353　ヒューズ 357　けん引 367

資料 P.368

仕様：Hybrid 369

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。



安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために
安全のための確認事項 31
シートベルト
シートベルトについて 32
シートベルトの着用 35
シートベルトの点検 38
シートベルトのアンカーポイント 38
エアバッグ
エアバッグの種類 39
SRS エアバッグ 39
サイドエアバッグ✤ 42
サイドカーテンエアバッグ✤ 44
エアバッグシステム警告灯 46
エアバッグのお手入れ 47
お子さまの安全
お子さまの安全を守るために 48
乳幼児の安全 49
大きなお子さまの安全 61
排気ガスの危険性
一酸化炭素について 63

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、トランクは完全に閉まっているか？
  ▶ すべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  車内での施錠 / 解錠 P.138
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  フロントシート P.168
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  フロントシート P.168
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  シートベルトの着用 P.35
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  エアバッグ P.39
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  お子さまの安全 P.48
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしているか？
  ▶ さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
  シフト操作 P.203

安全のための確認事項

ドアやトランクが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドア、トランクをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ P.80

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

≫シートベルトについて

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー



パワーモードをON モードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- シフトポジションを R にしたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

次ページに続く

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面✤ からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



≫シートベルトプリテンショナー

⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

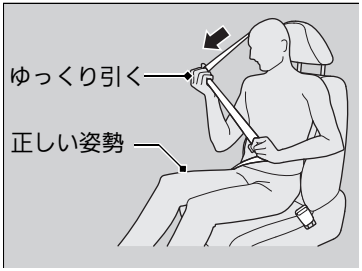
シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

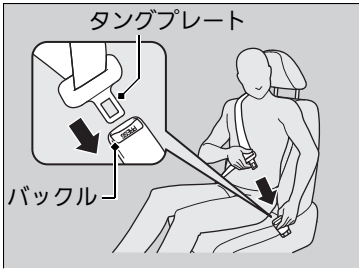
サイドカーテンエアバッグ装備車
側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

シートベルトの着用

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

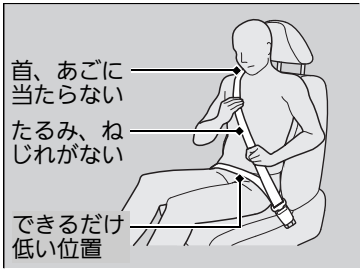
シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

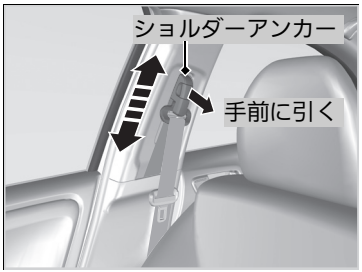
次ページに続く



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
- ▶肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
- ▶腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
- ▶ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

■ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンをつまんで手前に引きながら、アンカーを上下に動かす。
2. 適切な高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

≫ショルダーアンカーの高さ調節

⚠注意

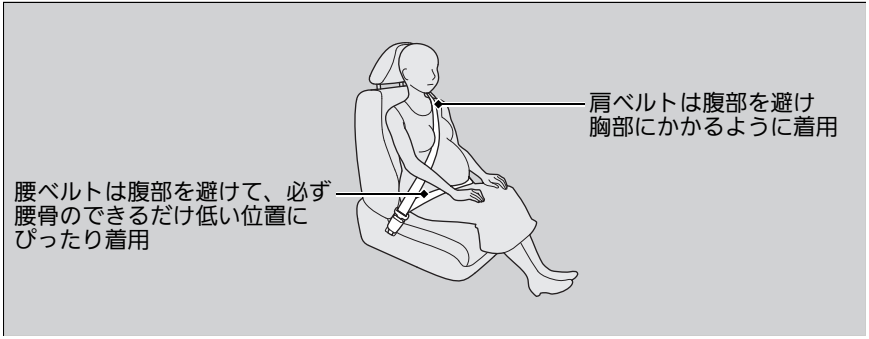
調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

■妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

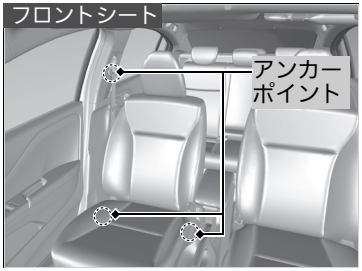
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

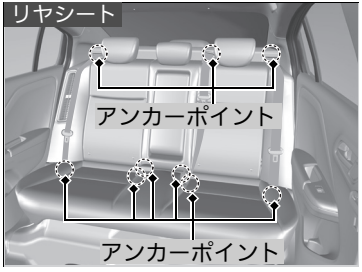
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ***：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ***：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

■格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠警告

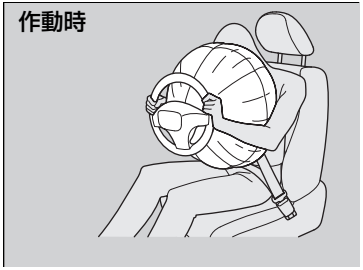
エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

■ SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

⚠注意

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ*

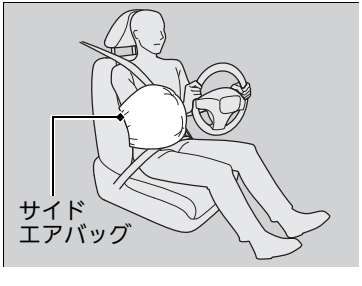
フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

■格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

■作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

▶サイドエアバッグ*

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

サイドエアバッグ*

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

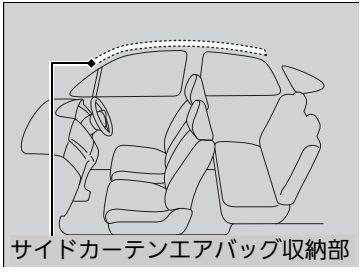
サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたってはHonda販売店にご相談ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

サイドカーテンエアバッグ*

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

■格納場所


サイドカーテンエアバッグ収納部

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

≫サイドカーテンエアバッグ*

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

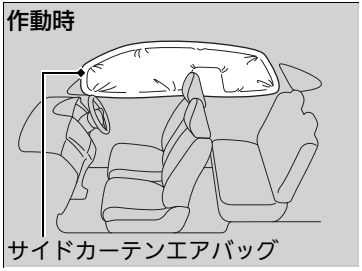
- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

➡ **作動条件** P.43

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグ*

⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。
収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

≫エアバッグシステム警告灯

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合はHonda販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

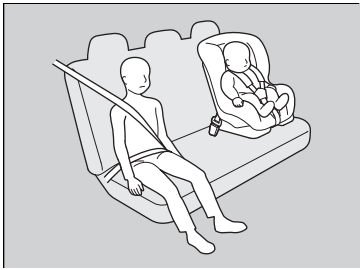
一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

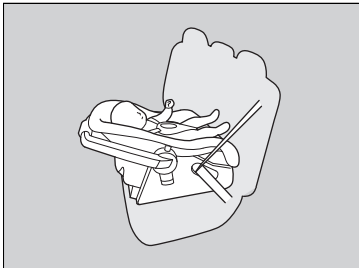
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- サイドエアバッグシステム装備車は、お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

≫乳児のチャイルドシート

⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

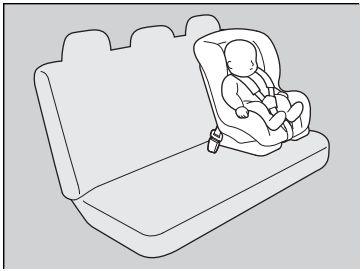
後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

次ページに続く

■幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

≫幼児のチャイルドシート

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジまたはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3 つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN-ECE R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

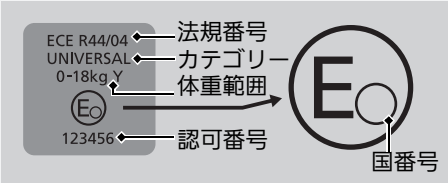
次ページに続く

▨チャイルドシートの選びかた

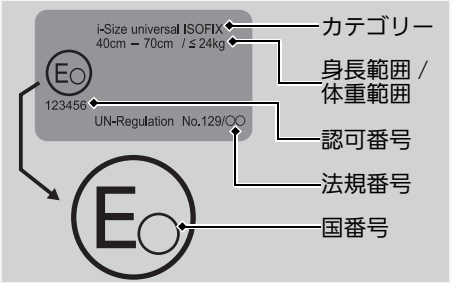
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けが簡単です。
ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN-ECE R44 認可表示(例)



UN-ECE R129 認可表示(例)



■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

この車のリヤシートの外側 2 座席には、ISOFIX/i-Size チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■ISOFIX チャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ等級	固定具	座席位置 前席 助手席	座席位置 後席 外側席	座席位置 後席 中央席	推奨チャイルドシート※
キャリコット	F	ISO/L1	X	X	X	—
	G	ISO/L2	X	X	X	—
グループ 0 ～ 10kg	E	ISO/R1	X	IL	X	Honda ISOFIX Neo (後向き)
グループ 0 ＋ ～ 13kg	E	ISO/R1	X	IL	X	Honda ISOFIX Neo (後向き)
	D	ISO/R2	X	IL	X	Honda ISOFIX Neo (後向き)
	C	ISO/R3	X	IL	X	Honda ISOFIX Neo (後向き)
グループ I 9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	X	IL	X	—
	C	ISO/R3	X	IL	X	—
	B	ISO/F2	X	IUF	X	Honda ISOFIX Neo (前向き)
	B1	ISO/F2X	X	IUF	X	Honda ISOFIX Neo (前向き)
	A	ISO/F3	X	IUF	X	Honda ISOFIX Neo (前向き)
グループ II 15kg ～ 25kg			X	X	X	—
グループ III 22kg ～ 36kg			X	X	X	—

ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

Honda純正Honda Baby ISOFIXまたはHonda ISOFIX NEO のご購入はHonda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

記号の説明

表中に記載の推奨チャイルドシート、またはチャイルドシートメーカーの適合リストにこの車に搭載できると示すチャイルドシートを備えることができます。

IL　：表中に記載された特定 ISOFIX　チャイルドシートが装着できることを示す。このISOFIX チャイルドシートは「特定」「限定」または「準汎用」カテゴリーのものである。

IUF　：汎用型（ユニバーサル）ISOFIX チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。

X　：ISOFIX チャイルドシートを取り付けできません。

※　：Honda 推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。

他のチャイルドシートも使用に適しているものはありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

■i-Size チャイルドシート

	着席位置				推奨チャイルドシート※
	前席 助手席	後席 右席	後席 左席	後席 中央席	
i-Size チャイルドシート	X	i-U	i-U	X	Honda Baby & Kids i-Size

記号の説明

i-U　：前向きおよび後ろ向きの i-Size 汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを備えることができることを示す。

X　：i-Size 汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを装備できないことを示す。

※　：Honda 推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。

他のチャイルドシートも使用に適しているものはありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

次ページに続く

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■シートベルト固定タイプチャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	座席位置			推奨 チャイルドシート※2
	前席 助手席	後席 外側席	後席 中央席	
グループ 0 ～ 10kg	X	U	U	Honda スタンダード
グループ 0＋ ～ 13kg	X	U	U	Honda スタンダード
グループ I 9kg ～ 18kg	UF※1	U	U	Honda スタンダード
グループ II 15kg ～ 25kg	UF※1	U	U	Honda ジュニアシート
グループ III 22kg ～ 36kg	UF※1	U	U	Honda ジュニアシート

記号の説明

U　：汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが取り付け可能です。
UF　：汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。
X　：チャイルドシートを取り付けできません。
※1：シートの前後位置を最後方位置に調整し、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。
※2：Honda 推奨の純正チャイルドシートです。詳しくは販売店にお問い合わせください。
他のチャイルドシートも使用に適しているものはありますが、チャイルドシートメーカーにご確認ください。

シートベルトで固定するチャイルドシートについて

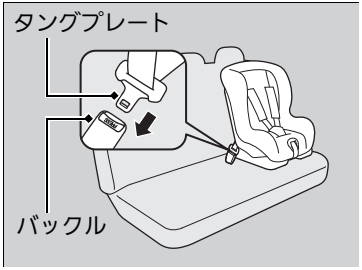
チャイルドシートに関する国連の安全基準であるUN-ECE R44に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

チャイルドシートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

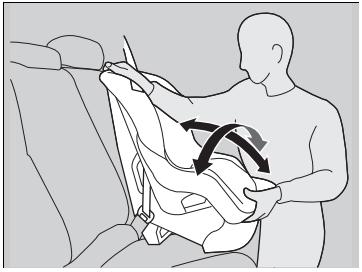
■シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。

2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。

▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。

4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

シートベルトでの取り付け

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

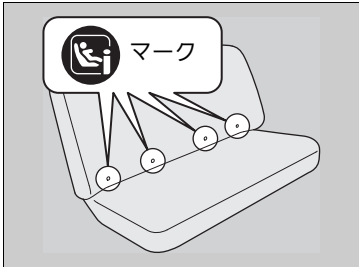
チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

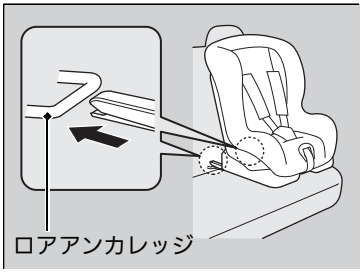
次ページに続く

■ ISOFIX/i-Size 対応アンカレッジでの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目からロアアンカレッジを確認する。



2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。

▶取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

≫ISOFIX/i-Size 対応アンカレッジでの取り付け

⚠注意

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

リヤシートが確実に固定されているか確認する。

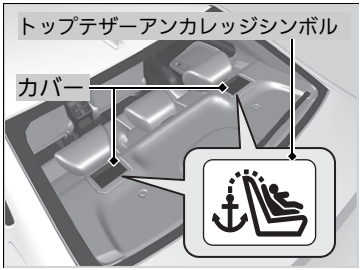
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

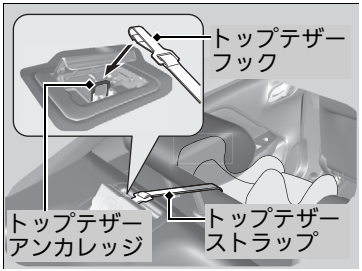
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



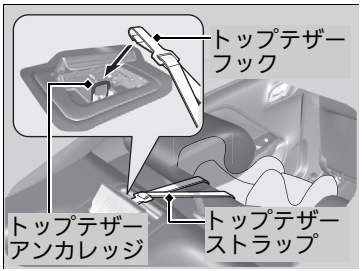
3. カバーを開ける。



4. ヘッドレストを調整して最上段で固定し、トップテザーストラップをヘッドレストの下に通す。

5. トップテザーフックをトップテザーアンカレッジに引っかけ、ストラップを締める。

▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。



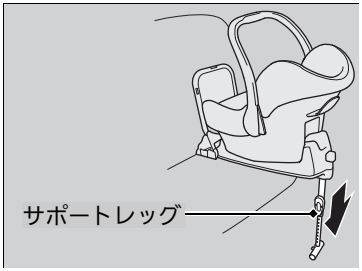
6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

ISOFIX/i-Size 対応アンカレッジでの取り付け

⚠注意

トップテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

次ページに続く



サポートレッグ付きチャイルドシート

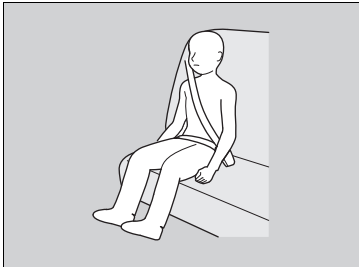
4. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

▶ サポートレッグを設置するフロア面は平坦な面であることを確認してください。

大きなお子さまの安全

■シートの使用について

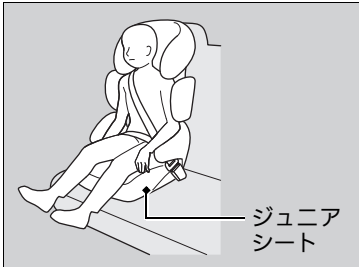
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

■ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

次ページに続く

大きなお子さまの安全

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

一酸化炭素について

⚠警告

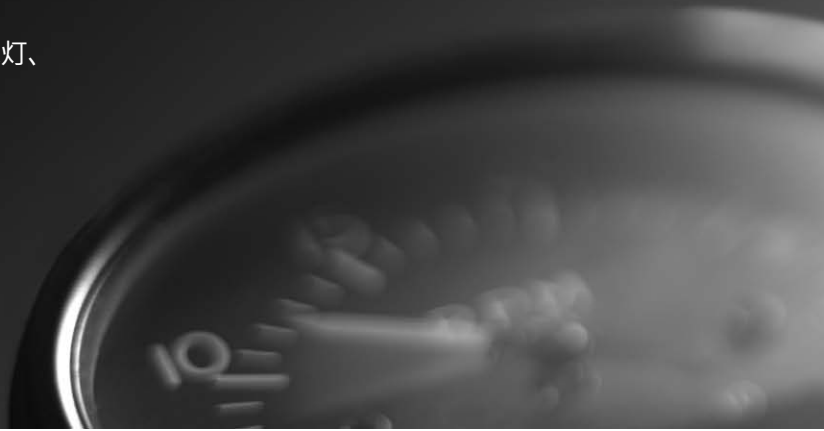
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、
メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯

警告灯 65
表示灯 75
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ..... 80

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

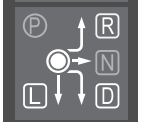
メーター..... 96
マルチインフォメーションディスプレイ..... 98

警告灯

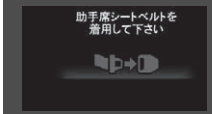
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	ブレーキ警告灯（レッド）	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯（パーキングブレーキをかけているときは点灯） • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • パーキングブレーキをかけると点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **ブレーキ警告灯（レッド）が点灯した** P.355 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。	  

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	油圧警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯**＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 ➡ **油圧警告灯が点灯した** P.353	
	PGM-FI 警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • パワーシステムを起動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	➡ **PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した** P.354	
	12V バッテリー充電警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • 12V バッテリーが充電されていないと点灯	• 安全な場所に停車して、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.354	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
  （全点灯）	トランスミッション警告灯（シフトポジション表示灯）	• トランスミッションを調整しているときに全てのシフトポジションが点灯	• 点灯中は一時的に加速ができません。 • 異常がなければ数秒後に消灯します。 • 消灯後は通常通り走行できます。	
		• トランスミッションが異常のときに選択しているシフトポジションが点滅	• 急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• トランスミッションの異常で走行できないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが点滅	• ただちに安全な場所に車を停車してください。 ➡ **非常時のけん引** P.367 • Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを P にできないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが点滅	• 応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 ➡ **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.356 • 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席または助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードを ON モードにしたときに、運転席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 • 走行中に運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➡ **シートベルトリマインダー** P.33	 
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ABS が異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ➡ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.282	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ

	エアバッグシステム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯
		• 下記の異常を検出すると点灯
		  • エアバッグシステムの異常
		  • プリテンショナーシステムの異常
			• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	

	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 電動サーボシステムが異常のときに点灯 • ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	
		• ヒルスタートアシストシステムが異常のときに点灯	• ヒルスタートアシストシステムが故障して作動しません。Honda販売店で点検を受けてください。	

次ページに続く

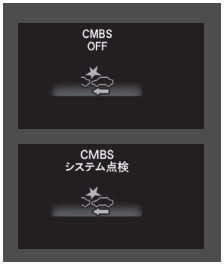
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA が作動しているときは点滅 • ブレーキアシストシステム、VSAシステムのいずれかが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➡ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.215	
	VSA OFF 警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • VSA を OFF にすると点灯	➡ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.215	—
	Honda スマートキーシステム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	• 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯した • パワーシステム起動後も消灯しない • パワーモードがOFFモードのときに数秒間点灯した • パワーモードをOFFモードにしたときに数秒間点灯した	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、パワーシステム起動で消灯 • EPS(電動パワーステアリング)システムの機能に異常があると点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した** P.355	
	高水温警告灯(レッド)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • エンジンの冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯	• エンジン冷却水の温度が低いときは、消灯後ブルーで点灯します。 ➡ **低水温表示灯(ブルー)** P.76	—
			• **走行中に点滅**＝ゆっくり走行してください。	
			• **走行中に点灯**＝ただちに安全な場所に車を停車し、エンジンを冷やしてください。 ➡ **オーバーヒート** P.351	

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
POWER SYSTEM	パワーシステム警告灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワーシステムが異常のときに点灯	• **走行中に点灯**＝ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
ACC	ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯✤ (オレンジ)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)警告灯✤ (オレンジ)	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • LKAS が異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯✤	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • CMBSをOFFにしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯	• OFFにしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.219	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下るとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.277 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.219	
		• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **レーダーセンサー** P.279 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）** P.219	

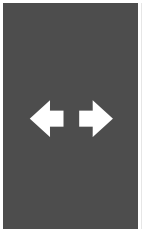
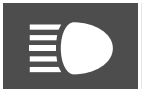
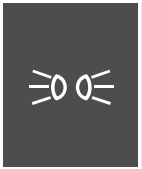
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	路外逸脱抑制機能警告灯✤	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 路外逸脱抑制システムに異常があるとき点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.277 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.259	
		• フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **レーダーセンサー** P.279 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.259	

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 • 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➡ **電球の交換** P.301, 302, 303 ➡ **エマージェンシーストップシグナル** P.284	—
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	• ライトスイッチがOFF以外のときに点灯(AUTO✤のときは車幅灯点灯時に点灯)	• ライトを点灯したままパワーモードをOFFモードにしているとき、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
	フォグライト点灯表示灯✤	• フォグライトを点灯させると点灯	—	—
	オートハイビーム表示灯✤	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • オートハイビームの動作条件がすべて揃った時に点灯	➡ **オートハイビーム✤** P.156	—

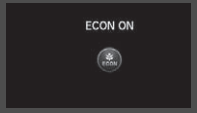
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	低水温表示灯（ブルー）	• エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	• 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。	—
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➔ セキュリティアラームシステム P.145	—
	イモビライザーシステム表示灯	• パワーモードを ON モードにすると一瞬点灯し、すぐに消灯 • イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• 一瞬の点灯は異常ではありません。 • 点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • POWER スイッチのそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
ⓘ	インフォメーション表示灯	• 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯	• メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは警告が解除されるか、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにインフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押すと、メッセージを再表示させることができます。	—
EV	EV 表示灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • モーターだけでの走行になると点灯します	—	—
READY	READY 表示灯	• パワーシステム起動後、走行が可能な状態のときに点灯	• トランスミッション警告灯が点灯すると消灯します。 ➡ **パワーシステムの起動** P.196	

次ページに続く

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
S	S モード表示灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • パワーモードが ON モードのとき、S モードスイッチを押すと点灯	**S モードスイッチ** P.209	—
	ECON 表示灯	• パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 • ECON スイッチを押して、ECON モードにすると点灯	**ECON スイッチ** P.209	
	シフトポジション表示灯（トランスミッション警告灯）	• パワーモードが ON モードのときに表示 • 現在のポジションで点灯	**シフト操作** P.203	—
	シフトインジケーター✤	• 7 速マニュアルシフトモードのとき、ギヤ位置を表示 • シフト操作しても変速しないと点滅	**シフト操作** P.203	—
M	M（7 速マニュアルシフトモード）表示灯✤	• 7 速マニュアルシフトモードのときに S モードスイッチを押すと点灯	**シフト操作** P.203	—

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
CRUISE MAIN	クルーズメイン表示灯✤	• CRUISE スイッチを押して、クルーズコントロールを ON にすると点灯	➡ **クルーズコントロール✤** P.211	—
CRUISE CONTROL	クルーズコントロール表示灯✤	• クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯	➡ **クルーズコントロール✤** P.211	—
ACC	ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯✤(グリーン)	• MAIN スイッチを押して、ACC を ON にすると点灯	➡ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.234	—
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)表示灯✤(グリーン)	• MAIN スイッチを押して、LKAS を ON にすると点灯	➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.248	—

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(🛈)スイッチ(▲/▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 走行中、車両の異常で走行できないときに表示	• ただちに安全な場所に車を停車してください。
	• 車両の異常でシフトポジションを[P]にできないときに表示	• 停車したときはパーキングブレーキをかけてください。 ➔ **パーキングブレーキ** P.280 • 応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 ➔ **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.356 • Honda販売店で点検を受けてください。
	• パワーモードを再度 ON モードにすることで、走行を続けられるときに表示	➔ **パワーシステムの起動** P.196

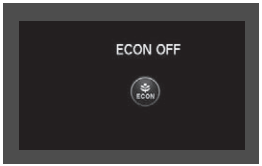
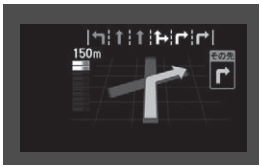
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードが ON モードのときに、外気温が 3 ℃以下になると 1 回のみ表示	—
	• シートベルトを着用しないで、パワーモードを ON モードにすると表示	• 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。
	• ドア Open 自動パーキング選択制御により自動で P になった後、ドアを閉めずにシートベルトを装着しないままシフト操作し、ブレーキペダルを離すと表示	➡ **自動パーキング選択制御** P.205
	• エンジンの冷却システムが異常のときに表示	• すみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• スターターシステムが異常のときに表示	• ブレーキを踏んだまま、 POWER をパワーシステムが起動するまでおよそ 15 秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 燃料の残量が少なくなると表示 • 表示するのは、タンクに残っている残量がおよそ 5.3 リットルになったときです	• 表示されたときは、早めに給油してください。 • 燃料計の燃料残量警告が表示されます。 ➲ **燃料計** P.101
	• 燃料計に異常があるときに表示	• 表示されたときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• ドアが完全に閉まっていないときに表示 • 走行中、ドアを開けるとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告メッセージが表示	• ドアを完全に閉めると、表示が消えます。
	• トランクが完全に閉まっていないときに表示	• トランクを完全に閉めると、表示が消えます。
	• ドアとトランクが完全に閉まっていないときに表示	• ドアとトランクを完全に閉めると、表示が消えます。

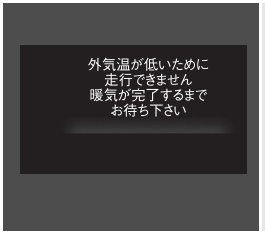
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車輌接近通報システムに異常があると表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• パワーモードが ON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。 ➡ **Honda スマートキー持ち去り警告** P.151
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	➡ **電池交換のしかた** P.319
	LED ヘッドライト装備車 • ロービームヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **ライトスイッチ** P.153

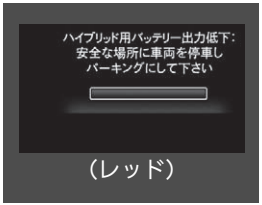
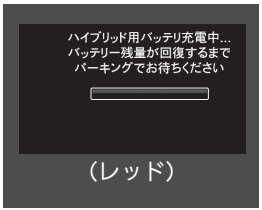
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• シフトポジションがPを以外のときに、マルチインフォメーションディスプレイの車両設定をすると表示	➔ **カスタマイズのしかた** P.112
	• ECON スイッチを押して、ECON モードをOFFにすると表示	➔ **ECON スイッチ** P.209
	メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車 • ルート案内の際に、交差点案内表示が表示	➔ **別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」**
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに運転席のドアを開けると表示	• ブレーキペダルを踏まずにPOWERを2回押して、パワーモードをOFFモードにしてください。 ➔ **POWER スイッチ** P.149

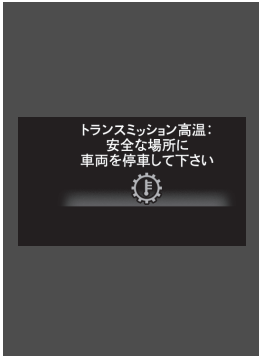
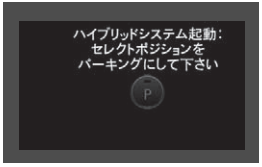
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに表示	➔ **パワーシステムの起動** P.196
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にないときに、警告音と同時に表示	➔ **Honda スマートキーの微弱電波** P.129 ➔ **POWER スイッチ** P.149 ➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.347
	• パワーモードがアクセサリーモードのときに表示	—
	• 12V バッテリーセンサーの機能に異常があると表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • **12V バッテリー充電警告灯が同時に点灯しているとき**＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどをOFFにし、対処してください。 ➔ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.354

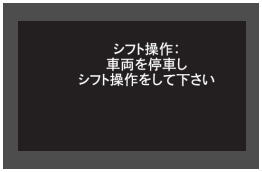
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 外気温の影響により高電圧バッテリーの温度が著しく低いとき(− 30 ℃以下)	• 高電圧バッテリーの温度が上昇するまで走行できません。 • アクセルを踏んでもエンジン回転数はあがりません。 • 車内を暖房すると高電圧バッテリーが暖まり、 走行可能になるまでの時間を短縮できます。
	• パワーモードを ON にしたとき、高電圧バッテリーの充電が必要なため、継続して走行が必要なとき	• 運転を継続してください。必要ならメッセージが消えるまでアイドリングしてください。
	• 高電圧バッテリーの温度が極度に低いとき(− 40 ℃以下)	• バッテリー温度が上がるまでお待ちください。または温度の高い所へ移動してください。 • 必要に応じて Honda 販売店に相談してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 12V バッテリー充電警告灯点灯後に表示	• 加速しにくくなります。また、上り坂などで発進が困難になる場合があります。 • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• 継続した低速走行により発電量が低下し、高電圧バッテリーの残量が著しく低下したとき	• 車速を上げることやブレーキを踏んで停車することで、高電圧バッテリーの残量低下を抑えることができます。
 （レッド）	• さらに高電圧バッテリーの容量が低下し、充電するために停車が必要になったとき	• 安全な場所に停車し、シフトポジションを P にして、アイドリング状態で高電圧バッテリーを充電します。
 （レッド）	• 高電圧バッテリーの容量が少ないため、停車後、アイドリングによる充電中のとき	• READY 表示灯が点灯するまでパーキングブレーキをかけて車を発進させないでください。 ➡ **READY 表示灯** P.77

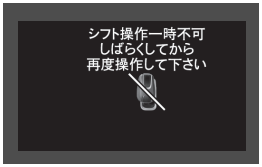
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• トランスミッションの温度が高温になり、通常走行ができないとき	• 加速しにくくなる場合や、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • ただちに安全な場所に車を停車してください。 • メッセージが消えるまでアイドリングでトランスミッションを冷やしてください。 • メッセージ消灯後はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **駐停車操作** P.285
	• パワーシステムを起動するときに P 以外のシフトポジションが選択されているとき	• パーキングスイッチを押してください。
	• ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したとき	• ブレーキペダルを踏んで、セレクトレバーの操作を行ってください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• アクセルペダルから足を離さずに、シフトポジションの P N から他のシフトポジションを選択したとき	• アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んで、セレクトレバーの操作を行ってください。
	• D 以外が選択されているときに、 L のシフトポジションを選択したとき	• D を選択してから L を選択します。 ➡ **セレクトレバーの操作** P.204
	• 停車させずにパーキングスイッチを押したとき • 走行中、停車させずに進行方向と反対のシフトポジションを選択したとき	• セレクトレバーを操作する時は、はじめに停車させてください。

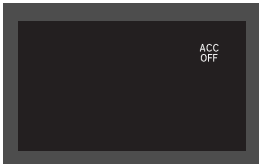
次ページに続く

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 電気系統に失陥の可能性があると表示 • 走行中にパワーモードを OFF にすると表示	• ただちに安全な場所に車を停車してパーキングブレーキをかけてください。 • メッセージが消えれば異常はありません。 • 異常があるとトランスミッション警告灯が点灯 / 点滅します。 ➡ **トランスミッション警告灯** P.67
	• 停車後にシフトポジションを N にし、5 秒以内に POWER スイッチを押したとき	• シフトポジションは N で保持されますが、約 15 分経過すると自動的に P になります。 ➡ **アクセサリーモード時のＮポジション保持制御** P.205
	• 車両が停止中に運転者がシートベルトを外し、車両が動く可能性があるとき表示	• 停車中や車外に出るときは、ブレーキペダルから足をはなす前にパーキングスイッチを押してください。
	CMBS 装備車 • CMBS を OFF にしているときに CMBS の車両設定をすると表示	• CMBS を ON にしてください。 ➡ **CMBS の ON と OFF** P.222

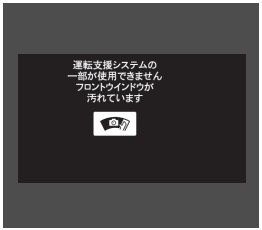
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• シフトポジションがNのときにアクセルペダルを踏むと表示	• アクセルペダルから足を離してください。走行するときは、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• シフトポジションのPとそれ以外のポジション切り換え操作を短時間のあいだに繰り返すと表示	• しばらく時間をおいてからシフトポジションを切り換えてください。
	• 走行中にPOWERを押したときに表示	➡ **緊急時のパワーシステム停止方法** P.348
	• トランスミッションに異常が発生し、シフトポジションをRにできないときに表示	• Honda販売店で点検を受けてください。
	• シフトポジションがRへ移行するときに、通常より時間がかかる場合に表示	• メッセージが消えるまでブレーキペダルを踏み続けてください。 • Honda販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

ACC(アダプティブクルーズコントロール)装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ACC の作動が自動的に解除されたとき	• ACC が自動解除になった原因が解決された場合、RES/+ を押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.234
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.234 ➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.219
	• フロントグリルに遮蔽物があり前の車両等が検知しにくくなり、ACC、先行車発進お知らせ機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントグリルの遮蔽物を拭き取ってください。 ➔ **レーダーセンサー** P.279 ➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.234 ➔ **先行車発進お知らせ機能** P.266 ➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.228
	• フロントセンサーカメラの温度が異常に上がり、ACC、LKAS、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ** P.277 ➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.234 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)** P.248 ➔ **標識認識機能** P.270 ➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.228

ACC(アダプティブクルーズコントロール)装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• フロントガラスに遮蔽物があるとき、ACC、LKAS、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントガラスの遮蔽物を取り除いてください。 ➡ **フロントセンサーカメラ** P.277 ➡ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.234 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.248 ➡ **標識認識機能** P.270 ➡ **歩行者事故低減ステアリング** P.228
	• 車線を越えそうになると、ハンドルの振動による警告と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.248 ➡ **路外逸脱抑制機能** P.259
	• ハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	• ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 ➡ **路外逸脱抑制機能** P.259
	• LKAS システムに異常が起こり LKAS の作動が解除されたとき、または LKAS システムに異常がある場合に LKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	• VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と同時に点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **LKAS(車線維持支援システム)** P.248

次ページに続く

ACC(アダプティブクルーズコントロール)装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 先行車発進お知らせ機能が作動すると表示	**先行車発進お知らせ機能** P.266

ETC 車載器装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• ETC の利用ができないときに表示	• ETC 車載器の詳細は、別冊のメーカーオプション「ETC 車載器」取扱説明書をお読みください。

オートハイビーム装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• オートハイビームに異常があると表示	• ヘッドライトスイッチを手動で操作してください。 • ハイビーム点灯中に表示された場合は、ロービームに切り替わります。
	• フロントガラスが汚れてオートハイビームが使用できなくなると表示	• フロントガラスの付着物を取り除いてください。 • 付着物を取り除いても表示が消えないときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **オートハイビーム✤** P.156

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メーター

メーターには、スピードメーター、パワー表示(POWER)、チャージメーター表示(CHARGE)などの種類があります。
パワーモード が ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE)

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態をバーグラフで表示します。

パワー表示(POWER)/　チャージメーター表示(CHARGE)

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示 P.108

■時計

時刻を表示します。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h)を変えたり時刻調整をすることができます。

➡ **時計の設定** P.124

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3℃の範囲で補正することができます。

補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

➡ **カスタマイズ機能** P.110

▨時計

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

カスタマイズの詳細は、別冊の「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

▨外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。

また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

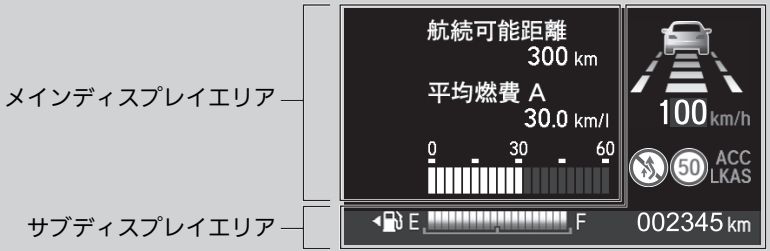
外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が3℃以下の場合は、外気温低下メッセージが表示されます。

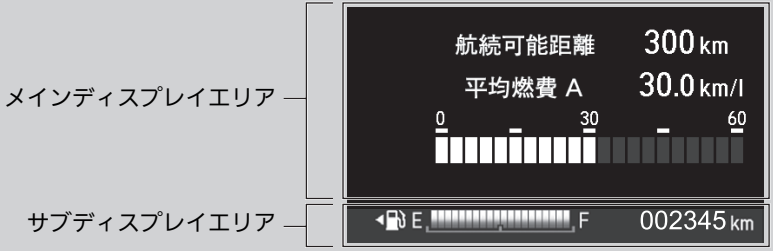
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、燃料計、高電圧バッテリー残量、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

ACC 装備車



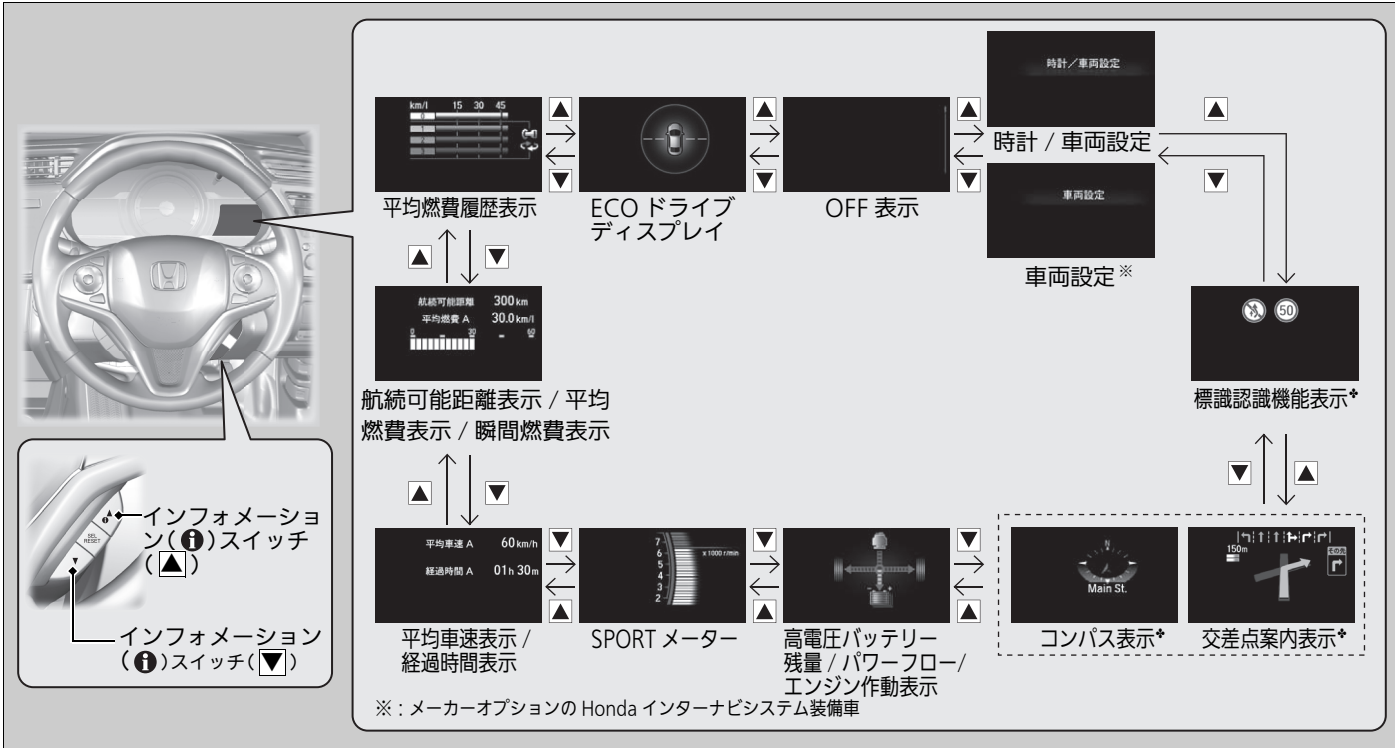
ACC 非装備車



■表示の切り換えかた

■メインディスプレイ

インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を操作するごとに、表示が下記のように切り換わります。

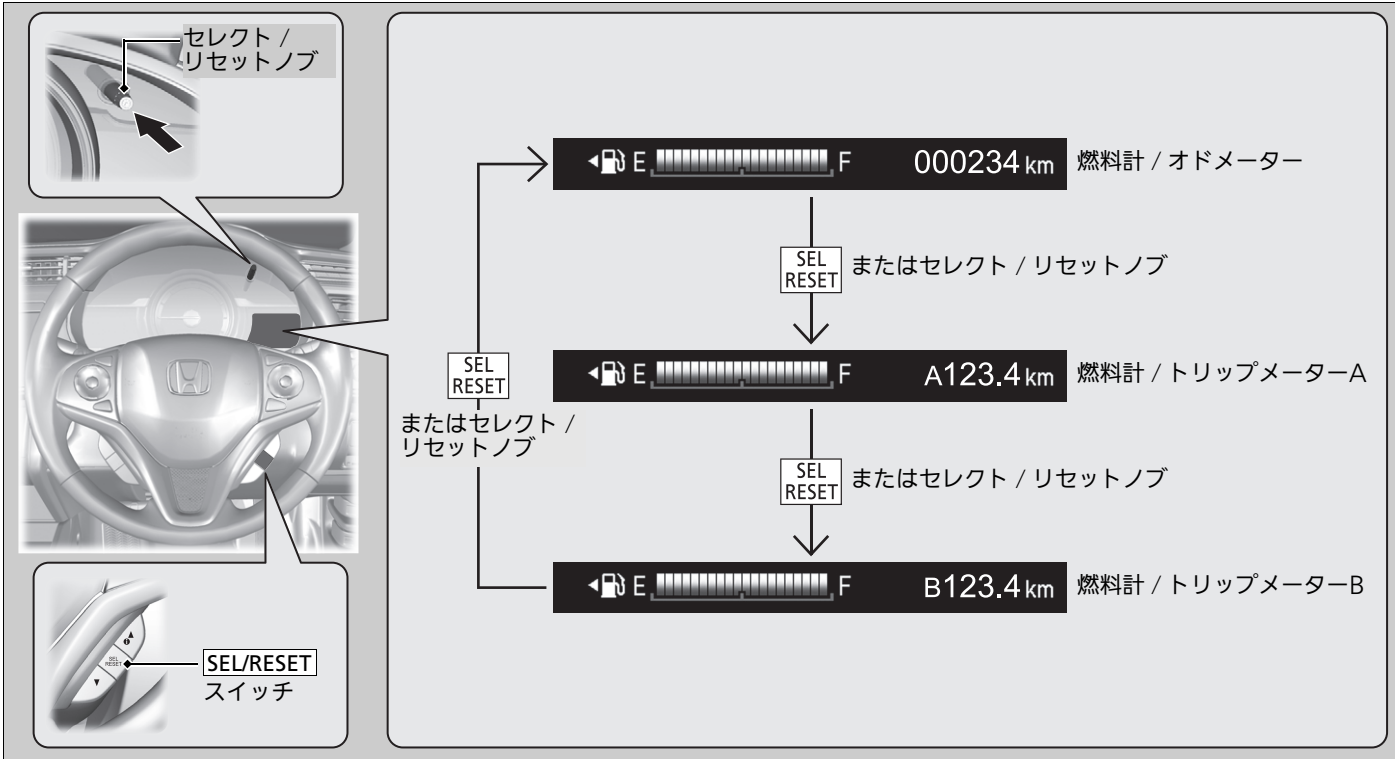


✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■サブディスプレイ

SEL/RESET または、セレクト / リセットノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

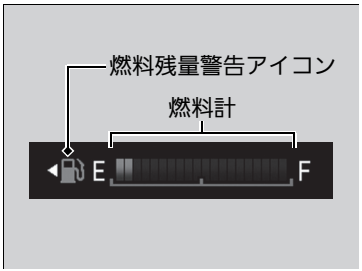
リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、 SEL/RESET を押し続けてください。
トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。



■燃料残量警告

燃料の残量が少なくなると表示がオレンジ色になります。表示がオレンジ色になったら早めに給油してください。
燃料計に異常があるときは、燃料残量警告アイコンが点滅します。

➡ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.80

トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

トリップメーターA とトリップメーターBは、 SEL/RESET または、セレクト/リセットノブを押して切り換えます。

燃料計

アドバイス

燃料計が「E」に近づいたら、早めに給油してください。
燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

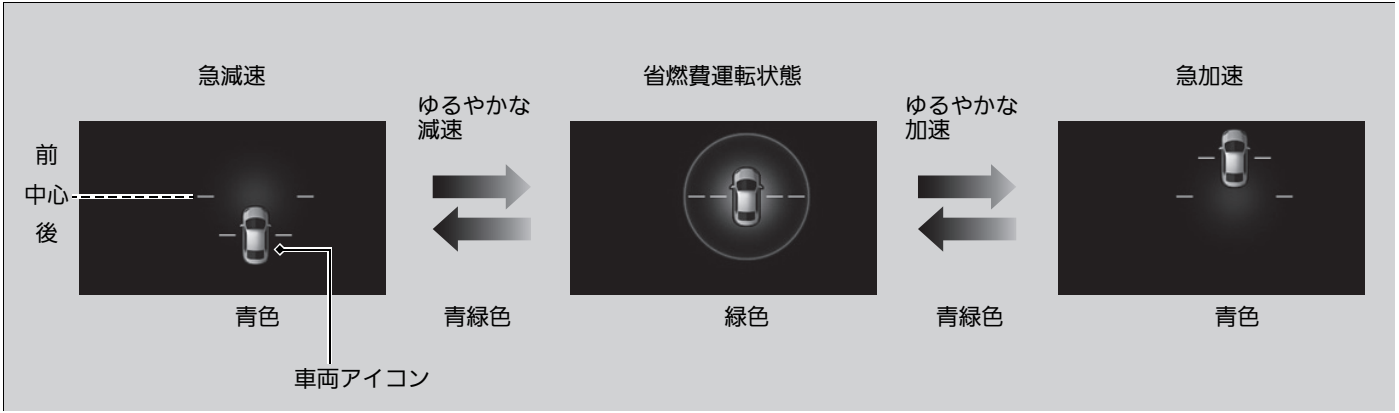
実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

次ページに続く

■ ECO ドライブディスプレイ /ECO スコア

■ECO ドライブディスプレイ

運転操作の状態に応じて車両アイコンが前後に移動します。
急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。
車両が中心からずれないように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。



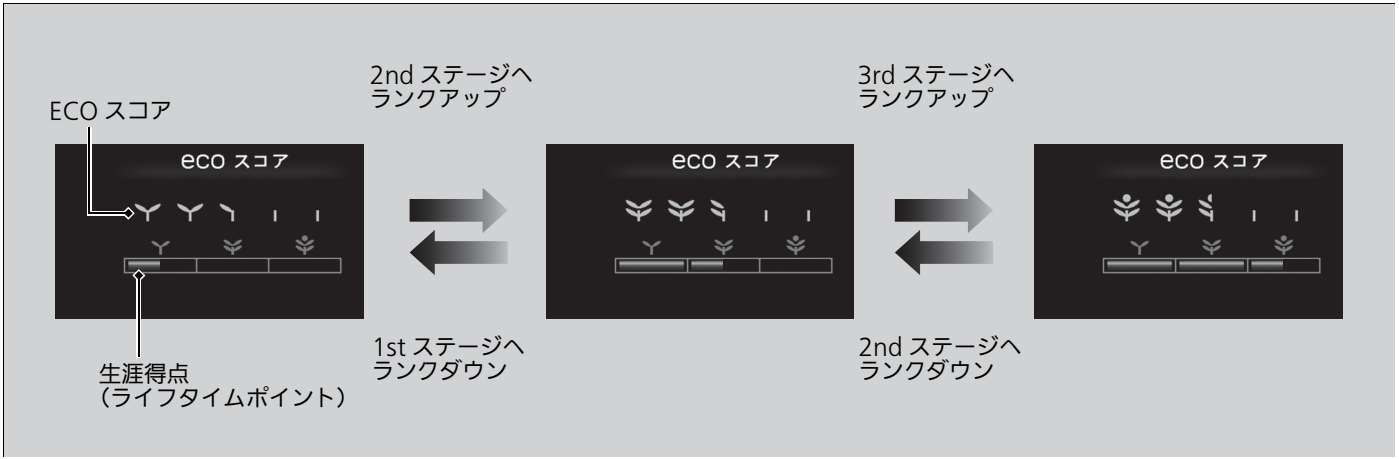
運転操作の状態に応じて車両アイコンの周囲の色が変化します。
緑色：省燃費状態
青緑色：緩やかな加減速状態
青色：急加減速状態

▶ECO ドライブディスプレイ

ECO ドライブディスプレイの表示は、アンビエントメーターの色と連動しています。

■ECO スコア

パワーモードを OFF にすると、数秒表示されます。
1st ステージから 3rd ステージまで 3 つのランクがあり、運転操作の状態に応じてリーフが増減し、ランクアップ(ダウン)します。



次ページに続く

■ECO スコアのリセット

1. シフトポジションが P であることを確認し、パワーモードを ON モードにする。
2. ECONモードがONのときは、ECONスイッチを押してECONモードをOFFにする。
3. パワーモードを OFF モードにする。
4. 再度パワーモードを ON モードにする。
▶ 手順 4 ～ 6 は、30 秒以内に行ってください。
5. ブレーキペダルを 2 回踏み込む。
▶ アンビエントメーターがブルーからグリーンに変わります。
▶ カスタマイズ設定で「メーター背景色変化」を OFF に設定しているときは、ブルーのまま変化しません。
6. ECON スイッチを 2 回押す。
▶ アンビエントメーターがグリーンから消灯に変わります。
7. パワーモードを OFF モードにする。

■平均燃費履歴表示



走行時の平均燃費履歴を過去３回分表示します。
パワーモードを ON モードにすると更新され、最も古い履歴が消去されます。

■平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

■平均燃費

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。
トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■瞬間燃費

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

»平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.110

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

次ページに続く

■航続可能距離表示

高電圧バッテリーの残量と燃料、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

車両停止状態でも EV 航続可能距離が変動する場合があります。

■経過時間表示

トリップメーターA、B と連動し、ハイブリッドシステムを起動してから停止するまでの時間を表示します。

経過時間表示

経過時間表示は99時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

カスタマイズ機能 P.110

■平均車速表示

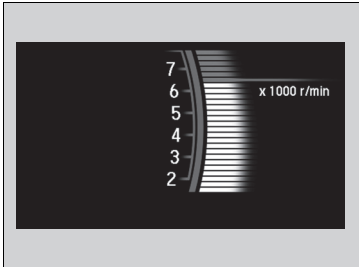
トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

カスタマイズ機能 P.110

■ SPORT メーター



1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

S モードスイッチを押すと表示されます。

➔ **S モードスイッチ** P.209

また、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を操作して、表示させることができます。

➔ **表示の切り換えかた** P.99

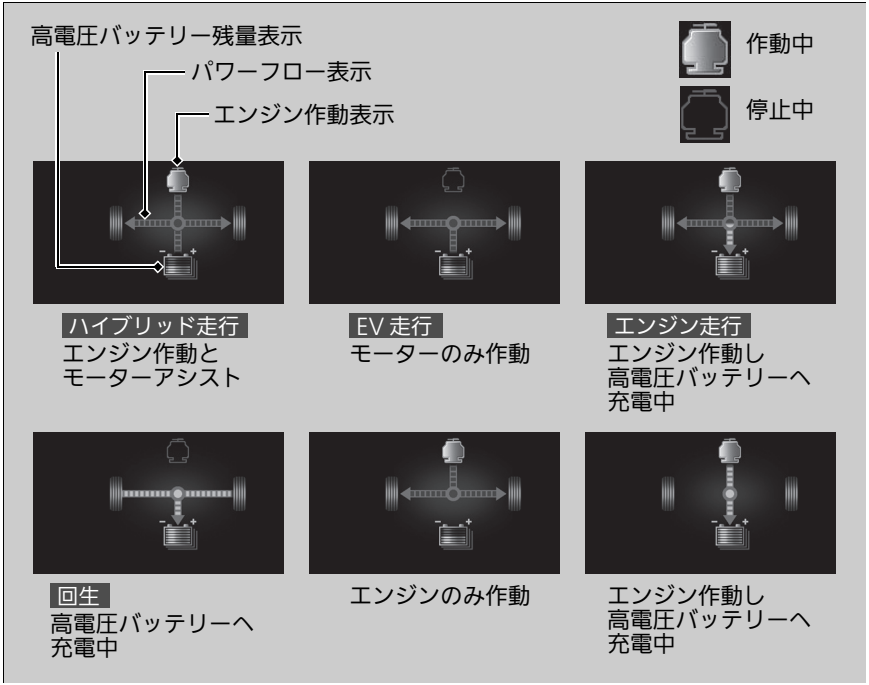
SPORT メーター

シフトポジションが R のとき、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

次ページに続く

■高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示

高電圧バッテリーの残量や、高電圧バッテリーへの充電、アシスト状態を表示します。



≫高電圧バッテリー残量 / パワーフロー / エンジン作動表示

パワー表示(POWER)とチャージメーター表示(CHARGE)の動きとパワーフロー / エンジン作動表示の動きは、状況により一致しない場合があります。

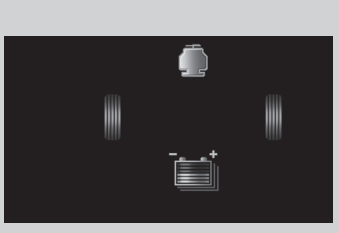
➡ パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE) P.96

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

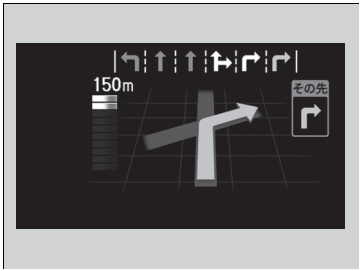
- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

走行すると自動的に充電されます。

アイドリング中で、高電圧バッテリーを充電していないとき下記が表示されます。



■交差点案内表示 / コンパス表示*



ナビゲーションシステムと連動して、交差点での曲がる方向や交差点までの距離を表示します。

➔ 別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」

■ ACC(アダプティブクルーズコントロール)/LKAS 表示*

ACC/LKAS の現在の状態を表示します。

■標識認識機能表示*

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

➔ 標識認識機能 P.270

≫交差点案内表示 / コンパス表示*

交差点案内表示を選択しているとき、案内する項目がない場合はコンパスが表示されます。

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

➔ カスタマイズ機能 P.110

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
時計設定✤	時刻調整	時間(AM/PM 1 ～ 12)※/(0 ～ 23)、分(00 ～ 59)
	時計表示	24h、12h※、非表示
運転支援システム設定✤	CMBS 警報距離	Far、Normal※、Near
	ACC 先行車検知音	有り、無し※
	先行車発進お知らせ設定	標準※、早め、OFF
	路外逸脱抑制システム設定	アシストタイミング早め、アシストタイミング標準※、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ
	レーンキープアシストシステム制御解除警報音	ON、OFF※
	標識認識機能	常駐表示 ON※、常駐表示 OFF
メーター設定	外気温表示補正	−3 ℃～ ±0 ℃※～ +3 ℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ※
	TRIP B 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ※
	アンビエントメーター照明色変化設定	ON※、OFF
	交差点案内表示✤	ON※、OFF
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量	大※、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動※、非作動
ライティング設定	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒※、15 秒
	オートライト感度	MAX、HIGH、MID※、LOW、MIN

※：工場出荷時の設定

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

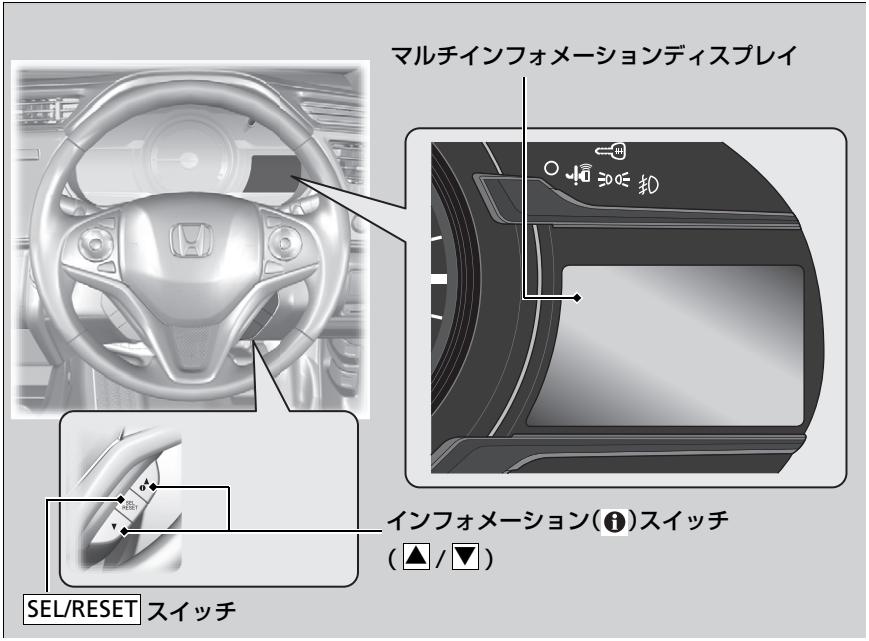
カスタマイズ機能		選択できる設定内容
ドア設定	自動ドアロック連動機能	車速連動※、シフト連動、非連動
	自動ドアアンロック連動機能	シフト連動※、IGN OFF 連動、非連動
	降車時オートドアロック	作動、非作動※
	キーレスアンサーバック	作動※、非作動
	キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒※
	セキュリティー機能	作動※、非作動
	オートリトラミラー格納	キーレス連動※、手動のみ
初期化設定		中止、実行

※：工場出荷時の設定

次ページに続く

■カスタマイズのしかた

パワーモードが ON モードで、シフトポジションが P のときに、インフォメーション(🛈)スイッチ(▲/▼)を押して「時計*/ 車両設定」を選択します。そして SEL/RESET を操作すると、カスタマイズを行うことのできる「グループ」画面に切り換わります。



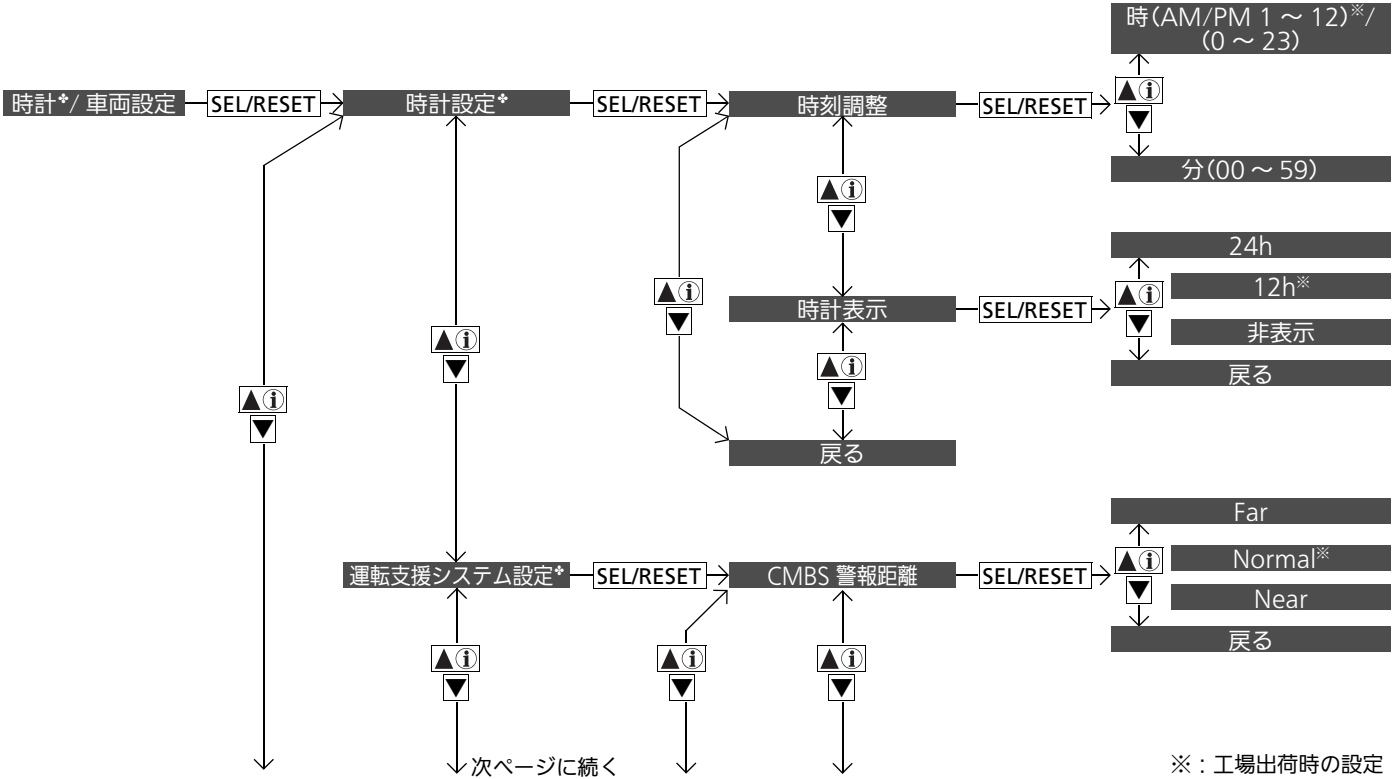
▶▶カスタマイズのしかた

カスタマイズ操作一覧 P.113
カスタマイズ設定の例 P.120

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■カスタマイズ操作一覧

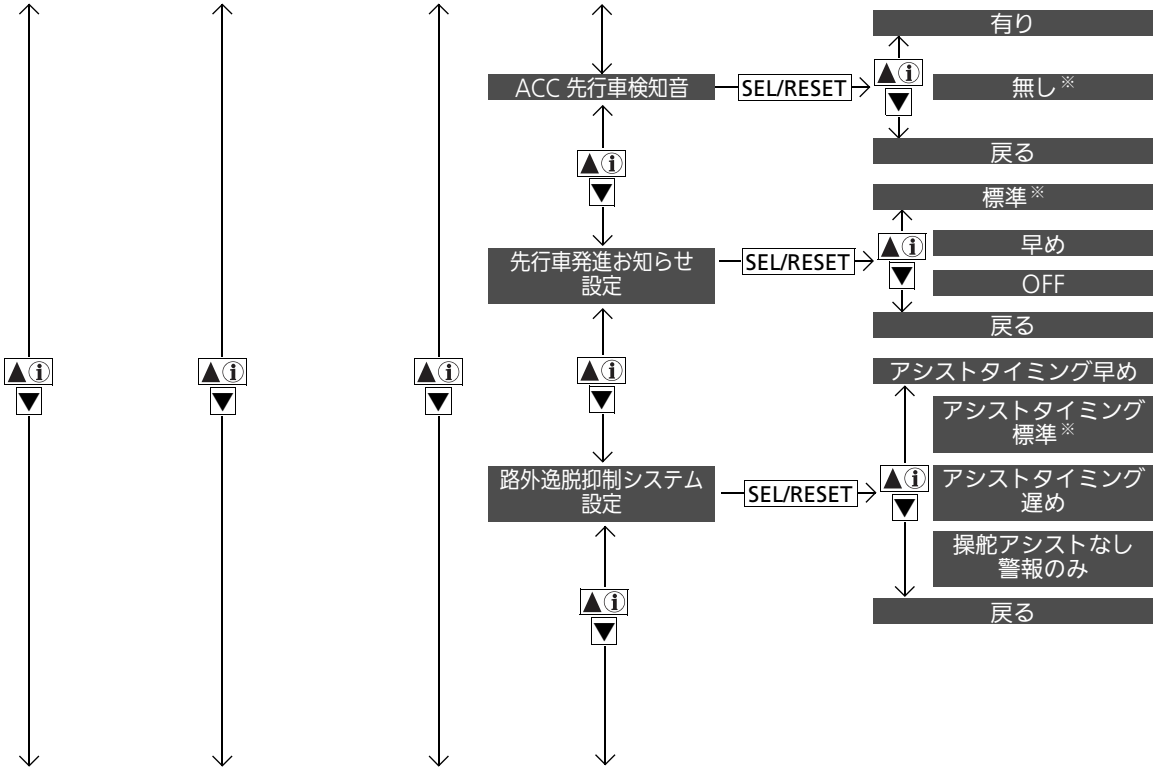
インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)でメニューまたは設定値を切り換え、 SEL/RESET スイッチで決定します。



※：工場出荷時の設定

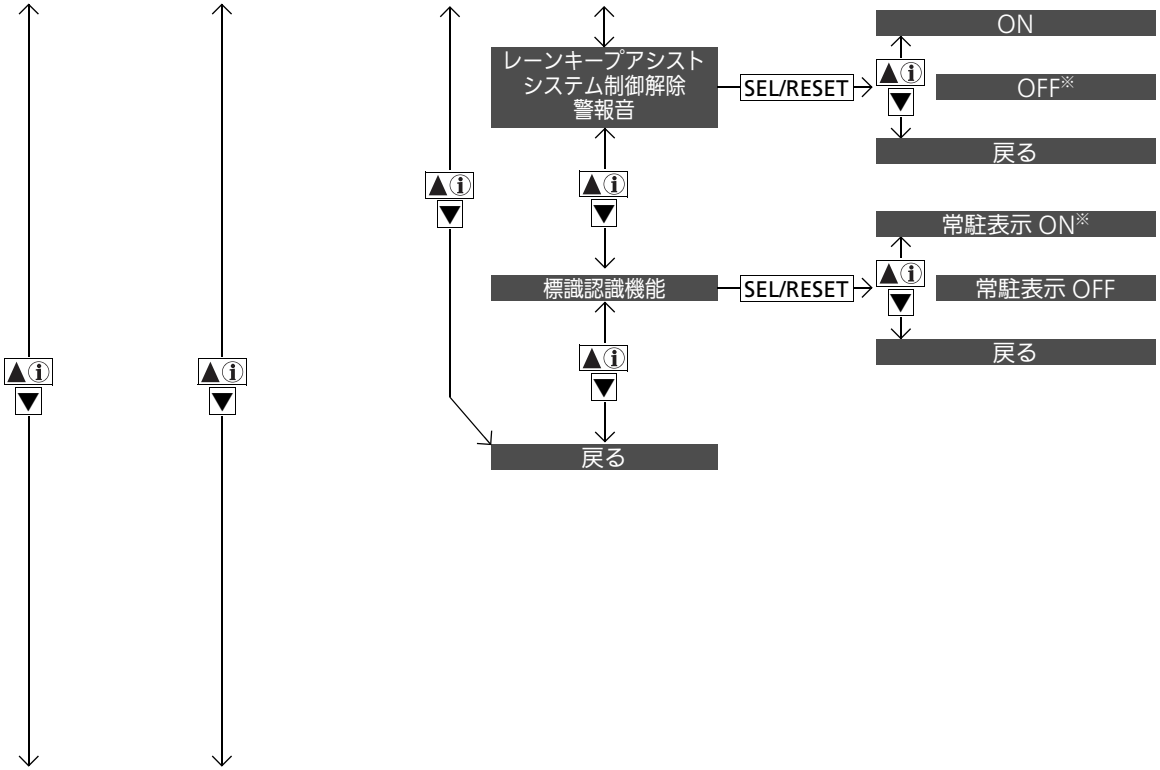
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く



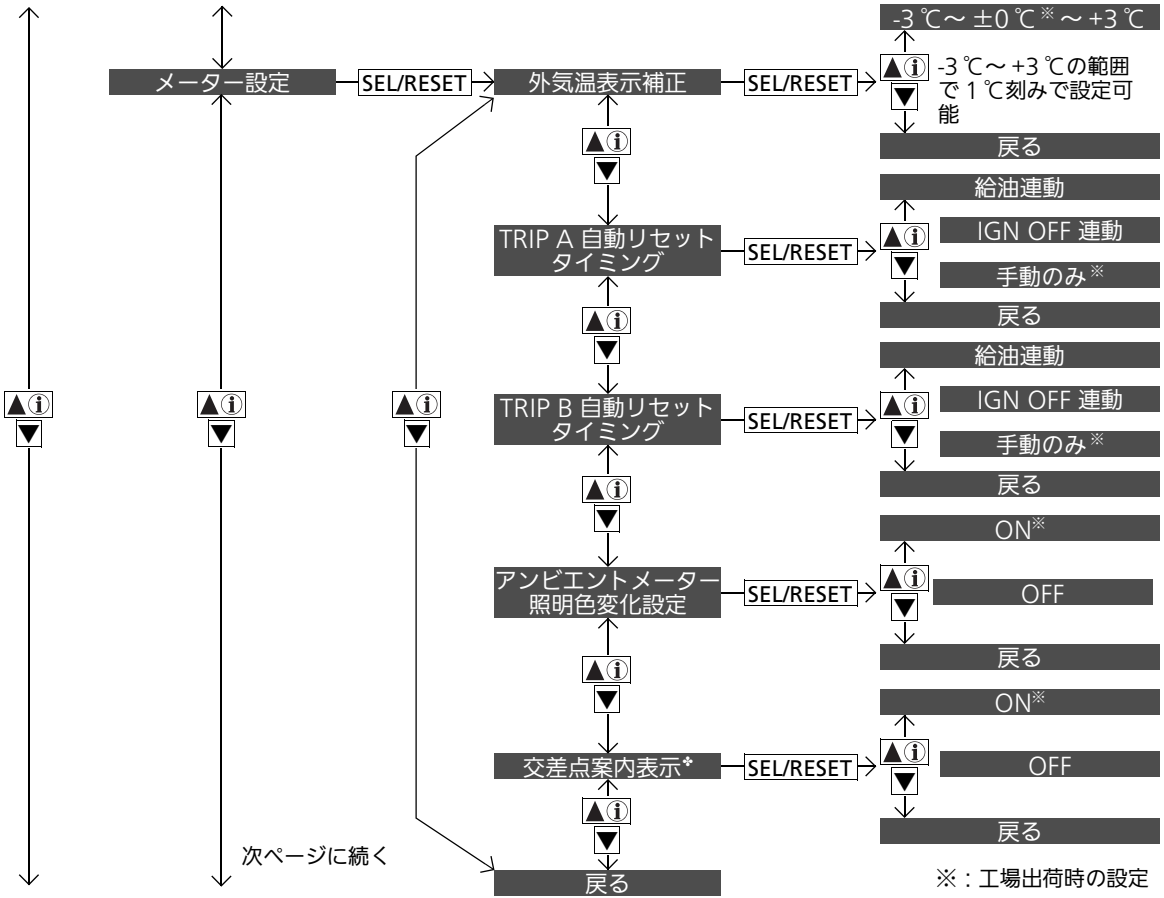
次ページに続く

※：工場出荷時の設定

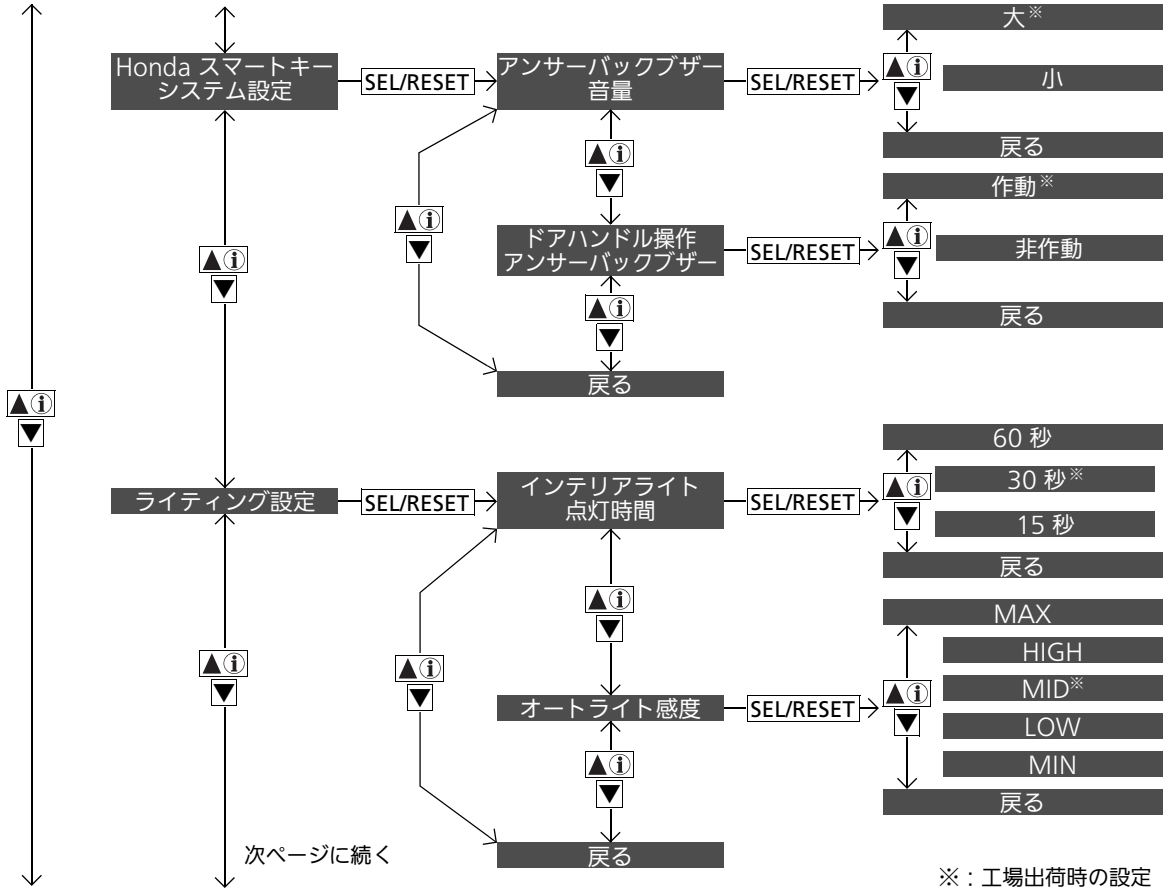


次ページに続く

※：工場出荷時の設定

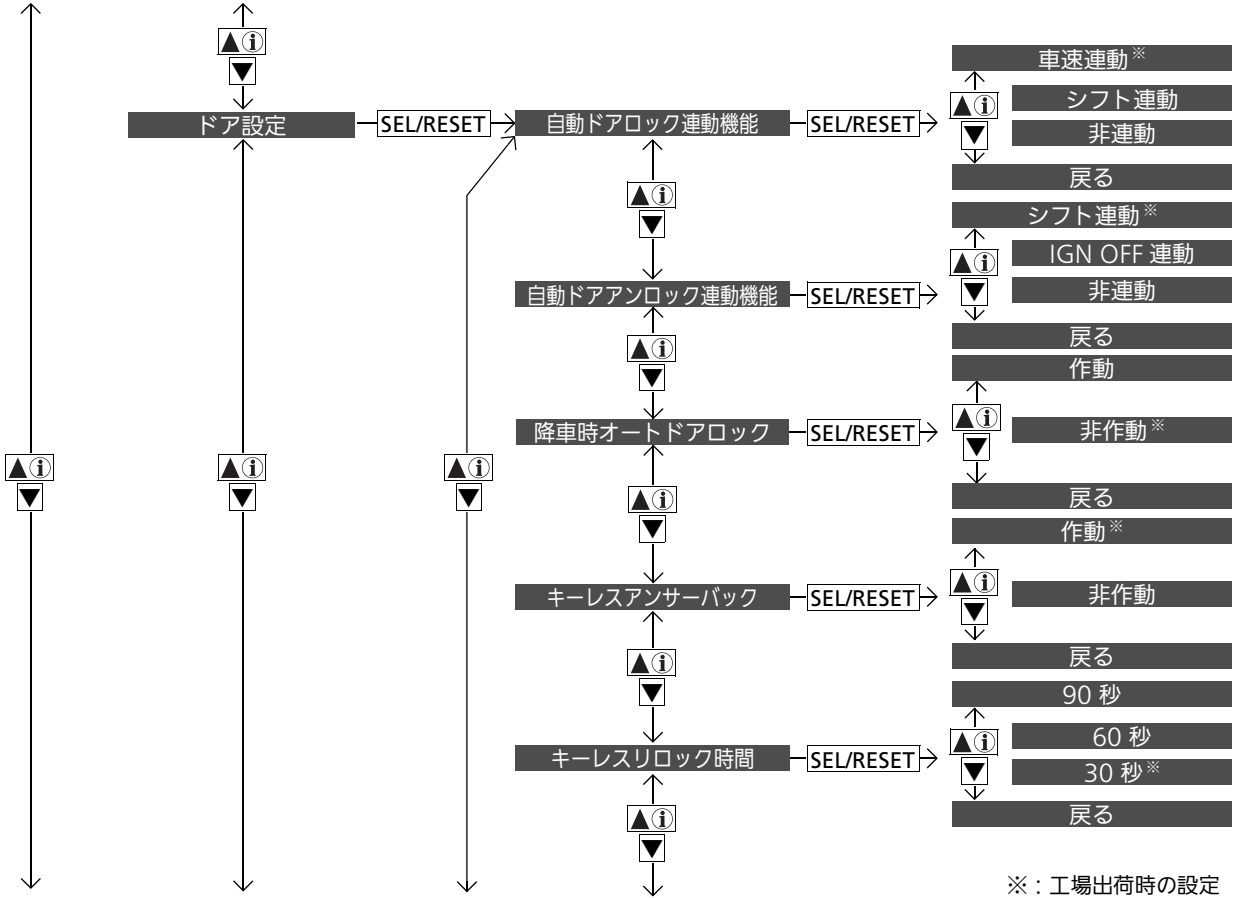


✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

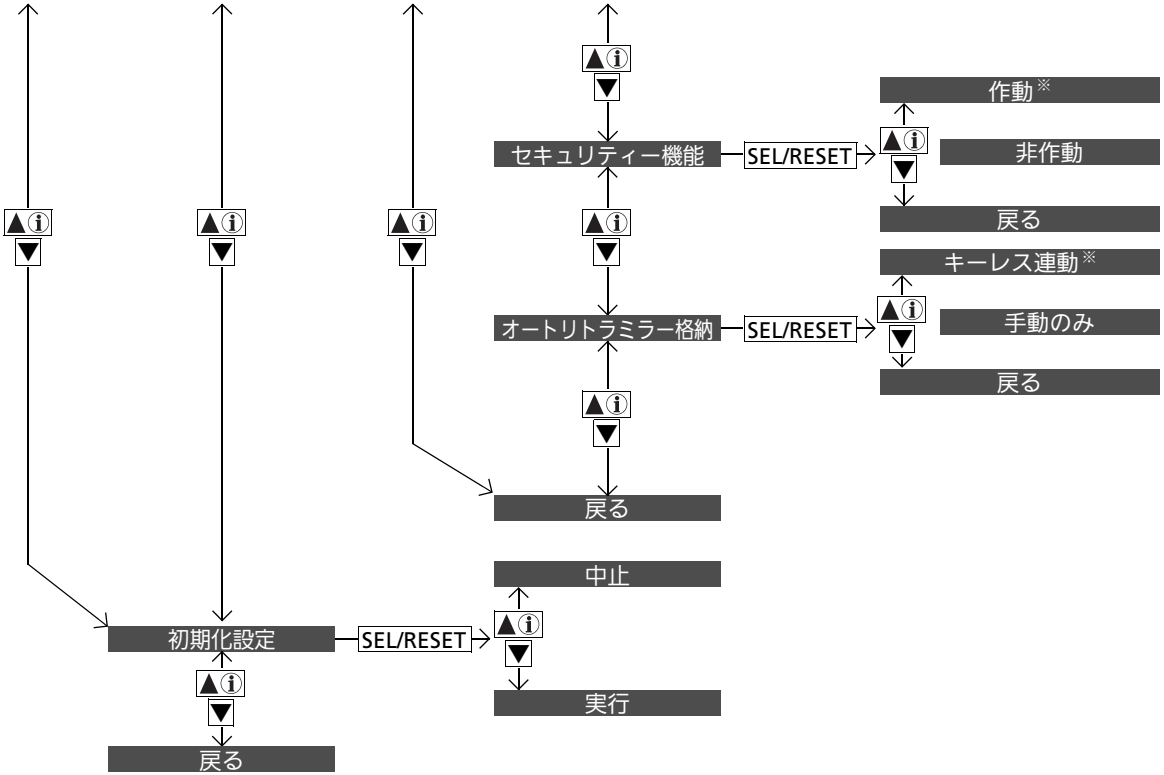


※：工場出荷時の設定

次ページに続く


ドア設定
SEL/RESET
自動ドアロック連動機能
SEL/RESET
車速連動※
シフト連動
非連動
戻る
自動ドアアンロック連動機能
SEL/RESET
シフト連動※
IGN OFF 連動
非連動
戻る
降車時オートドアロック
SEL/RESET
作動
非作動※
戻る
キーレスアンサーバック
SEL/RESET
作動※
非作動
戻る
キーレスリロック時間
SEL/RESET
90 秒
60 秒
30 秒※
戻る

※：工場出荷時の設定



※：工場出荷時の設定

次ページに続く

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「給油連動」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車



1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計✤/ 車両設定」が表示されたら、 SEL/RESET を操作する。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

▶ ACC(アダプティブクルーズコントロール)装備車

「グループ」画面に切り換わり、「運転支援システム設定」が表示されます。

▶ ACC(アダプティブクルーズコントロール)非装備車

「グループ」画面に切り換わり、「メーター設定」が表示されます。

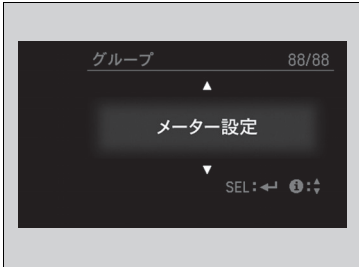
手順 **3** へ進む。

▨カスタマイズのしかた

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

- パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにする
- シフトポジションを P 以外にする

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



2. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「メーター設定」を表示する。

3. SEL/RESET を操作する。

▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「外気温表示補正」が表示されます。



4. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「TRIP A 自動リセットタイミング」が表示されたら、SEL/RESET を操作する。

▶「セットアップ」画面に切り換わり、「手動のみ」が表示されます。



5. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「給油連動」を表示する。

6. 「給油連動」が選択されていることを確認し、SEL/RESET を操作する。

▶「給油連動に設定しました」という画面が表示された後、「メニュー」画面に戻ります。

次ページに続く



7. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、SEL/RESET を操作する。
8. 手順**7** の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

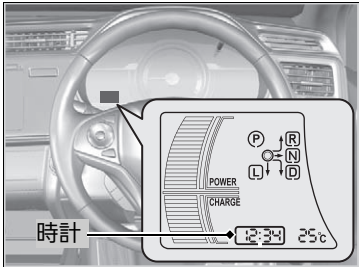


時刻の設定 124
ドアの施錠と解錠
キーの種類と機能 127
Honda スマートキーの微弱電波 129
車外でのドアの施錠 / 解錠 130
車内での施錠 / 解錠 138
チャイルドプルーフ 140
衝撃感知ドアロック解除システム 141
オートドアロック / オートドアアンロック 141
トランクの開閉 142
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 145
セキュリティアラームシステム 145
ウィンドーの開閉 147
ハンドルまわりのスイッチ操作
POWER スイッチ 149
方向指示器(ウィンカースイッチ) 152
ライトスイッチ 153
フォグライト✤ 155
オートハイビーム✤ 156
ヘッドライトレベリングダイヤル✤ 159
ワイパー/ ウォッシャー 160
イルミネーションコントロール 162
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー✤ 163
フロントガラス熱線スイッチ✤ 163
ハンドルの調節 164
ミラー類の調節 165
シートの調節
フロントシート 168
リヤシート 170
ヘッドレスト 171
アームレスト 173
室内灯 / 室内装備品 174
エアコン
エアコンの吹き出し口 183
オートエアコンの使いかた 184
オートエアコンのセンサー 190

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

時計の時刻を合わせる

時計はメーターに表示されます。



メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h/ 非表示)を切り変えたり時刻調整をすることができます。

1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、 SEL/RESET を操作する。
▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。



2. SEL/RESET を操作する。
▶「メニュー」画面に切り換わり、「時刻調整」が表示されます。

≫時計の時刻を合わせる

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。
メーターに表示されている時計もナビシステムの時計表示に連動します。

カスタマイズの詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。



3. SEL/RESET を操作する。
▶「セットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。

4. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、SEL/RESET を操作する。
▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。

5. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、SEL/RESET を操作する。
▶「分」が設定され、通常画面に戻ります。

次ページに続く

■時間表示の選択

1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計表示」を表示する。



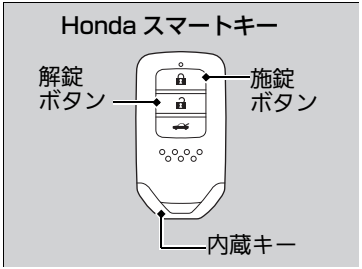
2. SEL/RESET を操作する。
▶「セットアップ」画面に切り換わり時計表示設定ができます。

3. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押す。
▶ 24h/12h/非表示に切り換えることができます。
▶「12h」または「24h」を選択すると時計の時間表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。
▶「非表示」を選択すると時計が非表示となります。

4. SEL/RESET を操作する。
▶ 時計表示設定が完了し、通常画面に戻ります。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、トランクの施錠 / 解錠に使用できます。
また、キーについているボタンで、すべてのドア、トランクの施錠 / 解錠の操作ができます。

キーの種類と機能

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

➔ **イモビライザーシステム** P.145

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

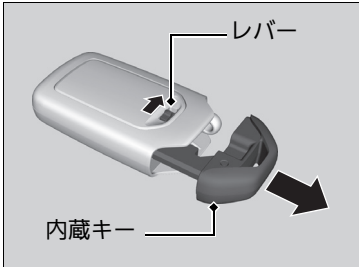
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■内蔵キー

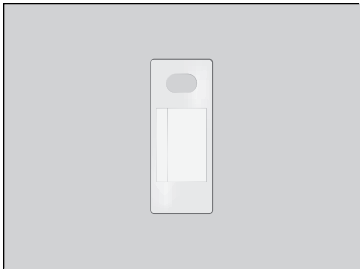


Honda スマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

内蔵キー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.347

キーナンバータグ

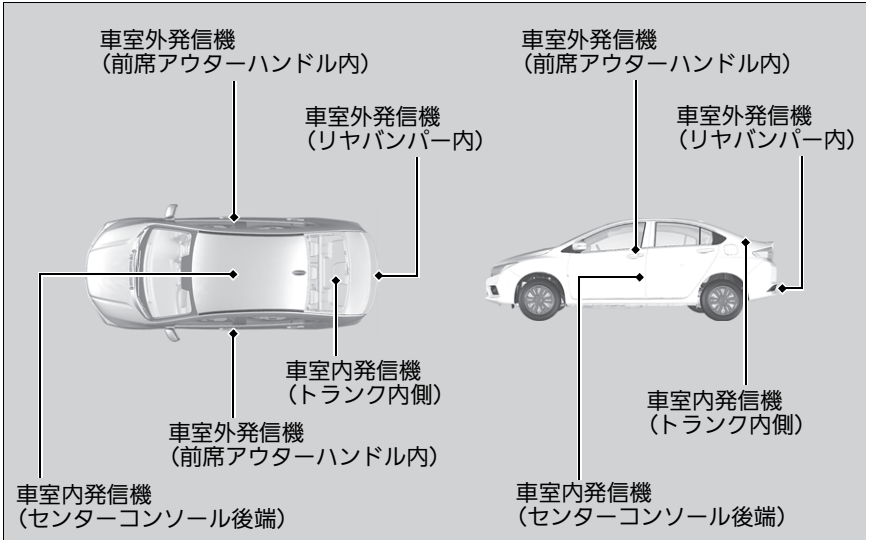
キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、トランクの施錠 / 解錠操作をするときやパワーシステムを起動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



Honda スマートキーの微弱電波

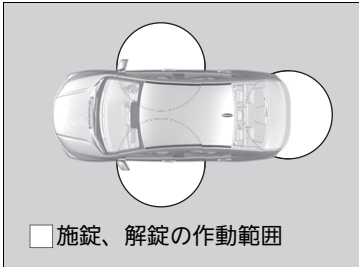
⚠注意

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。
また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

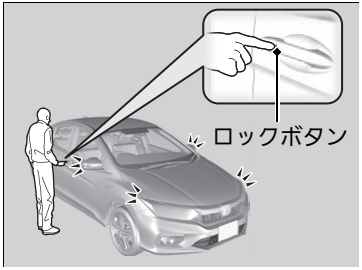


Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、トランクオープンスイッチを操作することでドア、トランクの施錠や解錠ができます。
施錠 / 解錠が作動するのは、運転席、助手席ドアハンドル、トランクオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

■施錠するには

運転席ドア、助手席ドアのロックボタンを押します。

▶「ピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、トランクが施錠されます。



»車外でのドアの施錠 / 解錠

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。
約 30 秒点灯し、徐々に暗くなります。30 秒以内にドアを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。

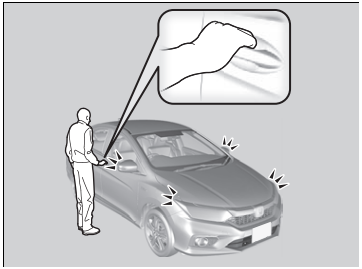
➔ **室内灯** P.174

»Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、トランクを開けてください。

Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、トランクを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードが OFF モード以外のときは Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。



■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握ります。

▶「ピピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、トランクが解錠されます。

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドル、トランクオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内にHondaスマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、解錠されることがあります。
- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後、もしくはトランクオープンスイッチを押した直後はドア、トランクが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおすか、トランクオープンスイッチを押しなおして解錠されていることを確認してから引いてください。
- ドアハンドル、トランクオープンスイッチより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、トランクに近づきすぎていると作動しないことがあります。

次ページに続く

Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

カスタマイズ機能について

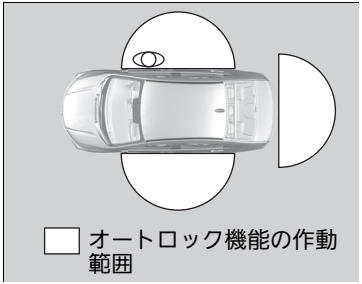
施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

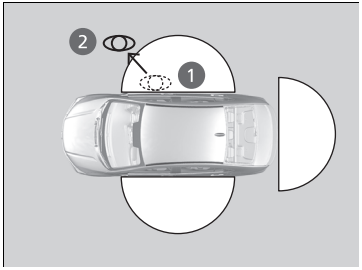
カスタマイズ機能 P.110

カスタマイズ機能	選択できる設定内容
アンサーバック ブザー音量	大※、小
アンサーバック ブザー作動	作動※、非作動

※：工場出荷時の設定

■施錠するには(降車時オートロック機能)





Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。
このオートロック機能は、すべてのドアが閉まっている状態で、Honda スマートキーが運転席または助手席ドアハンドルから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。
Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。
2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、トランクが施錠されます。

⊠施錠するには(降車時オートロック機能)

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。
ON にするときは、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能で設定を変更してください。
➡ **カスタマイズ機能** P.110

オートロック機能が起動し、作動範囲内にいるときはドアが施錠されるまで、Honda スマートキーのインジケーターが点滅します。

オートロック機能が起動し、車から離れずに作動範囲内にいた場合は、アンサーバック音が鳴ってから、約 30 秒後に自動で施錠されます。

オートロック機能が起動してからドアを開けた場合、オートロック機能は中断されますが、再度ドアを閉めるとオートロック機能は再開されます。

以下のときオートロック機能は起動しません。
- Honda スマートキーが車内にあるとき
▶ ブザーは鳴りません
- Honda スマートキーが作動範囲に無いとき
▶ ブザーは鳴ります

次ページに続く

一時的にオートロック機能を OFF にするとき：

1. パワーモードを OFF モードにする。

2. 運転席ドアを開ける。

3. マスタードアロックスイッチを施錠→解錠→施錠→解錠の順番で押す。
▶ オートロック機能が OFF になり、アンサーバック音が鳴ります。

以下のいずれかの操作をした場合、オートロック機能が ON に戻ります。

- パワーモードを ON モードにする
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムもしくは Honda スマートキーシステムですべてのドア、トランクを施錠する
- Honda スマートキーを携帯したままオートロック機能の作動範囲内から離れる
- いずれかのドアを開ける

施錠するには（降車時オートロック機能）

次のような場合は、オートロック機能は作動しません。

- Hondaスマートキーが車内に置いてあるとき
- ドア、ボンネットが完全に閉まっていないとき
- パワーモードが OFF モード以外のとき
- 降車時にすでに Honda スマートキーが作動範囲内にないとき

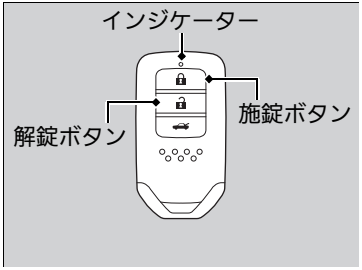
Honda スマートキーを車内に置いたままドアを閉めたときや、Honda スマートキーが作動範囲内に無い場合はオートロック機能は起動しません。

オートロック機能の起動後に、次のような場合は、オートロック作動中止警告ブザーが約 2 秒間鳴ります。

- Honda スマートキーを窓から車内に置いたとき
- 車に近づきすぎているとき
- Honda スマートキーをトランク内に置いたとき

オートロック作動中止警告ブザーが鳴ったときは、車から離れても自動で施錠されません。Honda スマートキーを携帯していることを確認し、再度ドアを開閉してオートロック起動ブザーが鳴ることを確認してください。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



■施錠

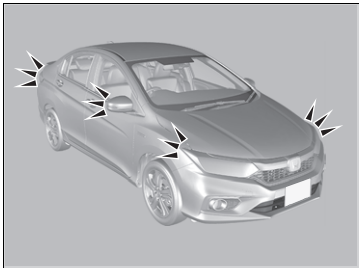
施錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、トラックが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、トラックが解錠されます。



⩙キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、トラックを開けてください。
キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、トラックを開けないと、再び自動的に施錠されます。
マルチインフォメーションディスプレイを使ってキーレスリロック時間をカスタマイズすることができます。
➲ **カスタマイズ機能** P.110

パワーモードが OFF モード以外のときはキーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、トラックが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。
➲ **電池交換のしかた** P.319

次ページに続く

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。

➡ **電池交換のしかた** P.319



キーを確実に差し込んで回します。

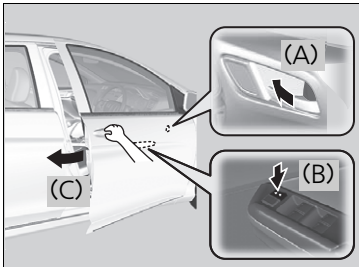
≫キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアでのキー操作

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドアも同時に施錠 / 解錠されます。

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(B)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(C)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

キーを使わない施錠

運転席ドアで施錠すると、他のすべてのドア、トランクも同時に施錠されます。

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

車内での施錠 / 解錠

■ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

■解錠するには
ノブを引き出します。

ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠 / 解錠されます。

■運転席ドアハンドルでの解錠

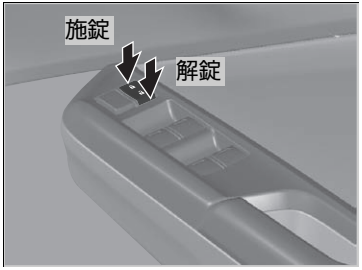


運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

運転席ドアハンドルでの解錠

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが開きます。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

■マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席ドアのマスタードアロックスイッチで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、トランクも同時に施錠 / 解錠されます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、トランクを解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグ装備車の場合で、サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック

■車速連動

車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、トランクが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック

■セレクトレバー連動

ブレーキペダルを踏みシフトポジションを P にすると、すべてのドア、トランクが自動的に解錠される機能です。

オートドアロック / オートドアアンロック

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

➔ **カスタマイズ機能** P.110

トランク開閉時の注意

トランク開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■トランクを開けているとき

- トランクは上までしっかりと開ける。
  ▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- トランクを開けたまま走行しない。
  ▶車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■トランク閉めるとき

- Honda スマートキーを、トランク内に置き忘れないように注意する。

トランク開閉時の注意

⚠注意

トランクを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

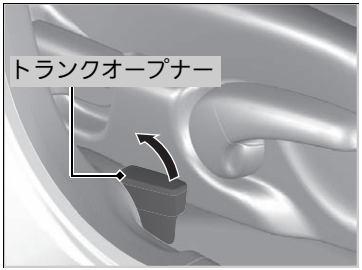
エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

トランクルーム内には、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

トランク内にお子さまが入らないように注意する。
トランクは中から開けることはできません。

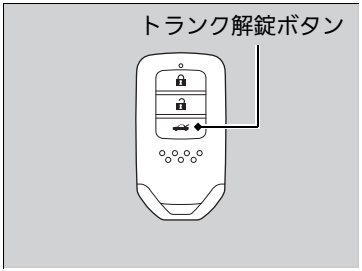
運転席ドアが施錠されているとき：
トランクを閉めると、トランクも施錠されます。
運転席ドアが解錠されているとき：
トランクを閉めても、施錠されません。

トランクオープナーで開ける



運転席右下にあるトランクオープナーを引くとトランクが解錠され浮き上がります。

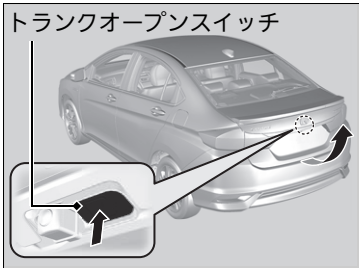
キーレスエントリーシステムで開ける



トランク解錠ボタンを約 1 秒押すと、トランクが解錠され浮き上がります。

パワーモードが OFF モード以外のときは、Honda スマートキーの解錠ボタンでは開けられません。

トランクオープンスイッチで開ける



運転席ドアを解錠し、トランクオープンスイッチを押すとトランクが浮き上がります。

Honda スマートキーを携帯して、トランクオープンスイッチを押すとトランクが解錠され浮き上がります。このときアンサーバックブザーが「ピッ」と 1 回鳴ります。

トランクオープンスイッチで開ける

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、トランク内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもトランクオープンスイッチでトランクを開けることができます。
- トランク内に Honda スマートキーを置いたままトランクを閉めると、ブザーが鳴りトランクが開きます。Honda スマートキーを取り出してから、再度トランクを閉めてください。
- トランクを閉めるときは、Honda スマートキーを後席に置かないでください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。 POWER を押すときは、下記の点に注意してください。

- POWER スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは、内蔵キーを使わずにドア、トランク、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは、内蔵キーで解錠するか、パワーモードをONモードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約５分間作動します。
ホーンおよび非常点滅表示灯は、1回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5分間以上作動することがあります。

次ページに続く

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは、内蔵キーで車外からすべてのドアとトランクが施錠されているとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

≫セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

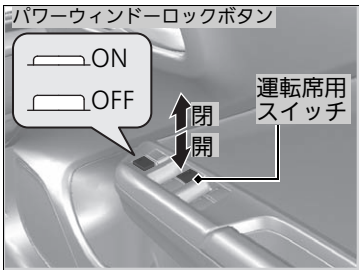
そのときは、Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

パワーウィンドーの開閉

パワーモードがON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンをOFF にしてから行います。
パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

■自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

パワーウィンドーの開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

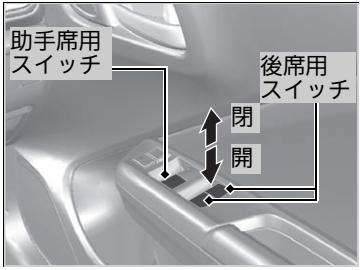
指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

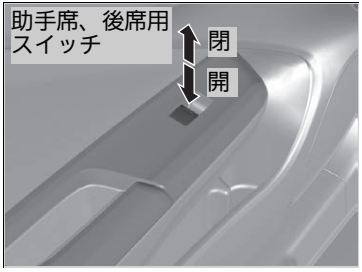
お子さまだけを車内に残さない。
必ず Honda スマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードを OFF にしても、約 10 分間はキーオフオペレーションにより自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

次ページに続く

■自動開閉機能なしのウィンドーの開閉





開けるとき：スイッチを押す
閉めるとき：スイッチを引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

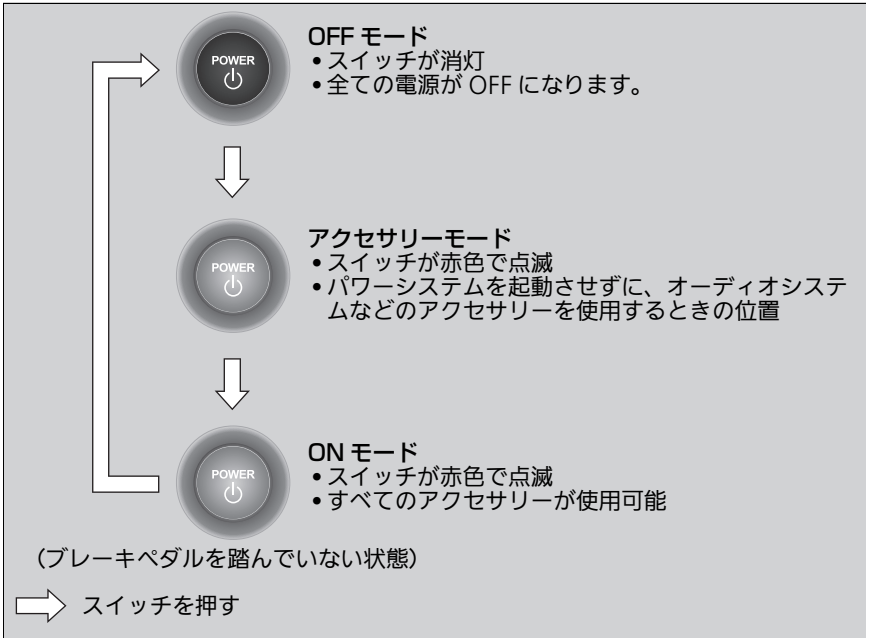
パワーウィンドーの開閉

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

POWER スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



≫POWER スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードをONモードにできます。パワーモードのON機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。



Honda スマートキーのバッテリーが低下した状態で POWER ボタンを押してもパワーモードがONにならない場合があります。その時は、下記リンク先を参照ください。

➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.347

Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、パワーモードをONモードにできることがあります。

次ページに続く

■パワーモードオートオフ機能

セレクトレバーが P でパワーモードがアクセサリーモードのときに 30 分～60 分経過すると、12V バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。

■パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリーモードのとき

■ Honda スマートキー持ち去り警告



警告ブザーには、車内警告ブザー(ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ)と車外警告ブザー(ピピピピピピ)の 2 種類があります。警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

»Honda スマートキー持ち去り警告

パワーシステム起動の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

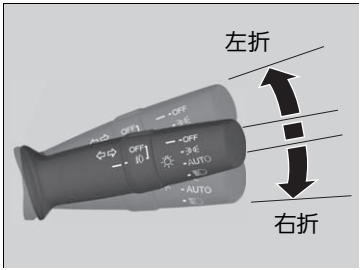
Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーがパワーシステム起動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。
故障ではありませんので、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

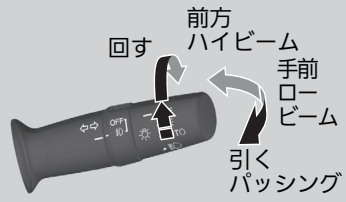


パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が3回点滅します。

ライトスイッチ



車幅灯、尾灯 / 後部側方灯、番号灯が点灯

ヘッドライト、車幅灯、尾灯 / 後部側方灯、番号灯が点灯

AUTO パワーモードが ON モードのとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯 / 後部側方灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

スイッチを回すとパワーモードの位置に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

ライトスイッチ

ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

➔ **表示灯** P.75

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリーあがりの原因となります。

次の条件が揃ったとき、アクセサリーライトが点灯します。

- パワーモードが ON モードのとき
- ライトスイッチが AUTO で周囲が明るいとき
- インジケータが消えているとき

次ページに続く

■ヘッドライトオートオフ機能

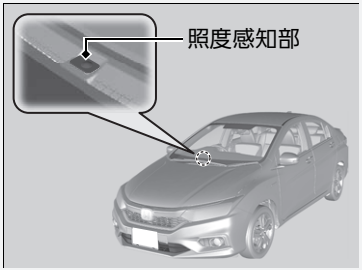
パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーシステムおよびキーレスエントリーシステムですべてのドアを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯 / 後部側方灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

▶▶ライトスイッチ

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。

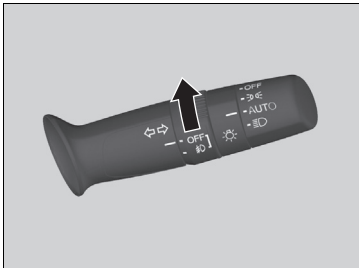


感度設定	車外の明るさに応じてライトが点灯します。
MAX	明るい
HIGH	
MID	
LOW	
MIN	暗い

オートライトコントロールシステムの感度調整は、マルチインフォメーションディスプレイを使って変更することができます。

➡ **カスタマイズ機能** P.110

フォグライト✤



ライトスイッチがOFF以外のとき(AUTOのときは、車幅灯が点灯しているとき)に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

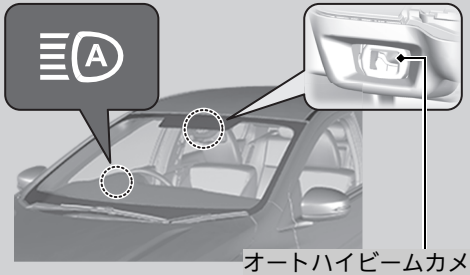
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

オートハイビーム✤

オートハイビームは夜間走行時に前方の状況によってヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り換えるシステムです。

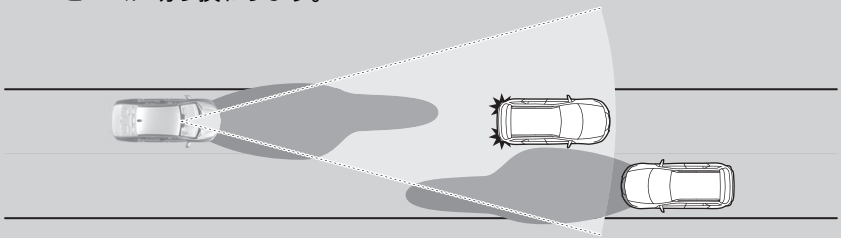
作動条件

- ライトスイッチがAUTOでレバーがロービームの位置
- システムが夜と判断してロービームが点灯
- 時速 30 km/h 以上で走行



作動

- 自車の前方に先行車や対向車がいないとき：ハイビームに切り換わります。
- 前方の先行車や対向車のランプ類を検知したとき：ロービームに切り換わります。



オートハイビームカメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

≫オートハイビーム✤

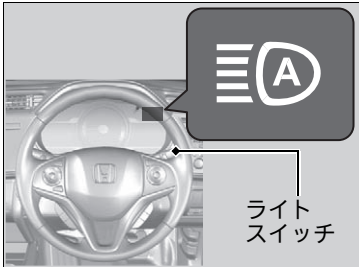
オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

オートハイビームは前方の発光する物体の明るさに応じてヘッドライトの切り換えを行います。次のような場合、タイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で操作を行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲に街灯、電光掲示、信号機などの光源があるとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- トランクに重い荷物を積んで車が傾いているとき

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■作動させるには



夜間にスイッチを AUTO にしてライトスイッチのレバーをロービームの位置にします。

➡ ライトスイッチ P.153

オートハイビーム表示灯が点灯します。

■一時的に作動が解除となる条件

以下の場合オートハイビームは一時的に解除されます。解除の条件がなくなると自動的に復帰します。

- 車速が 24km/h 未満でしばらく走行したとき
- 車速が 10km/h 未満になったとき
- ワイパーが HI（高速）で数秒間動作したとき

■一時的に作動を解除したいとき

以下の操作を行うと一時的に作動が解除され、オートハイビーム表示灯が消灯します。

- ライトスイッチレバーをハイビームの位置にしたときやパッシングしたとき
  ▶ オートハイビームを復帰させたい場合はレバーを数秒間引き続けてください。

▨オートハイビーム*

- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

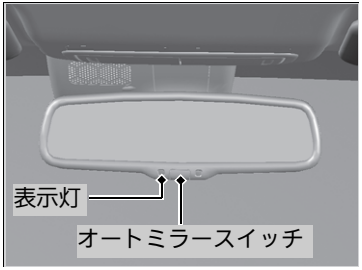
- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- オートハイビームカメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- オートハイビームカメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- オートハイビームカメラのレンズに触れない

オートハイビームカメラに強い衝撃が加わったときやルームミラー周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

次ページに続く

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■機能を停止させたいとき



パワーモードがONモードで車両が停止しているときに機能を停止することができます。

停止状態(OFF)にする：オートミラースイッチを約 21 秒以上押し続けます。このとき表示灯が 2 回点滅します。
2 回点滅後にスイッチから手を放します。

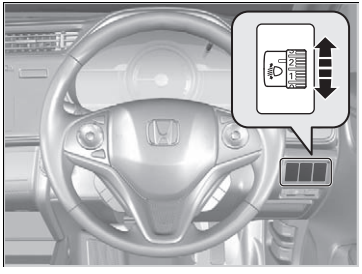
作動可能(ON)にする：オートミラースイッチを約 18 秒以上押し続けます。このとき表示灯が 1 回点滅します。
1 回点滅後にスイッチから手を放します。

≫機能を停止させたいとき

オートハイビームが停止の状態のとき、再度パワーモードを ON モードにしても停止の状態になっています。

ヘッドライトレベリングダイヤル*

パワーモードがON モードのとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。



光軸の調節はダイヤルを回して行います。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やトランクの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時 運転席と助手席に乗車時	0
5 名乗車時	1
5 名乗車でトランク満載時	2
運転席のみ乗車でトランク満載時	3

▨ヘッドライトレベリングダイヤル*

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを 0 の位置に戻してから行ってください。

LED ヘッドライト装備車

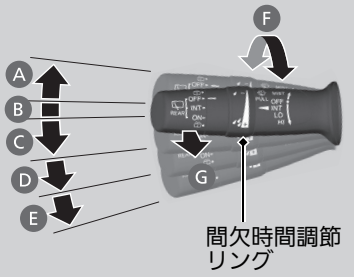
重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ワイパー/ ウォッシャー

■フロントワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ MIST:（レバーを操作している間作動）
Ⓑ OFF: 停止
Ⓒ INT: 間欠（雨量が少ないとき）
Ⓓ LO: 低速（普通の雨量のとき）
Ⓔ HI: 高速（雨量が多いとき）
Ⓕ 間欠時間の調節
Ⓖ ウォッシャー

パワーモードがONモードのときに使用できます。

■MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ（OFF、INT、LO、HI）

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■間欠時間の調節

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。



間欠間隔が長い

間欠間隔が短い

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

≫ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

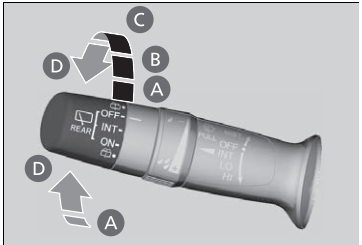
ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。
数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

■リヤワイパー/ ウォッシャー✤



Ⓐ OFF：停止
Ⓑ INT：間欠作動
Ⓒ ON：低速作動
Ⓓ ：ウォッシャー

パワーモードがONモードのときに使用できます。

■リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り替えて使用します。

■ウォッシャースイッチ

スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■リバース連動モード

フロントワイパー作動中にシフトポジションをRにするとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード	リヤワイパーの作動モード
INT(間欠)	間欠作動
LO(低速) HI(高速)	連続作動

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ワイパー/ ウォッシャー

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。
間欠時間を短いほうにいっぱいに回っている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

アドバイス

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターやフロントガラス熱線✤ でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。
ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

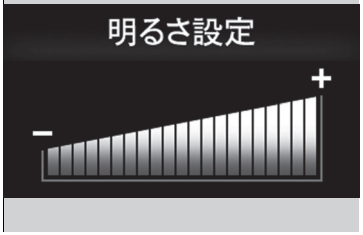
イルミネーションコントロール



パワーモードが ON モードで、周囲が暗いとき、セレクト / リセットノブでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：ノブを右に回す

暗くする：ノブを左に回す



明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。

また、明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイが元の表示に戻ります。

■明るさ調節表示

セレクト / リセットノブを回すとマルチインフォメーションディスプレイが明るさ調節表示に切り換わります。

目盛が右に増えていくほど、インストルメントパネル照明が明るくなります。

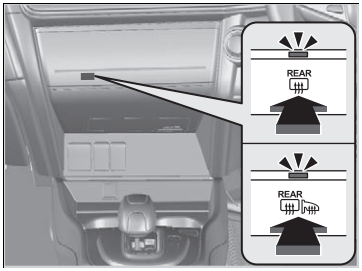
イルミネーションコントロール

ライトスイッチが OFF 以外で周囲が暗いとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

インストルメントパネル照明が減光していないときは、明るさ調節できません。

減光時に目盛が全て表示されるまで、ノブを右に回すと、「ピッ」という音がして減光が解除されます。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー*



パワーモードが ON モードのときに REAR / REAR アイコンを押すと、リヤガラスとドアミラー* を暖め、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。

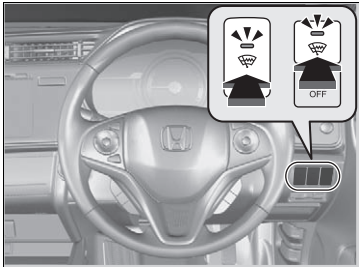
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー*

アドバイス

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。
必ず、デフロスターの電熱線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

フロントガラス熱線スイッチ*



パワーモードがON モードのときに、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。

スイッチを押すと、フロントガラス熱線が ON になります。

約 15 分経過後、自動的に停止します。

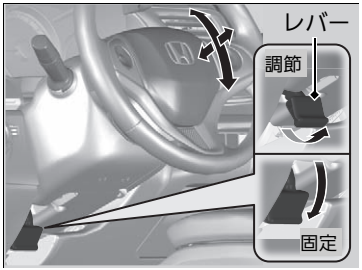
フロントガラス熱線スイッチ*

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。
▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ハンドルの調節

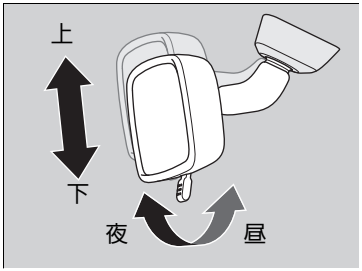
⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

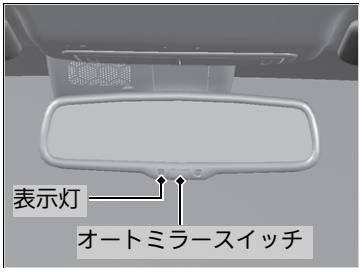
ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■手動式防眩ミラー*



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

■自動式防眩ミラー*



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。
パワーモードがONモードで、オートミラースイッチがONのときに作動します。スイッチを押すごとに ON、OFF が切り換わります。
ONにすると表示灯が点灯します。

»ミラー類の調節

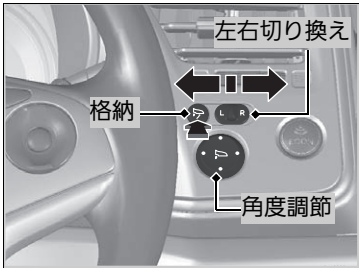
ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

»自動式防眩ミラー*

セレクトレバーを[R]に入れているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ドアミラー



	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

■オートリトラミラー

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するとき：

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルのロックボタンを押す。

元の位置に戻すとき：

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す。
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルを握る。
- パワーモードを ON モードにする。

オートリトラミラー

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートリトラミラー機能をカスタマイズすることができます。

➡ **カスタマイズ機能** P.110

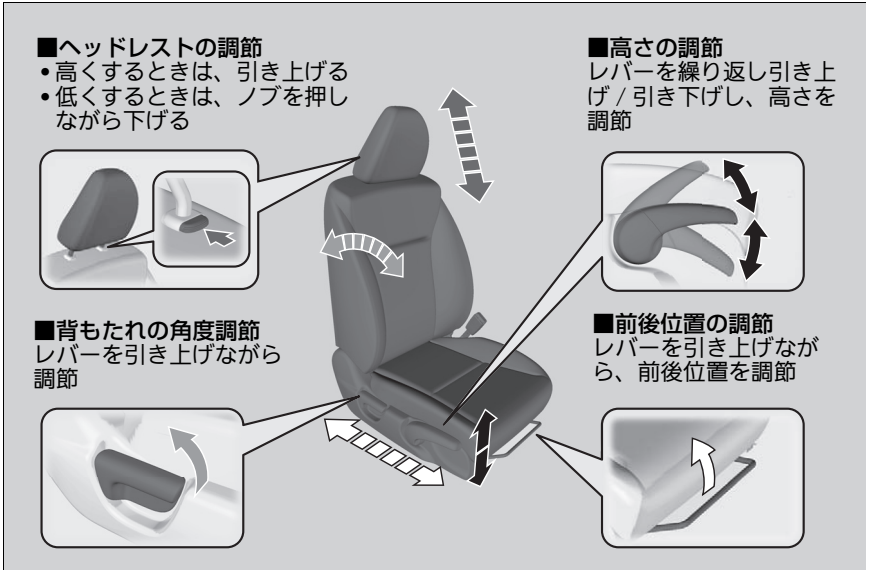
格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

ロックノブまたはマスタードアロックスイッチを使用し、車両内側から施錠した場合、オートリトラミラー機能は作動しません。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■シートの動かしかた



▶シートの動かしかた

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

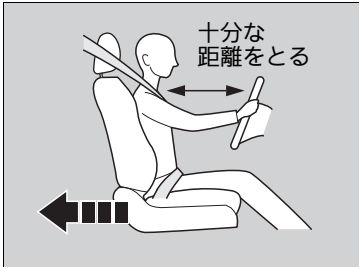
フロントシートの下にものを置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

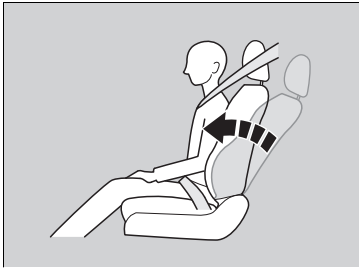
フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。

■フロントシートの調節



■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

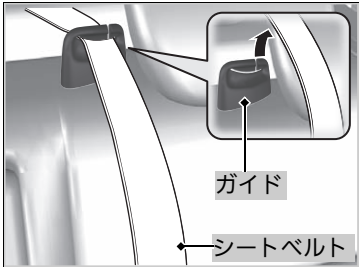
背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

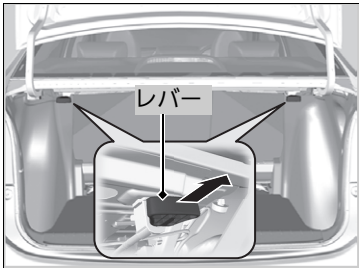
リヤシート

■背もたれの倒しかた

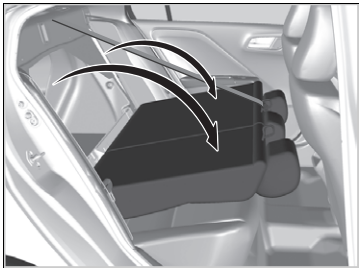


背もたれは、左右別々に倒すことができます。
ヘッドレストがフロントシートに当たるときは、ヘッドレストを外してください。

1. 中央席のシートベルトをガイドから外す。



2. トランク内のレバーを引き、ロックを解除する。



3. 背もたれを倒す。

▶背もたれの倒しかた

背もたれを倒し、トランクを開けたまま走行しないでください。

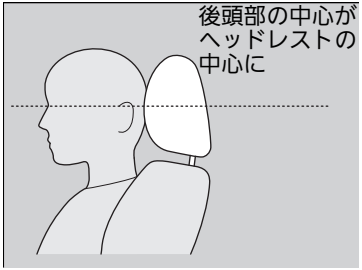
⚠注意

操作するときは、手などをはさまないように十分注意する。

背もたれを起こすときは、後ろに押しつけて固定します。
背もたれをもとの状態に戻すときは、背もたれを起こし、後ろにしっかり押しつけてください。また、リヤシートのシートベルトが背もたれの前にあり、中央部のシートベルトがガイドにはまっていることを確認してください。

ヘッドレスト

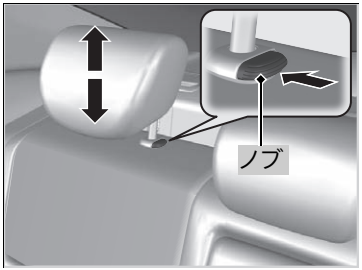
■フロントシートヘッドレストの調節



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心にくるようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる
低くするとき：ノブを押しながら下げる

■リヤシート(左右)ヘッドレストの位置変更



高くするとき：ヘッドレストを引き上げる
低くするとき：ノブを押しながら下げる

ヘッドレスト

⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

次ページに続く

■ヘッドレストの取り外しと取り付け

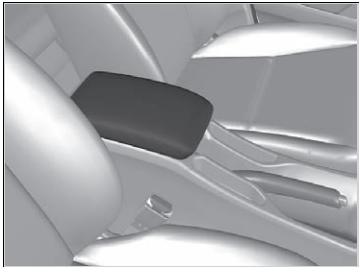
ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：
ノブを押し、ヘッドレストを引き上げて取り外します。

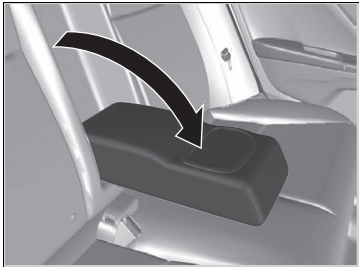
ヘッドレストの取り付け：
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト

■フロントシートアームレスト



■リヤシートアームレストの操作



前に倒して使います。

アームレスト

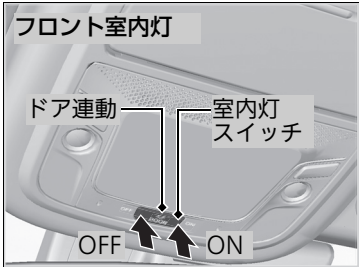
⚠注意

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

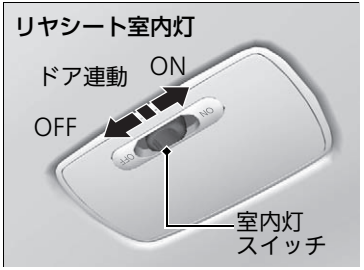
室内灯

■室内灯スイッチ



■ON
ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき



■OFF
ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

▶室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約30 秒後に減光しながら消灯します。

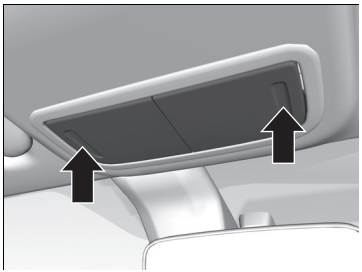
以下の場合も約 30 秒後に消灯します。
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

室内灯の点灯時間を変更することができます。
➡ **カスタマイズ機能** P.110

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。
- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードが OFF モードのときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に消灯します。

■マップランプ

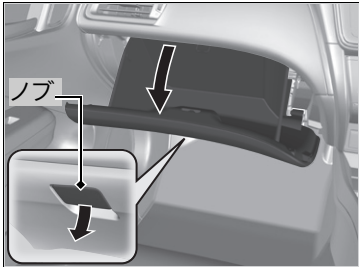




夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。
レンズまたは、スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

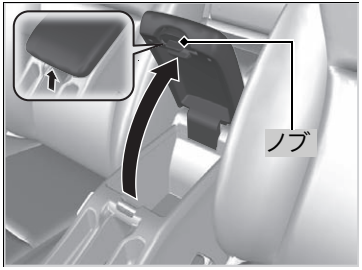
室内装備品

■グローブボックス



ノブを引くと開きます。

■センターコンソールボックス



ノブを引くと開きます。

»グローブボックス

⚠警告

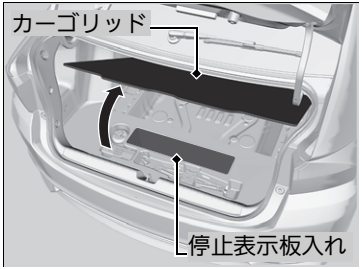
走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

»センターコンソールボックス

⚠警告

走行中は必ずセンターコンソールボックスを閉める。
センターコンソールボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■停止表示板入れ



カーゴリッドの下に停止表示板入れがあります。

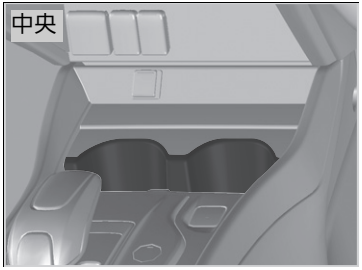
⩙停止表示板入れ

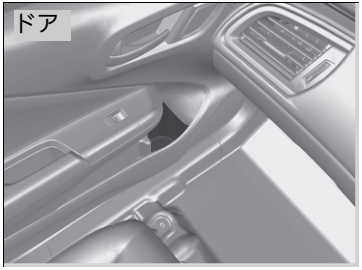
収納可能な停止表示板のサイズは以下の通りです。

- 長さ …455mm 以下
- 高さ …124mm 以下
- 幅 …53mm 以下

次ページに続く

■ドリンクホルダー



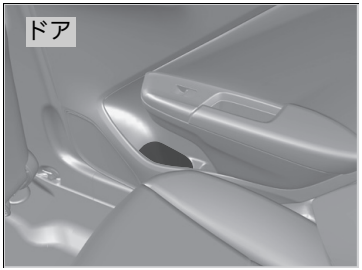


■フロントシート用ドリンクホルダー

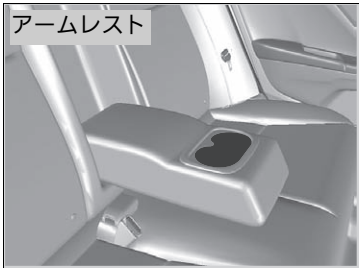
ドリンクホルダー

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。



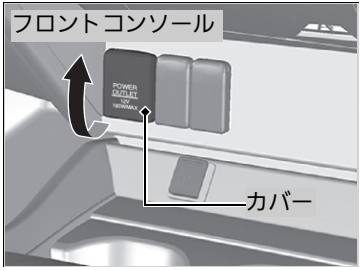
■リヤシート用ドリンクホルダー



アームレストを前に倒して使います。

次ページに続く

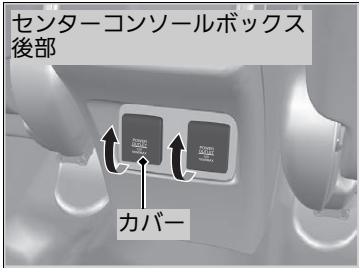
■アクセサリーソケット



パワーモードがアクセサリーモードまたはONモードのときに使用できます。

■フロントコンソールのアクセサリーソケット

カバーを開けて使います。



■センターコンソールボックス後部のアクセサリーソケット✤

カバーを開けて使います。

≫アクセサリーソケット

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■コートフック



リヤシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

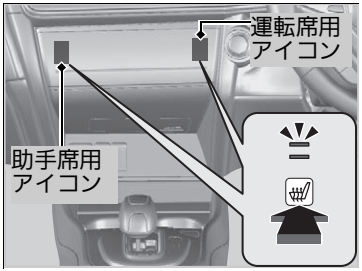
コートフック

⚠注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

次ページに続く

■シートヒーター*



パワーモードがON モードのときに使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。

アイコンを押します。
1 回 -HI(高温): インジケーターが 2 個点灯
2 回 -LO(低温): インジケーターが 1 個点灯
3 回 -OFF: インジケーターが消灯
HI(高温)で快適な温度まで暖め、アイコンを押して LO(低温)にしてください。

▶シートヒーター*

⚠注意

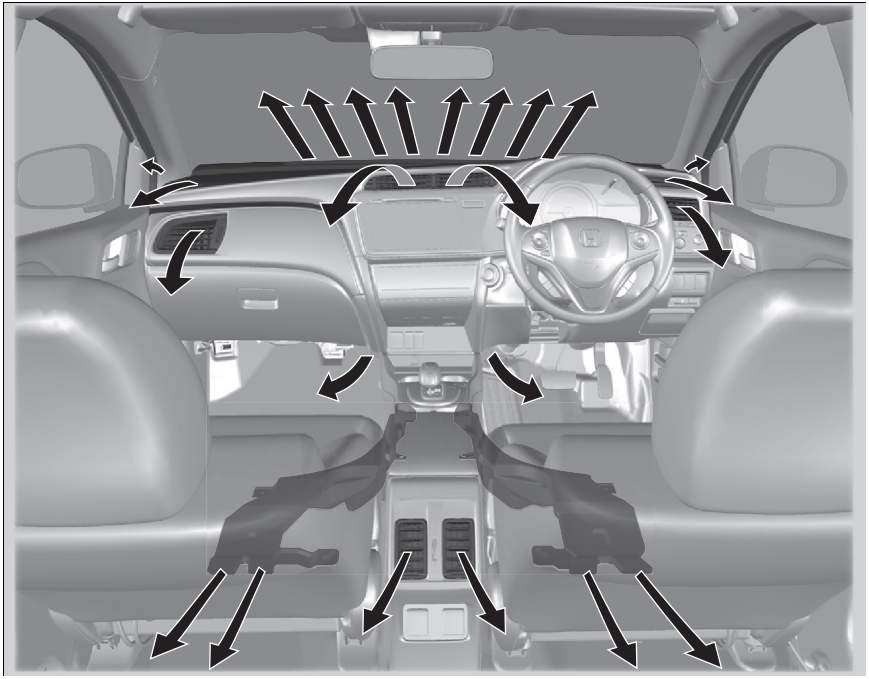
低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムを起動させていないときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エアコンの吹き出し口

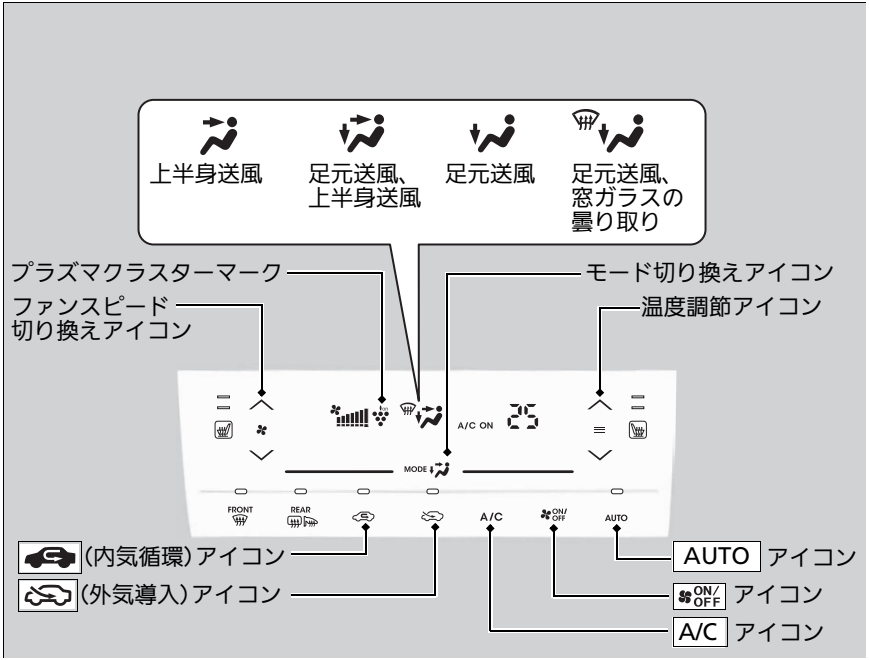


エアコン

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

音声操作の詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オートエアコンの使いかた



パワーシステムを起動した状態で使用します。

1. AUTO を押す。

2. 温度調節アイコン(へ/∨)を押して温度を調節する。

3. 停止するときは、ON/OFF を押す。

オートエアコンの使いかた

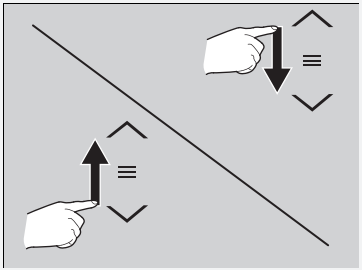
オート(AUTO)で使用中いずれかのアイコンを押すと、そのアイコンの機能が優先されます。
このとき AUTO の表示灯は消灯しますが、選択したアイコン以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、 AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「**Lo**」は最大冷房を、「**Hi**」は最大暖房を示します。

温度調節アイコンやファンスピード切り換えアイコン部分を指でスライドさせると、設定値を変更できます。



■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて、 を押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯):トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯点灯):換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中に A/C を押すと、除湿暖房となります。

オートエアコンの使いかた

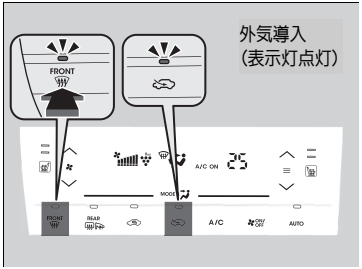
ON/OFF を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

高電圧バッテリーの充電量が低下すると、エアコンの効きが弱くなることがあります。

ECON モード作動中は、エアコンの効きが弱くなることがあります。

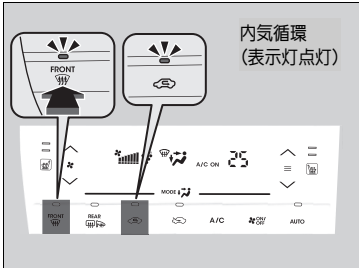
次ページに続く

■前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



FRONT を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

FRONT をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



■急速に霜を取りたいとき

1. FRONT を押す。
2. を押す。

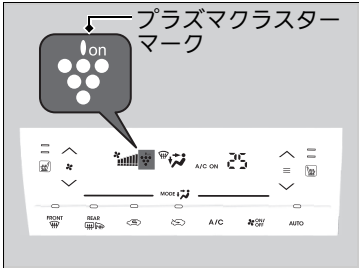
▩前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

■プラズマクラスター



エアコンもしくは送風に連動してプラズマクラスターも作動し、マークが点灯します。

プラズマクラスター

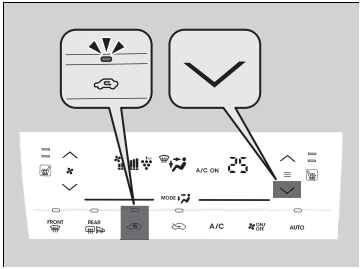
プラズマクラスターマークおよびプラズマクラスター、Plasmaclusterはシャープ株式会社の登録商標です。

次ページに続く

■タッチパネル操作音の ON と OFF

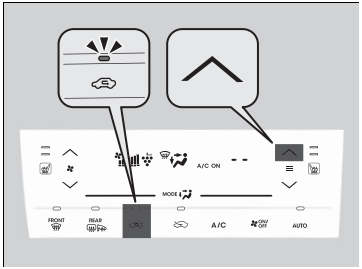
エアコンのタッチパネルを操作すると、確認のため音が鳴ります。この音の ON、OFF を設定することができます。

OFF にしたい場合は、下記の手順で設定してください。



1. パワーモードを ON モードにする。
2.  を押したまま、温度下方調節アイコン(﹀)部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「**- -**」が 5 回点滅した後、「**OF**」が表示されたことを確認してから  を離す。

ON にしたい場合は、下記の手順で設定してください。



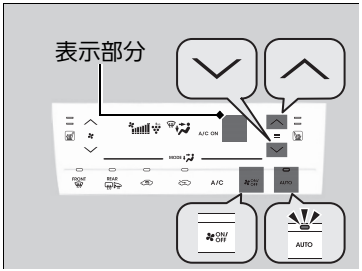
1. パワーモードを ON モードにする。
2.  を押したまま、温度上方調節アイコン(﹀)部分を 5 回連続で押す。
3. 温度表示の部分で「**OF**」が　5　回点滅した後、「**- -**」が表示されたことを確認してから  を離す。

≫タッチパネル操作音の ON と OFF

設定変更中に、手順と関係のないボタンを押すと設定がうまくいかないことがあります。
設定がうまくいかないときは、一度パワーモードを OFF モードにし、最初からやりなおしてください。

■タッチパネル感度の設定

エアコンのタッチパネルの感度を、高め※、普通、低めに設定することができます。



1. パワーモードを ON モードにする。

2. AUTO アイコンを押したまま、変更したい設定のアイコンを 5 回連続で押す。

- 温度上方調節アイコン(へ):高めにしたいとき

▶表示部分が点滅し、設定が変更されると「**Hi**」が表示されます。

- ON/OFF:普通にしたいとき

▶表示部分が点滅し、設定が変更されると「**- -**」が表示されます。

- 温度下方調節アイコン(へ):低めにしたいとき

▶表示部分が点滅し、設定が変更されると「**Lo**」が表示されます。

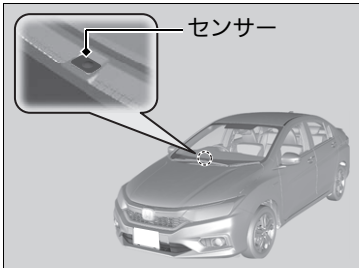
3. AUTO アイコンを離す。

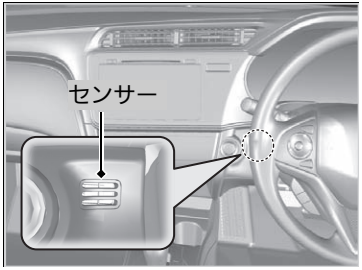
※:工場出荷時の設定

タッチパネル感度の設定

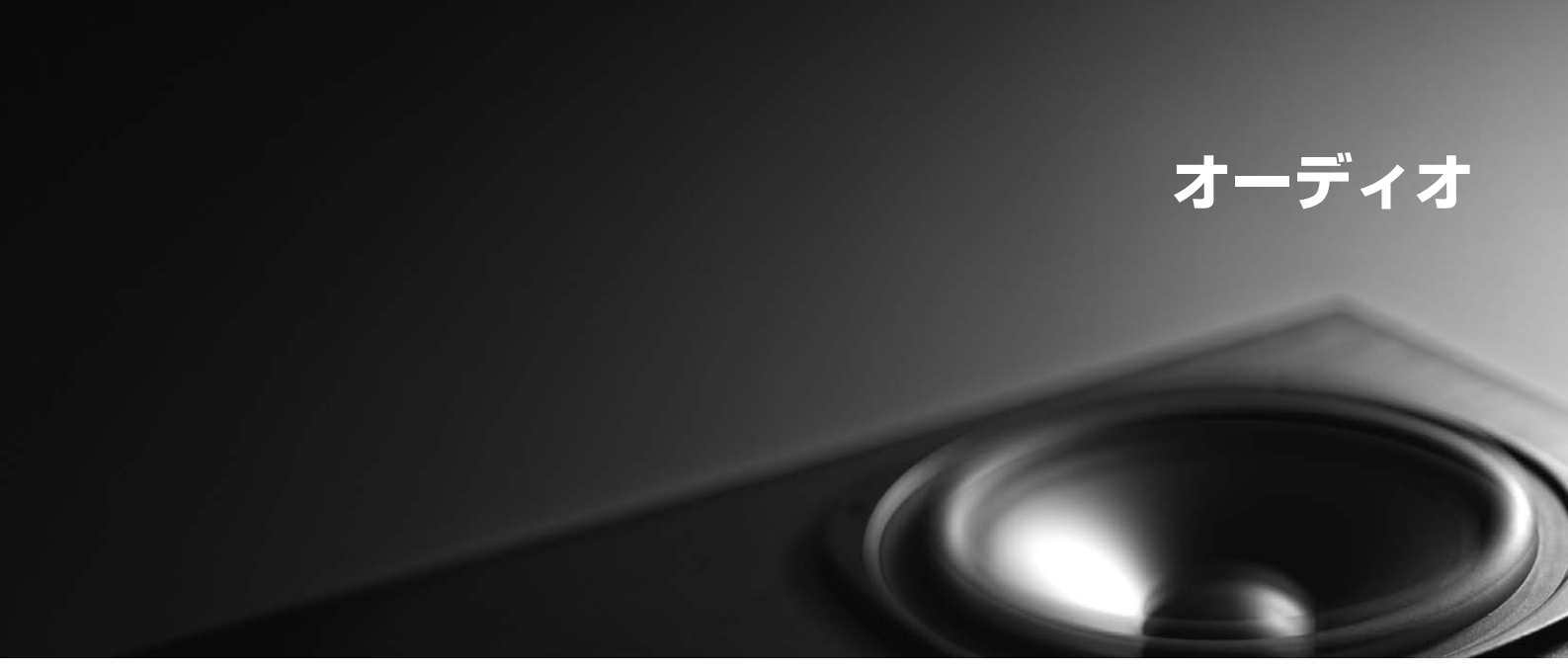
設定変更中に、手順と関係のないボタンを押すと設定がうまくいかないことがあります。
設定がうまくいかないときは、一度パワーモードを OFF モードにし、最初からやりなおしてください。

オートエアコンのセンサー





オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



オーディオ

オーディオ装置✤ 192

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

オーディオ装置✤

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に
運転の準備 194
運転操作
パワーシステムの起動 196
走行時の注意点 199
デュアルクラッチトランスミッションについて 202
シフト操作 203
ECON スイッチ 209
S モードスイッチ 209
車両接近通報装置 210
クルーズコントロール✤ 211
VSA(ビークルスタビリティアシスト) 215
4WD(四輪駆動機構)✤ 216
高電圧バッテリーの特性 217
ホンダセンシング✤
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 219
誤発進抑制機能 226
歩行者事故低減ステアリング 228
ACC(アダプティブクルーズコントロール) 234
LKAS(車線維持支援システム) 248
路外逸脱抑制機能 259
先行車発進お知らせ機能 266
標識認識機能 270
フロントセンサーカメラ 277
レーダーセンサー 279
ブレーキ操作
ブレーキシステム 280
ABS(アンチロックブレーキシステム) 282
電子制御ブレーキアシスト 283
エマージェンシーストップシグナル 284
駐停車操作
駐車する 285
リヤワイドカメラシステム✤ 287
給油
指定燃料について 288
給油のしかた 288

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➡ **タイヤの点検と整備** P.312
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

■車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？

≫車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

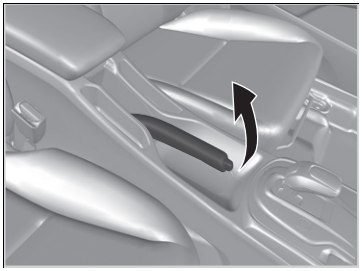
≫車内での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

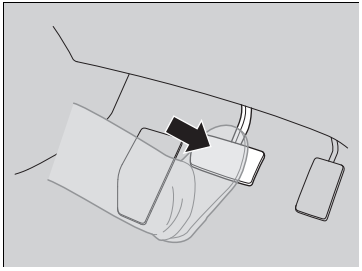
車に合ったフロアマットをお使いください。

- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.168
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.165
  ➔ **ハンドルの調節** P.164
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.35
- ドア、トランクが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、トランクが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.138
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.65

パワーシステムの起動



1. パーキングブレーキをかける。



2. 右足でブレーキペダルを踏む。

パワーシステムの起動

⚠警告

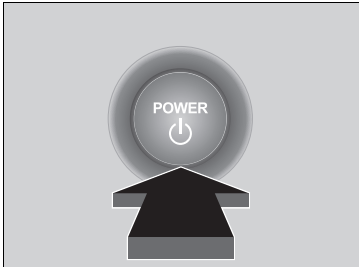
12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。
12Vバッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのパワーシステムの起動は、12Vバッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。
そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができません。
➔ **イモビライザーシステム** P.145



3. アクセルペダルを踏まずに、 POWER を押す。



4. READY 表示灯の点灯を確認する。
- ▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
- ▶ パワーシステムが起動すると、READY 表示灯が点灯し運転することができます。
- ▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、READY 表示灯が点灯せず、他のメッセージが表示されます。

➔ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.80

■パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. シフトポジションを P にする。

2. POWER を押す。

次ページに続く

パワーシステムの起動

パワーシステムが起動しない場合は、30秒以上待ってから操作してください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードをONモードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがありますが、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで POWER に触れてください。
➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.347

POWER は、エンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

走行可能な状態でも、エンジンが始動しないことがあります。
READY表示灯が点灯していれば走行可能です。
READY 表示灯が点灯している状態で、ブレーキペダルを踏んで POWER を押すとパワーモードが OFF になり、走行できなくなります。
➔ **READY 表示灯** P.77

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、READY 表示灯の点灯を確認し、シフトポジションを D にする。
▶ 後退する場合は R にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
➡ **パーキングブレーキ** P.280
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

≫発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。
車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

ハイブリッド車は走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がでないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。
READY 表示灯が点灯しているかどうかを確認し、発進操作をしてください。

≫ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

■霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

走行時の注意点

走行中はパワーシステムを停止させないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを N にしないでください。
エンジンブレーキや回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

次ページに続く

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

その他の注意点

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。
滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

デュアルクラッチトランスミッションについて

■クリープ現象

パワーシステムが起動しているとき、セレクトレバーがP N以外に入っているとオートマチック装備のガソリン車と同様に、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■キックダウン

シフトポジションがDで走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

▶クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

▶キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき



P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
- 通常走行
- 7 速マニュアルシフトモード✤ にするとき

L ロー
強いエンジンブレーキが必要なとき

■パーキングスイッチ



パワーモードが ON モードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションが P になり、スイッチのインジケーターが点灯します。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

シフト操作

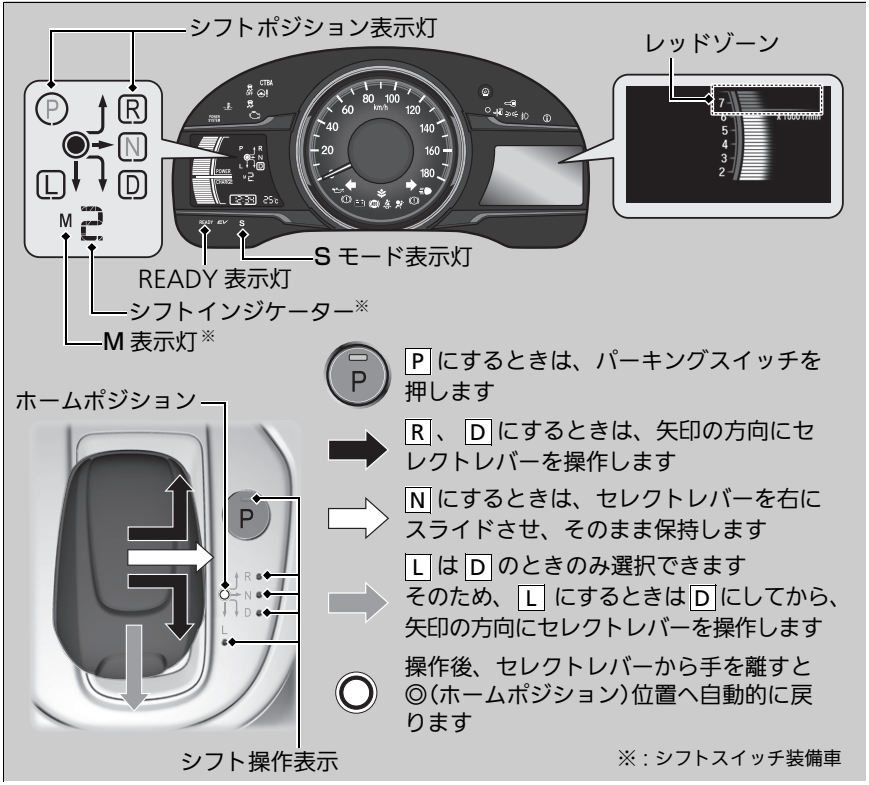
R のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトポジションが R の位置になっていることを知らせます。

車を後退させるときは、トランスミッション保護のため、車速が制限されることがあります。

N のポジションの時にアクセルペダルを踏むとブザー音が鳴ります。
ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを D または R にしてください。

■セレクトレバーの操作

セレクトレバーの右にあるシフト操作表示は、メーター部にあるシフトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示します。



▶セレクトレバーの操作

⚠警告

セレクトレバーにものをぶら下げたりしない。
レバーがホームポジションに戻らなくなるため、車が突然発進するなどの思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもシフトポジションの位置を確認してください。

以下のとき、トランスミッションに異常があります。

- 選択しているシフトポジションの表示灯が点滅しているとき

急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。
全てのシフトポジションが点灯した場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。
異常なければ消灯しますが、Honda 販売店で点検を受けてください。

エンジンの回転をあやまってSPORTメーターのレッドゾーン(限界回転数)以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。
そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

外気温が非常に低い(マイナス 30 度以下)とき、シフトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

■自動パーキング選択制御

■ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2ｋm/h 以下のときに、 P 以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で P になります。

▶ その後シフト操作を行い、他のシフトポジションを選択しても、ブレーキペダルを離すと再度自動で P になります。

■パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが P 以外のまま、パワーモードをOFFモードにすると、シフトポジションが自動で P になります。

■アクセサリーモード時の N ポジション保持制御

シフトポジションを N にして、約５秒以内に POWER を押すと N の状態のままパワーモードはアクセサリーモードになります。

▶ アクセサリーモードを15分間保持した後、自動的にOFFモードになります。

この制御中に、シフトポジションを P にすると、この制御は解除され、OFFモードになり、このときに数秒間 P が点灯します。

自動パーキング選択制御

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションを P にし、適切な方法により行ってください。

駐車する P.285

この制御により P になった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装備し、シフト操作をしてください。

ドア Open 自動パーキング選択制御

この制御により P になったときは、ドアを閉めて、改めてシフトポジションを選択してください。

次ページに続く

■シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフトポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・セレクトレバーの操作	3. 操作後のシフトポジション	対処のしかた
P	ブレーキペダルを踏んでいない	他のシフトポジションを選択する	P	アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む
	アクセルペダルを踏んでいる		N	
N	低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない			
	低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる			
N D L	前進している	R を選択する		停車する
R N	後退している	D を選択する		
R N D L	走行中	P を選択する		
R	ー	L を選択する		D を選択してから L を選択する
P N	ー		操作時のシフトポジションのまま	
	READY 表示灯が点灯していない	P N 以外を選択する		READY 表示灯の点灯を確認する

運転

シフトスイッチ装備車

■ 7 速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときにも、使用してください。

■シフトポジションが D で、S モードスイッチが OFF のとき

シフトスイッチを引くと、一時的に7 速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。

EV 走行中に 7 速マニュアルシフトモードにすると、自動的にエンジンが始動し、モード作動中はエンジンで走行します。

定速走行の状態になると、7 速マニュアルシフトモードは自動的に解除され、シフトインジケーターが消灯します。また、 + のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けることでも解除することができます。カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

■シフトポジションが D で、S モードスイッチが ON のとき

シフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードとなり、 M 表示灯とシフトインジケーターが点灯します。

モードを解除する場合は、S モードスイッチを押すか、 + のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けてください。7 速マニュアルシフトモードが解除され、M 表示灯とシフトインジケーターが消灯します。

»7 速マニュアルシフトモードとは

以下の走行状態のときに、シフトスイッチを引くと変速せず表示灯が点滅します。

- 操作後のエンジン回転数が許容範囲外のとき
- 車速が各ギヤの許容範囲外のとき

また、車両状態によって、変速ができないこともあります。

エンジンやトランスミッションを保護するために、自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。このとき該当する表示灯が点灯します。

以下のとき、自動的に 7 速マニュアルシフトモードを解除することがあります。

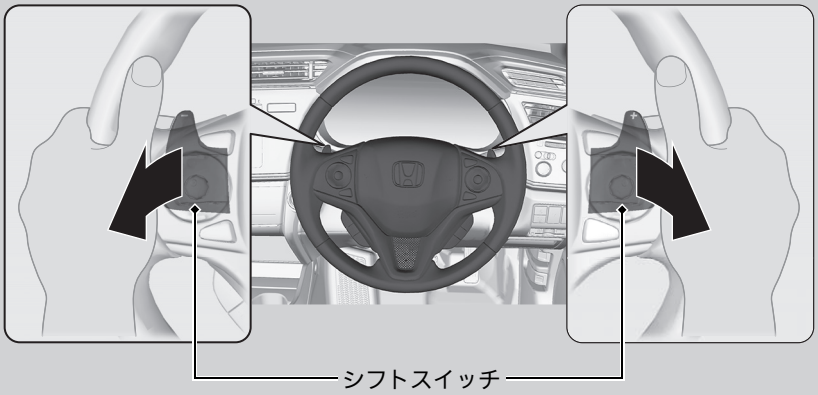
- トランスミッション保護が必要なとき
- 高電圧バッテリーの残量が低下したとき
- モード作動中に、滑りやすい路面でタイヤがロックしたとき

次ページに続く

シフトスイッチ装備車

■ 7 速マニュアルシフトモードの操作

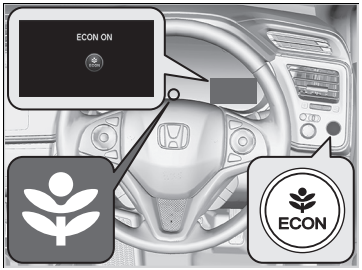
1 回のシフトスイッチ操作で、ギヤは 1 段変速します。



−のシフトスイッチ
(左側)を引くと、
シフトダウン
(低速ギヤに変速)

＋のシフトスイッチ
(右側)を引くと、
シフトアップ
(高速ギヤに変速)

ECON スイッチ

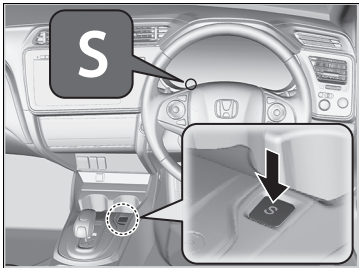


スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、モーター、エアコンの作動を制御して、省燃費運転をしやすくするように制御します。

パワーモードが ON モードのときに ECON スイッチを押して、ECON モードの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ECONモードがONの時は、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

S モードスイッチ



スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、モーターの作動を制御して、素早い発進加速や力強く伸びのある走行を可能にします。

パワーモードがONモード のときにスイッチを押すと、S モードが ON になります。

パワーモードをアクセサリーモードまたはOFF モードにするとS モードは自動的にOFF になります。

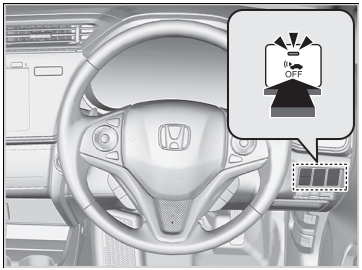
ECON スイッチ

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

車両接近通報装置

約 20km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

■車両接近通報装置の ON と OFF



車両接近通報を停止(OFF)状態にするには、OFFを押してください。
車両接近通報が停止状態になります。

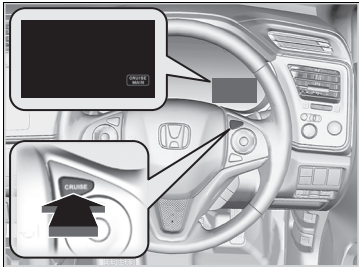
再度使用 (ON)するには、OFFを押します。

≫車両接近通報装置

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

クルーズコントロール*

高速道路のような加速 / 減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。クルーズコントロールは手元のスイッチ操作で、車速の上げ / 下げなどが行えます。



ハンドルの CRUISE スイッチを押すとメーターの CRUISE MAIN が点灯し、クルーズコントロールが ON になります。

■使用できるシフトポジション：D

■使用できる車速：約 30 ～ 100km/h の範囲の希望値

▨クルーズコントロール*

⚠警告

下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。

道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

- **混んでいて、車間距離が十分にとれない道路**
  道路状況に合った速度で走行できません。
- **急な下り坂のある道路**
  エンジンブレーキや回生ブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。
- **凍結や積雪などで滑りやすい道路**
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにするとクルーズコントロールは自動的に OFF になります。

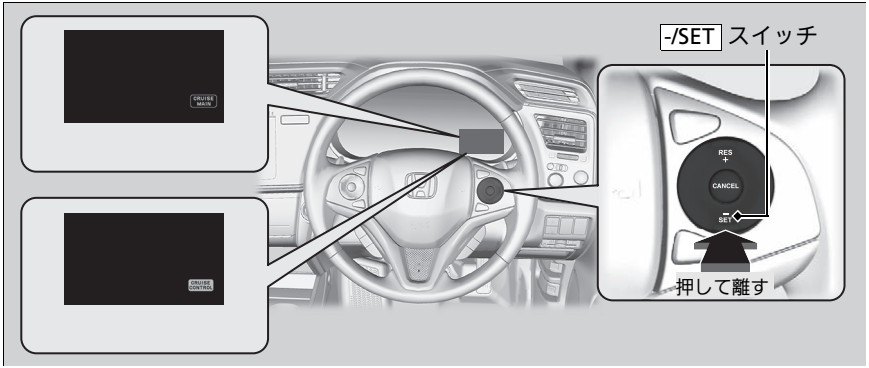
上り坂や下り坂では、条件により一定速度を保てない場合があります。

ECON モードのときは、よりスムーズな加速となります。

次ページに続く

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■車速をセットするには



希望の車速になったらペダルから足を離し、 -/SET スイッチを押します。
-/SET スイッチを離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。
同時に、マルチインフォメーションディスプレイに **CRUISE CONTROL** が表示されます。

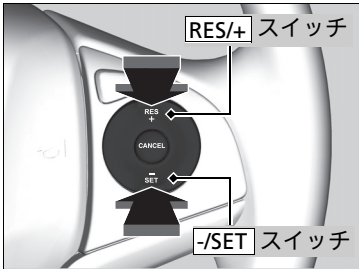
▶車速をセットするには

自動定速走行をしないとき

安全のため CRUISE スイッチを押して OFF にしてください。
パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにすると、 CRUISE は自動的に OFF になります。

■車速を調節するには

手元の RES/+ スイッチと -/SET スイッチの操作で、車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ スイッチ

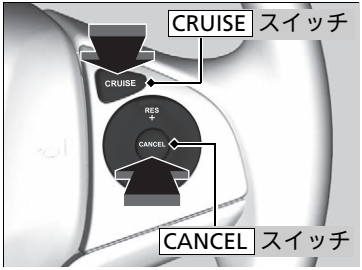
- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離したときの車速に固定

-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離したときの車速に固定

次ページに続く

■解除するには



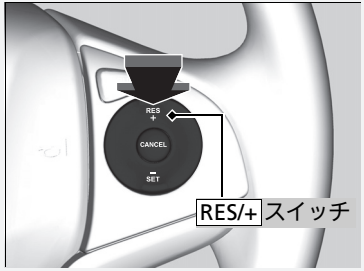
次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が消灯します。

- CANCEL スイッチを押す
- CRUISE スイッチを押す
- ブレーキペダルを踏む

≫解除するには

解除前の設定車速に復帰させる

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h以上の車速で走行中に RES/+ スイッチを押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。



ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が 30km/h 未満になったとき
- CRUISE スイッチで OFF 操作をしたとき

車速が 25km/h 以下になると

自動的に自動定速走行が解除になります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

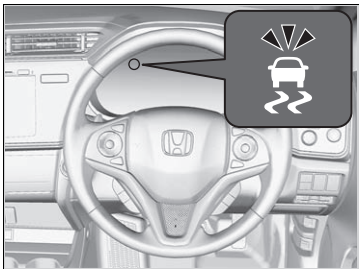
■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.282

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能
滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能
急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。
電子制御ブレーキアシスト P.283

■ VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

次ページに続く

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

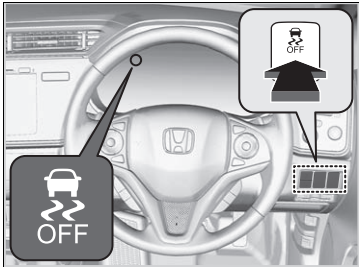
新雪やぬかるみから脱出したいときに、OFF で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードをON モードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■ VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。
再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。
前回の走行時にOFFにした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的にONになります。

▶VSA(ビークルスタビリティアシスト)

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

4WD(四輪駆動機構)*

4WD(四輪駆動機構)は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は2WD 車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

▶4WD(四輪駆動機構)*

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WD が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

4WD の状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上がると、システム保護のため4WDから2WD に切り換わることがあります。
しばらくして油温が下がると、4WD に復帰します。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。
バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3ヶ月に一度、30 分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。
長期間走行をしないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。
バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

ホンダセンシング✤

フロントグリル内に設置したレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置したフロントセンサーカメラの、特性の異なる2 種類のセンサーで構成された運転支援システムです。

ホンダセンシングには、次の機能があります。

- 衝突軽減ブレーキ（CMBS） ➔P.219
- 誤発進抑制機能 ➔P.226
- 歩行者事故低減ステアリング ➔P.228
- ACC（アダプティブクルーズコントロール） ➔P.234
- LKAS（車線維持支援システム） ➔P.248
- 路外逸脱抑制機能 ➔P.259
- 先行車発進お知らせ機能 ➔P.266
- 標識認識機能 ➔P.270

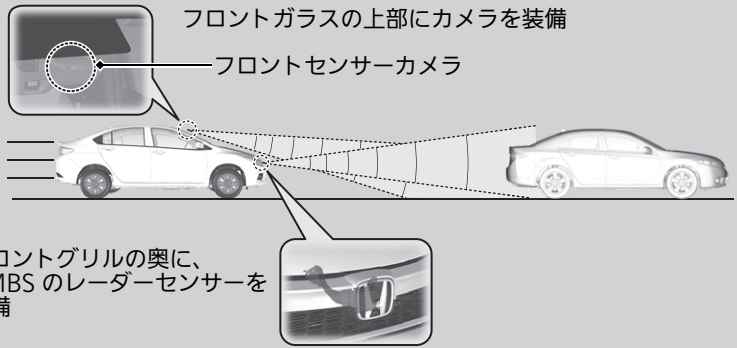
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

■システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車および歩行者に対しては、自車が約 80km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
さらに、約 30 ～ 80km/h で走行中に対向車に対して CMBS が検知する状況では、ステアリング振動による警告も作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、自動ブレーキは解除されます。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

⚠警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

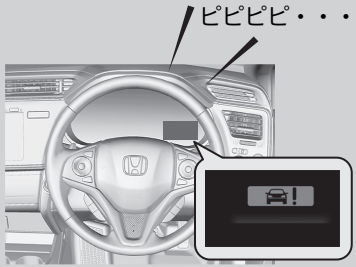
レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.279

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.277

次ページに続く

■CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
- マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーに加え、ステアリング振動による警告が発生します



CMBS の警報距離を Far・Normal・Near の 3 段階から選択することができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.110

Far は Normal に対して遠くで警告します。Near は Normal に対して近くで警告します。

■ステアリング振動による警告について

対向車に対して衝突のおそれがあるときは、視覚への警告に加え、ハンドルに短時間の弱い振動を発生させて運転者に注意を喚起します。

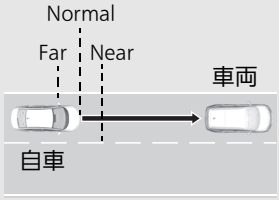
▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

⩺衝突軽減ブレーキ（CMBS）

EPS 警告灯が点灯しているときは、ステアリング振動による警告は作動しません。
➔ **警告灯** P.65

■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

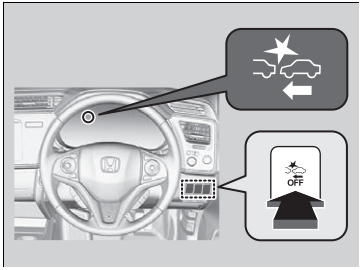
車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ステアリング	ブレーキ
第 1 段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が 2 回点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 ➔ **カスタマイズ機能** P.110	対向車の場合、ハンドルに短時間の弱い振動が発生	—
第 2 段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	—	軽いブレーキ
第 3 段階		回避が困難な状況			強いブレーキ

※：CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

運転

次ページに続く

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFF スイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムのON とOFF を切り換えます。

CMBS がOFF に切り換わったときCMBS警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CMBS OFF」とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例
- フロントグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シールなどでカメラ前方が覆われているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例
- 雨、霧、雪などの悪天候
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

次ページに続く

■前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 暗がりで前方の車両が無灯火のとき

■その他、作動できない事例

- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

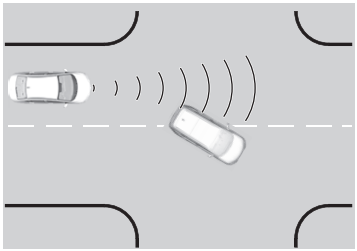
サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

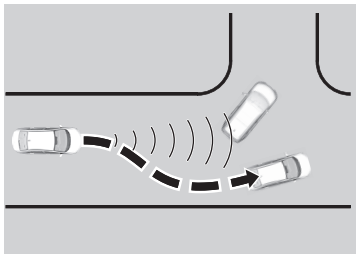
■衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

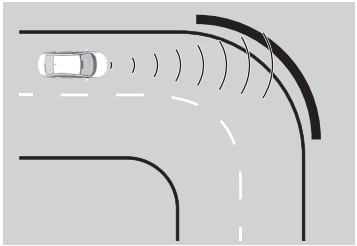
- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき



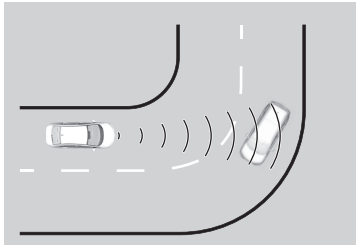
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 交差点などで車両に接近して走行する場合



- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき



- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき

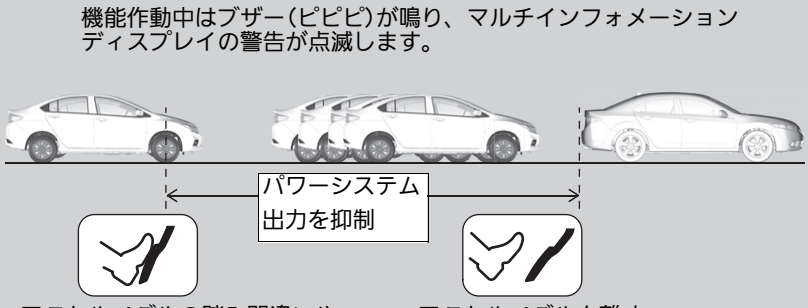


- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

誤発進抑制機能

フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラによって、停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示で接近を知らせる機能です。
なお、急な坂道やセレクトレバーが P、R、N のときは、作動しません。

作動状態



■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- CMBS を OFF にしたとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき

≫誤発進抑制機能

⚠警告

誤発進抑制機能はあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がセレクトレバーやペダルの位置および常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

誤発進抑制機能

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.279

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.277

誤発進抑制機能が作動し、道路上の段差を乗り越えることができない場合には CMBS を OFF にしてください。
踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

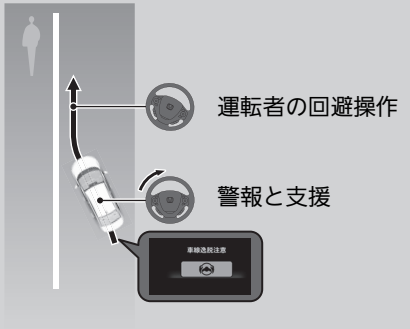
歩行者事故低減ステアリング

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

■システムの作動



カメラが車線を認識し、
レーダーとカメラにより
歩行者を検出します



路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。
車両と歩行者の位置関係によってはCMBS の作動が優先される場合があります。

≫歩行者事故低減ステアリング

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.279

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.277

■システムの作動条件

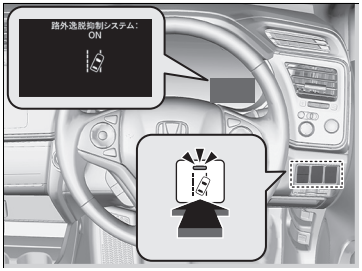
歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

■システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。
路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ONのときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムの作動条件

運転者による操作が行われているときには支援が感じられないことがあります。

システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用し、路外逸脱抑制機能の設定をカスタマイズすることができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

カスタマイズ機能 P.110

次ページに続く

■歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)や歩行者が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

次ページに続く

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントグリルが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

■歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

歩行者事故低減ステアリングシステムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントグリルは常にきれいにしておく
- フロントグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントグリルにステッカーを貼らない
- フロントグリルを交換しない

ACC(アダプティブクルーズコントロール)

ACCは、フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。
ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

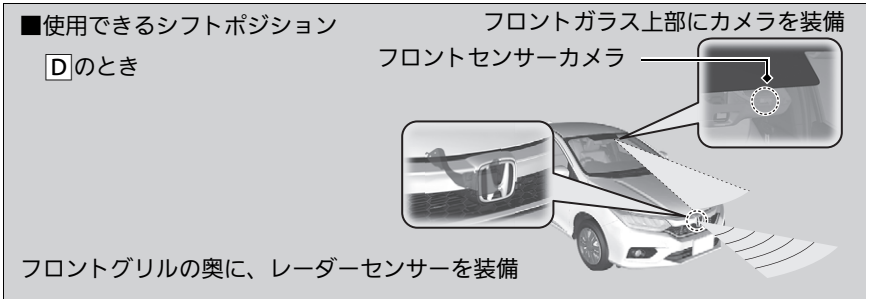
ACC を作動させるには：

ACC システムは、シフトポジションがDのときに使用することができます。

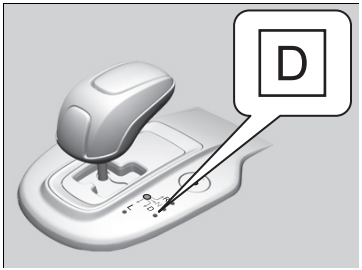
≫ACC(アダプティブクルーズコントロール)

⚠警告

ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。



ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、ACC は作動しません。
悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。



ACC（アダプティブクルーズコントロール）

⚠警告

ACC は、補助システムとして使用してください。ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

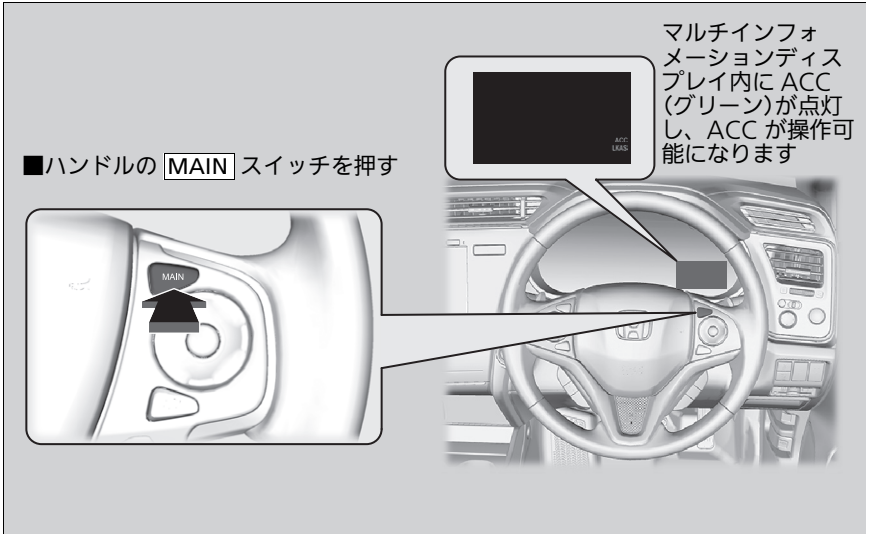
レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **レーダーセンサー** P.279

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.277

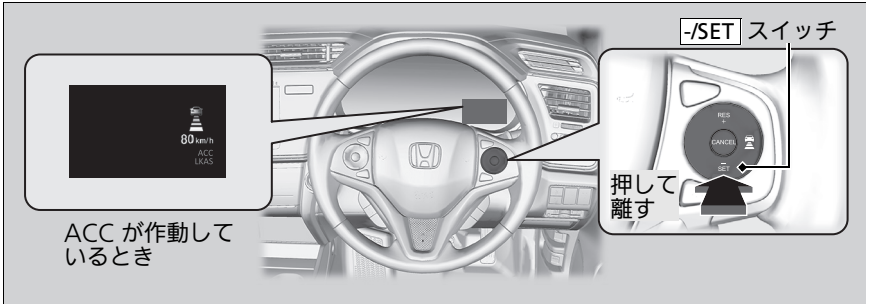
使用上の注意：
ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

次ページに続く

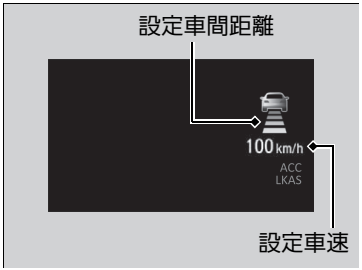
■システムを作動させるには



■車速をセットするには



車速が 30km/h 以上でブレーキペダルを操作していないときに -/SET スイッチを押して離すと現在の車速が設定車速とされ、ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。



≫車速をセットするには

MAIN スイッチを押すと、ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

下記の状況のときは、ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

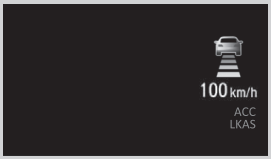
次ページに続く

■ ACC の作動

■先行車がいるとき

ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



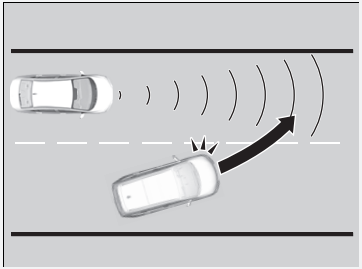


マルチインフォメーションディスプレイに車のアイコンが表示されます

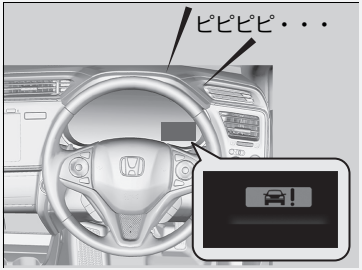
設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

»ACC の作動

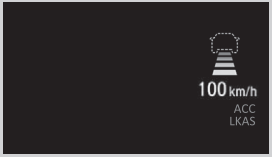
先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



■先行車がいないとき



マルチインフォメーション
ディスプレイに車のアイコン
が点線で表示されます。

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速したあと定速走行します。

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

ACC の作動

先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

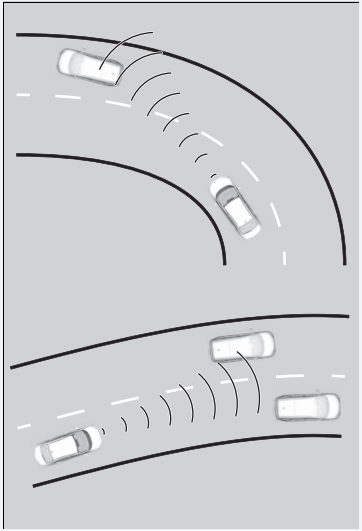
マルチインフォメーションディスプレイを使って先行車検知音の有り / 無しを設定できます。
➔ **カスタマイズ機能** P.110

制限：
安全な車間距離を保つために、ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより ACC が適切に作動しないことがあります。
➔ **ACC の条件と制限** P.241
➔ **車間距離を設定するには** P.245

次ページに続く

ACC の作動

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、ACC 警告灯が点灯する場合があります。
以下の条件では ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

➔ フロントセンサーカメラ P.277

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

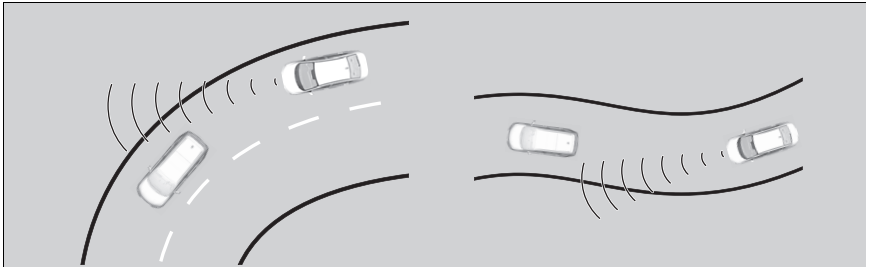
■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

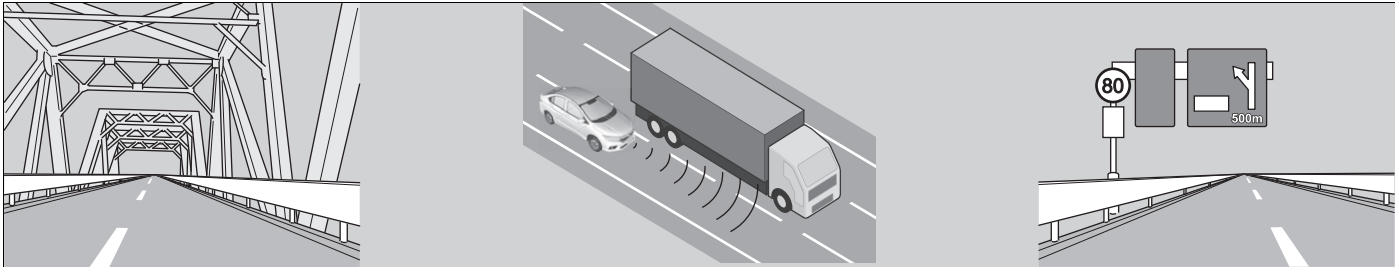
次ページに続く

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

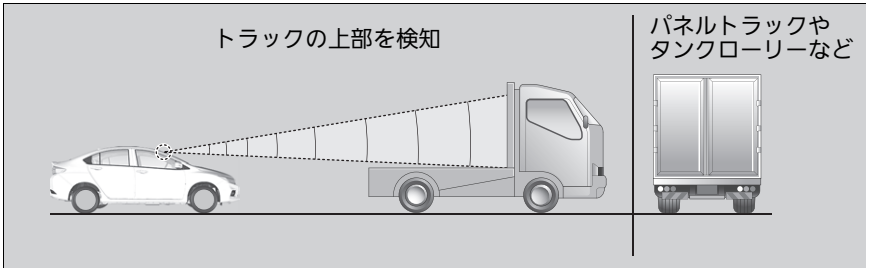


■前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

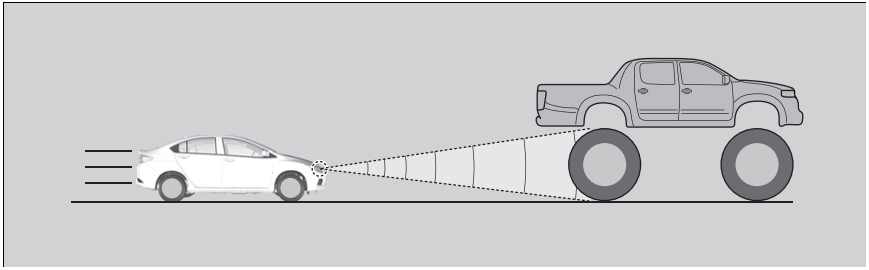
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき



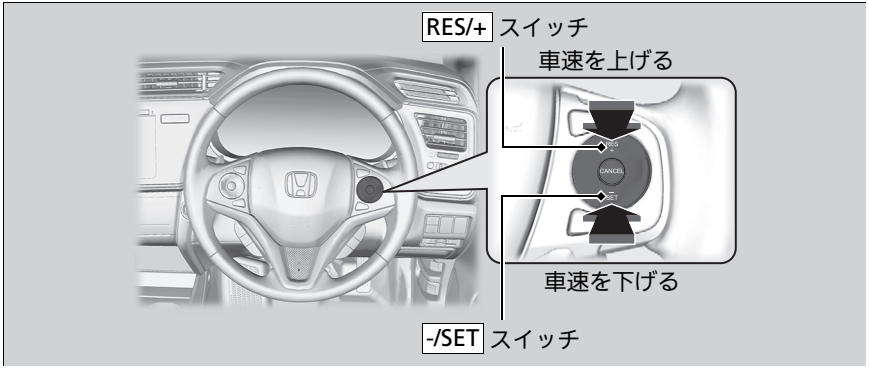
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



次ページに続く

■設定車速を調整するには

手元の RES/+ スイッチと -/SET スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げることができます。



RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

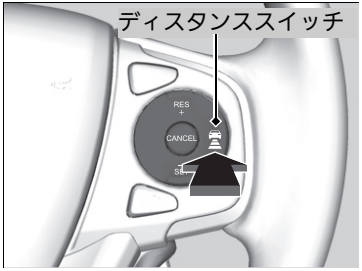
-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

≫設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

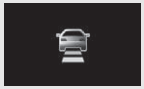
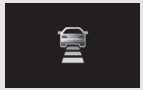
■車間距離を設定するには



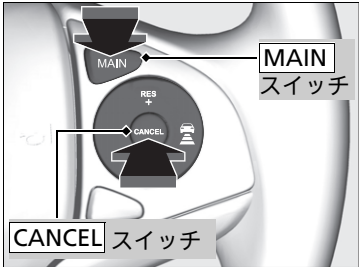
ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

次ページに続く

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 40m
長		約 47m	約 59m
最長		約 61m	約 78m

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、ACC が解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
- MAIN スイッチを押す
  ▶ マルチインフォメーションディスプレイ内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む

■ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、ACC が自動解除されます。

- 悪天候(雨、霧、雪など)のとき
- フロントグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 車速が 25km/h 未満になったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

▨解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

ACC を解除したあとでも、RES/+ スイッチを押すと解除前の設定で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

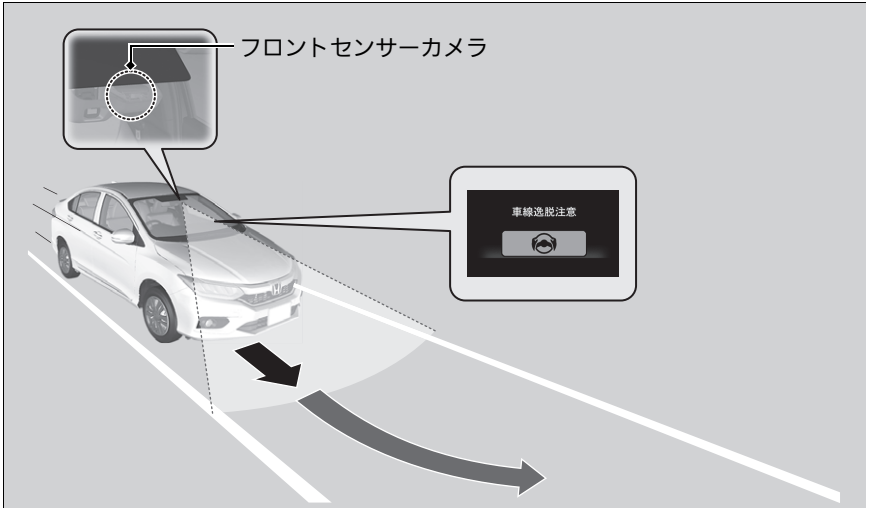
- MAIN スイッチを押して ACC を OFF した後
- 30km/h 未満のとき

設定速度の設定や復帰は、MAIN スイッチがオフの状態ではできません。

LKAS(車線維持支援システム)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。ウィンカーを出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

LKAS(車線維持支援システム)

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

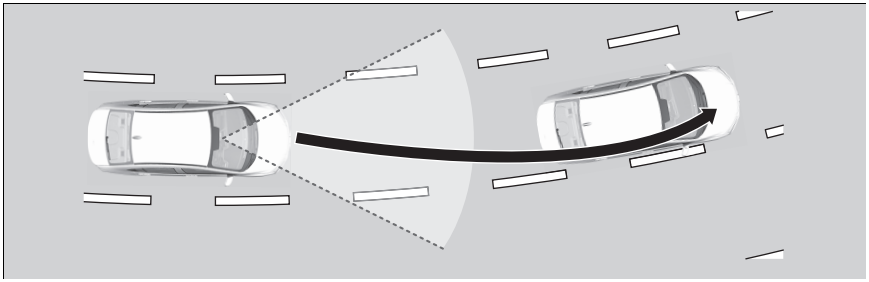
インストルメントパネル上部に物を置かないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

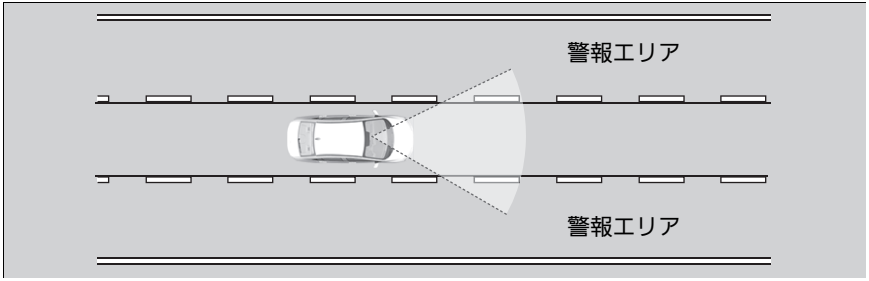
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動とディスプレイ表示で行います。



LKAS(車線維持支援システム)

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.277

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

➔ **LKAS の条件と制限** P.255

車線の検知に失敗すると一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

次ページに続く

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 100km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

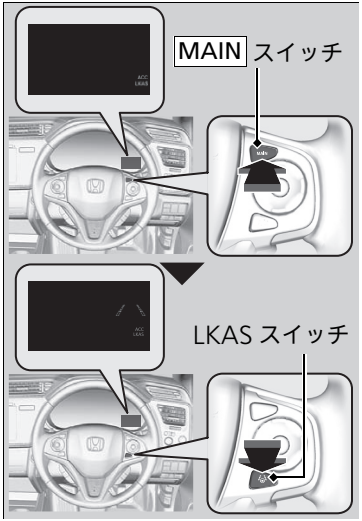
LKAS を作動させるには

システムが作動しているときに、左右の白線 (黄色線) に偏る場合は、システムを停止し指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

LKAS の条件と制限 P.255

■システムの作動方法





1. MAIN スイッチを押す
▶ LKASシステムがONになり、メーター内に LKAS 表示灯(グリーン)が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す
▶ LKASシステムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示(点線)が点灯します。

3. 車線の中央付近を走行する
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線(黄線)を検知すると、LKASが制御を開始します。

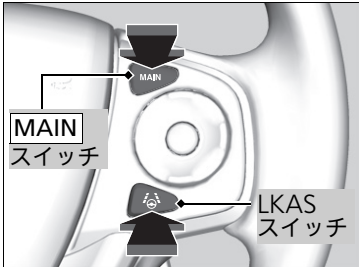
LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

次ページに続く

■解除するには



以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。

- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時にLKASがON状態でも、パワーモードをOFFモードにする度にLKASはOFFになります。

»解除するには

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時にACC も解除されます。



■LKAS の一時解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。

- ワイパーを連続作動したとき
  ▶ ワイパースイッチをLO、HIまたはMISTで連続作動しているときは、LKAS は自動解除します。ワイパーを OFF にすると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
  ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知すると LKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
  ▶ 車速が 60km/h 以下になると、ブザーが鳴り、LKAS は自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

LKAS の一時解除

マルチインフォメーションディスプレイを使って自動解除ブザーの有り / 無しを設定できます。

カスタマイズ機能 P.110

次ページに続く

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき

これらの条件が長く続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 天候（雨、霧、雪など）により、白線（黄線）が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

次ページに続く

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線（黄線）のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線（黄線）が道路にあるとき

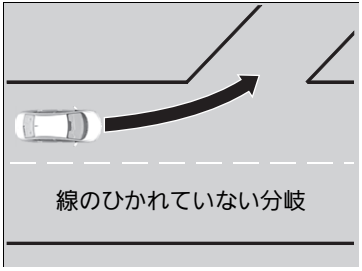


- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき

- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



次ページに続く

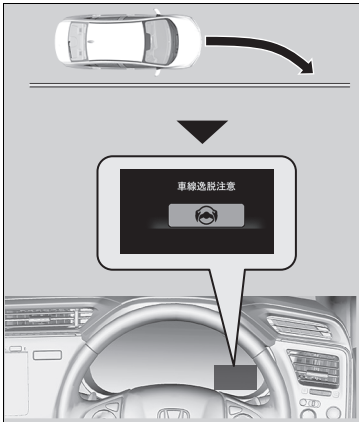
■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

■システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄色線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。
マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。
また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。
ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。

次ページに続く

▨路外逸脱抑制機能

⚠警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱を検知したときに警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また、天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.277



システムの支援中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
支援中に運転者が操作しなかった場合は左記の警告を表示します。

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。
➡ **路外逸脱抑制機能の条件と制限** P.263

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

繰り返し左記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り支援を中断します。

カスタマイズ機能で「アシストタイミング早め」を選択し、LKAS(車線維持支援システム)を作動させていない場合、車線逸脱の可能性を検知すると以下のメッセージが表示されます。
➡ **カスタマイズ機能** P.110



■システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。

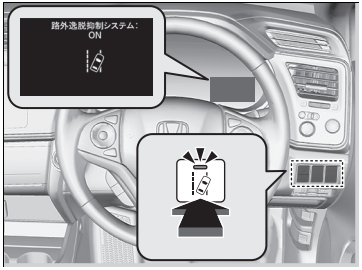
警告灯 P.65

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

次ページに続く

■システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り替えてください。

▶ システムが ON のときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

≫システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用してシステムの設定をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし　警報のみ」を選択した場合、システムはハンドルおよびブレーキ制御を行いません。

➔ **カスタマイズ機能** P.110

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

次ページに続く

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

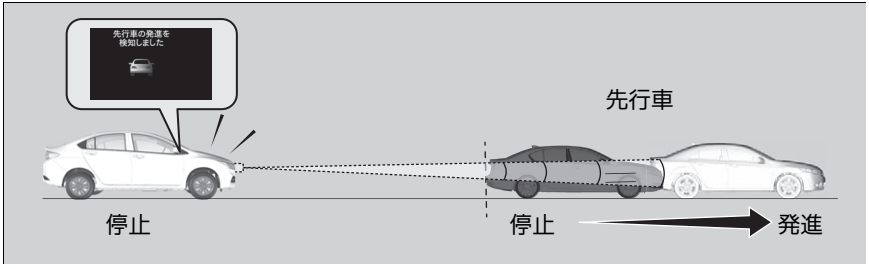
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- カメラ温度が高温のとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションがDの場合

ブレーキペダルを踏んでいる。

≫先行車発進お知らせ機能

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

レーダーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **レーダーセンサー** P.279

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.277

■シフトポジションがNの場合
ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.110
標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。
早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

先行車発進お知らせ機能

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

先行車発進お知らせ機能をOFFにすることができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.110

ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。
➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)** P.234

次ページに続く

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例
- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例
- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

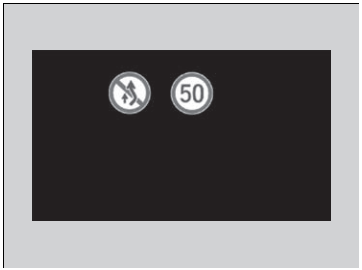
標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の４つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

■作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



≫標識認識機能

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **フロントセンサーカメラ** P.277

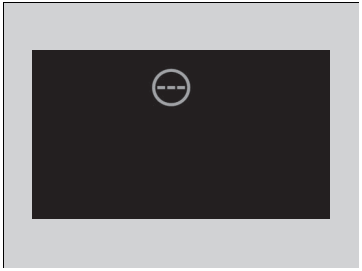
標識認識機能は以下の条件で作動します。
- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。
- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。
- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百〜千数百 m)を走行したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

次ページに続く

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



標識認識機能

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。窓ガラスが曇った場合、必要に応じて、デフロスターを使用してください
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。
安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

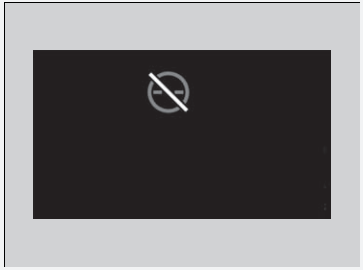
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- トランクやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

標識認識機能

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。
のメッセージが消えないときは、Honda販売店で点検を受けてください。



次ページに続く

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜などで覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い値を表示したりすることがあります。)

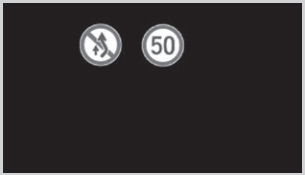
- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終りなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

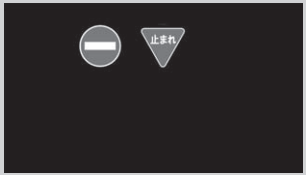
次ページに続く

■マルチインフォメーションディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例





常駐表示モードのときの表示例



左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

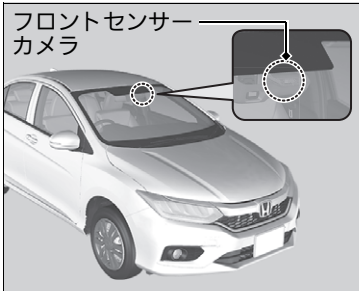
▶マルチインフォメーションディスプレイの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

マルチインフォメーションディスプレイは、選択表示モードのほかに、常駐表示モードの選択ができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.110

常駐表示モードの道路標識表示
常駐表示モード状態のときは、マルチインフォメーションディスプレイに縮小サイズの道路標識のアイコンを表示し続けることができます。
➔ **カスタマイズ機能** P.110

フロントセンサーカメラ



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

フロントセンサーカメラ

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
車内の清掃 P.323

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合はHonda 販売店にご相談ください。
- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターモードを使用してください。

次ページに続く

フロントセンサーカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

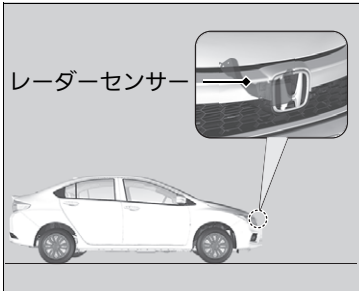
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラが高温です」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターモードを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません　フロントウインドウが汚れています」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

レーダーセンサー



レーダーセンサーはフロントグリル内に設置されています。

レーダーセンサー

フロントグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントグリルは常にきれいにしておく
- フロントグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントグリルにステッカーを貼らない
- フロントグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーに衝撃が加わったとき
- フロントグリル周辺の修理を行うとき

以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

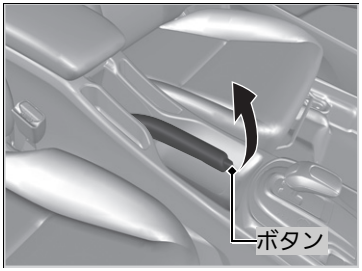
- フロントグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、各機能が作動しない場合があります。

ブレーキシステム

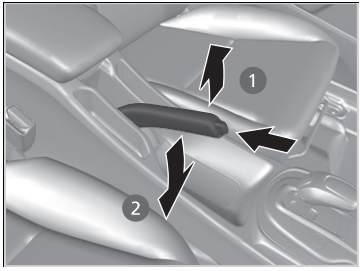
■パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキレバーにより操作します。



■パーキングブレーキをかける

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引く。



■パーキングブレーキを解除する

1. レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押す。
2. ボタンを押したまま、レバーを下まで完全に下ろす。

»ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、エンジンルームからモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

»パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除して下さい」と表示が出ます。

完全に解除すると、ブザーは止まります。
停車したときも、ブザーは止まります。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

➡ **電子制御ブレーキアシスト** P.283

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

➡ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.282

フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

≫ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。
ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

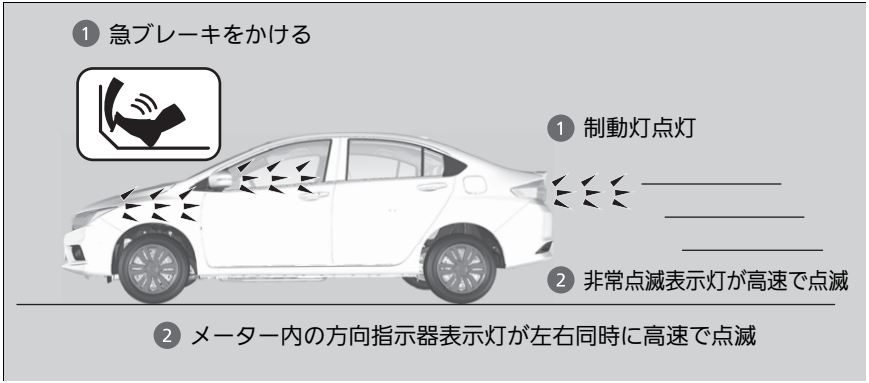
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➔ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.215

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動の仕組み



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

≫エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルをしっかり踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
3. パーキングスイッチを押す。
4. パワーシステムを停止する。
▶車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、シフトポジションが P N 以外の場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすい物があるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で P N 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら、もしくはクリープ現象で車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。
➔ **クリープ現象** P.202

次ページに続く

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車する

⚠注意

駐車時はパワーシステムをオフにする。
万一、シフトポジションがPN以外の場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リヤワイドカメラシステム✤

リヤワイドカメラの取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

指定燃料について

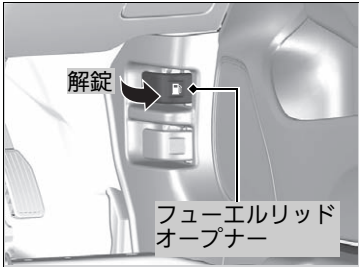
■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

40 リットル

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. パワーシステムを停止させる。
3. 運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

≫指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

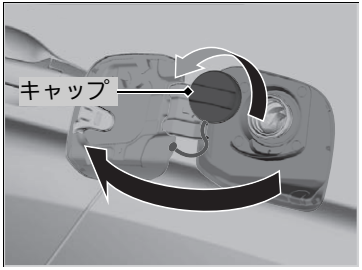
≫給油のしかた

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- パワーシステムは常に停止する
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

給油のしかた

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

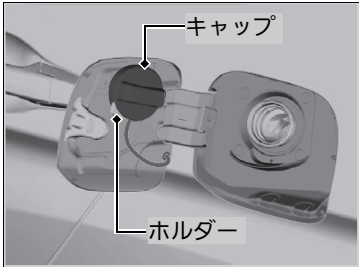
キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

次ページに続く



5. キャップをホルダーにかける。
6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
7. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

≫給油のしかた

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に
- 点検整備について 292
- メンテナンスを安全に行うために 293
- メンテナンスに関する注意事項 294

エンジンルーム内のメンテナンス
- エンジンルーム内のメンテナンス項目 ... 295
- ボンネットを開ける 296
- 推奨エンジンオイル 297
- ウィンドウォッシャー液の補給 298

電球の交換 299

ワイパーブレードラバーの点検と整備 .. 308

タイヤの点検と整備
- タイヤの点検 312
- タイヤとホイールの交換 316
- タイヤのローテーション 317
- 冬期のタイヤ 318

Honda スマートキー
- Honda スマートキーの取り扱いと電池交換 319

エアコンのお手入れ
- エアクリーンフィルター 321

清掃
- 車内の清掃 323
- 車外の清掃 325

アクセサリーと改造
- アクセサリー 329
- 改造や部品交換について 329

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

■メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

メンテナンスを安全に行うために

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

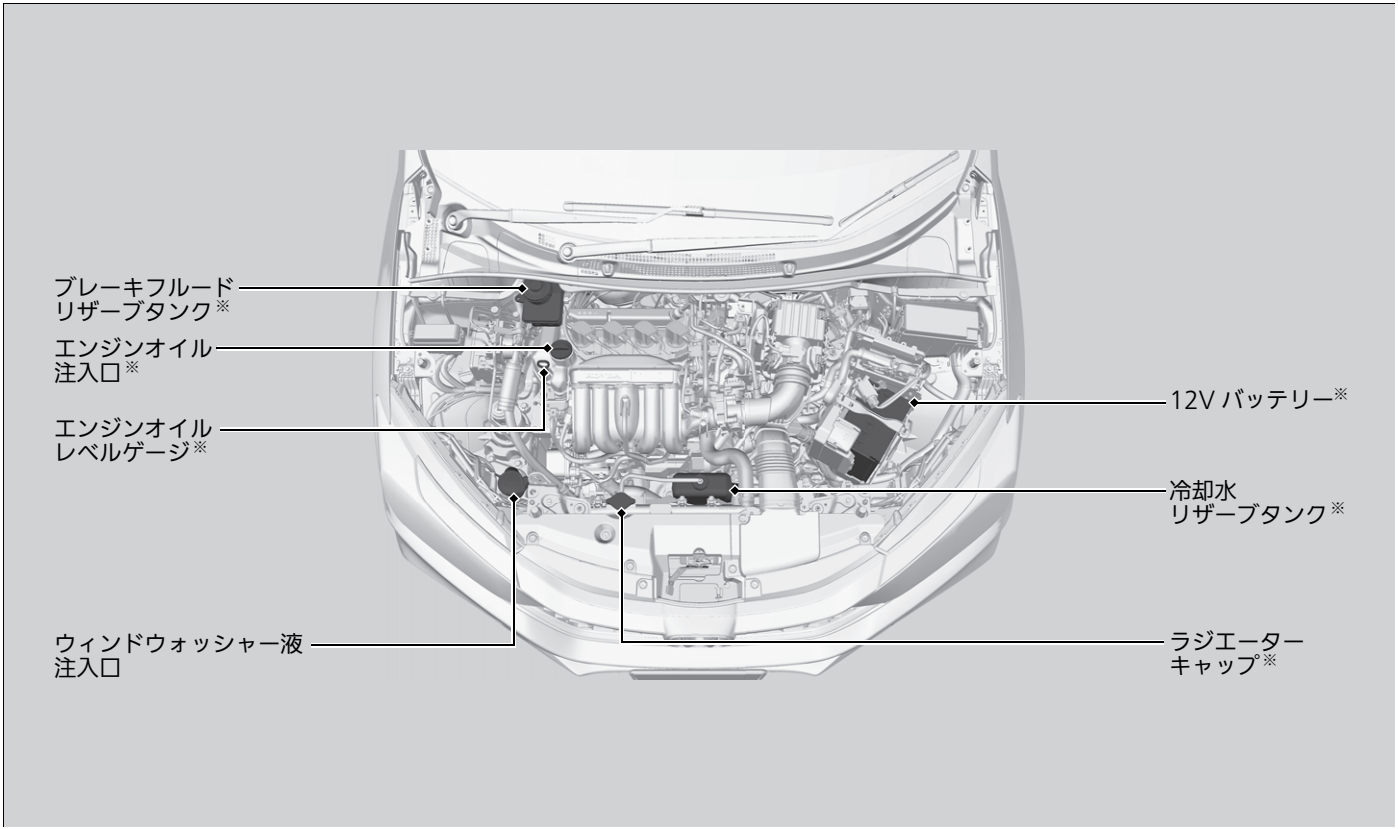
メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

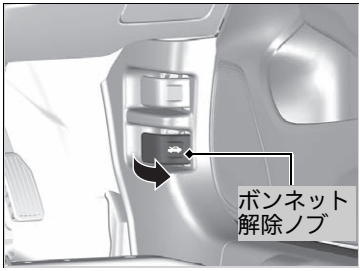
メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

エンジンルーム内のメンテナンス項目



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

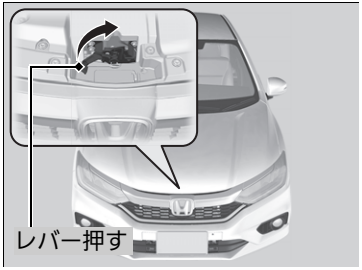
ボンネットを開ける



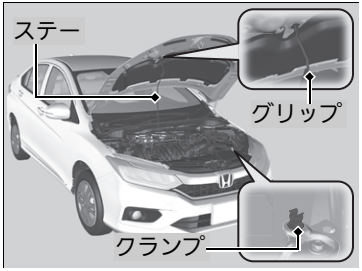
1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。

2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。

▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cmの高さから手を離します。

▶ボンネットを開ける

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

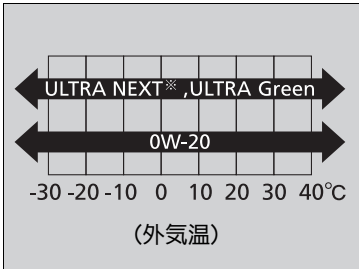
ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

推奨エンジンオイル

推奨エンジンオイル：
Honda 純正エンジンオイル
➡ **Honda 純正エンジンオイル** P.369
API SM もしくは SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル



エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。



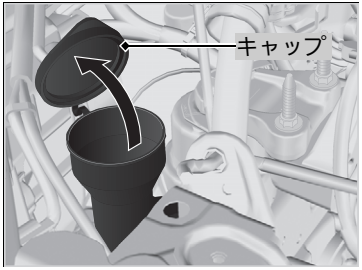
市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。
※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

推奨エンジンオイル

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。
ウォッシャー液は必要に応じて水（軟水）で薄めてください。

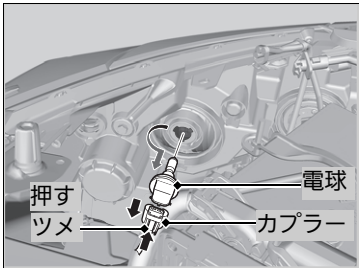
冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ロービームヘッドライト	
ハロゲンヘッドライト装備車	: 12V−55W
LED ヘッドライト装備車	: LED
ハイビームヘッドライト	
ハロゲンヘッドライト装備車	: 12V−60W
LED ヘッドライト装備車	: LED

■ロービームヘッドライト



ハロゲンロービームヘッドライト装備車

1. カプラーを外す。
   ▶ カプラーは、ツメを押しながら外します。
2. 古い電球を左に回し、抜き取る。
3. 新しい電球を右に回して固定する。
4. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

LED ロービームヘッドライト装備車

電球の点検、交換は、必ず Honda 販売店に依頼してください。

ヘッドライト電球

ハロゲンヘッドライト装備車

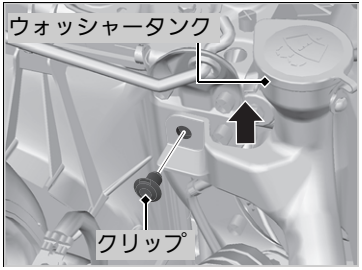
アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

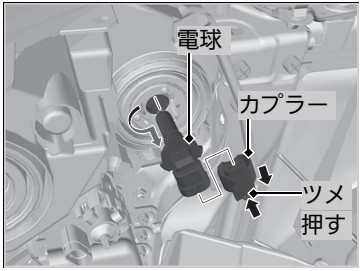
次ページに続く

■ハイビームヘッドライト



右側ハロゲンハイビームヘッドライト

1. クリップを外し、運転席側のウォッシャータンク注入口を取り外す。



右側 / 左側ハロゲンハイビームヘッドライト

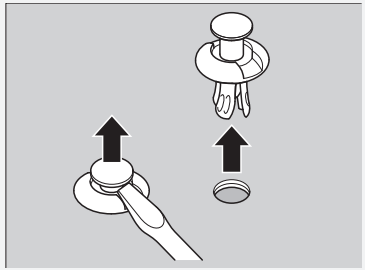
2. カプラーを外す。
▶ カプラーは、ツメを押しながら外します。
3. 古い電球を左に回し、抜き取る。
4. 新しい電球を右に回して固定する。
5. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

LED ハイビームヘッドライト装備車

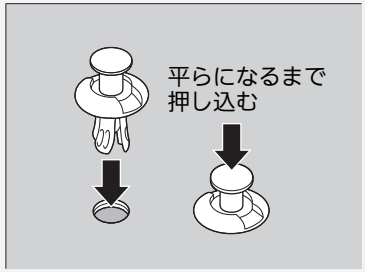
電球の点検、交換は、必ず Honda 販売店に依頼してください。

≫ハイビームヘッドライト

クリップを外すときは、クリップの切り欠き部にマイナスドライバーを差し込んで、中央部のピンを起こして取り外します。



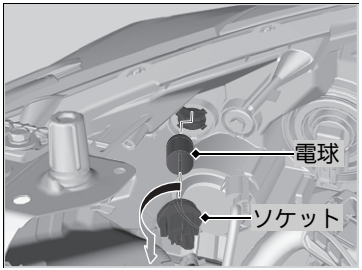
クリップを取り付けるときは、クリップ中央部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平らになるまで押してください。



前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V−21W(橙色)



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

アクセサリーライト電球

アクセサリーライトはLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

車幅灯電球

車幅灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

フォグライト電球*

フォグライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

制動灯 / 後部側方灯 / 尾灯電球

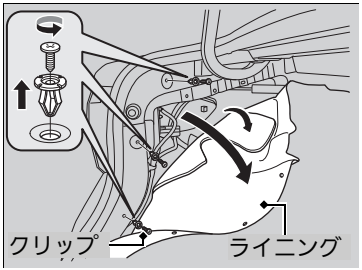
制動灯 / 後部側方灯 / 尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

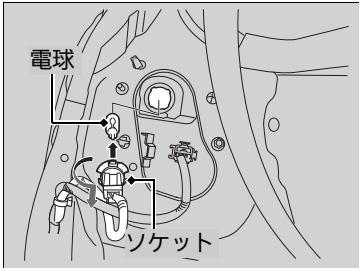
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯：12V−21W(橙色)



1. プラスドライバーでトランク内のクリップを外し、ライニングをめくる。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

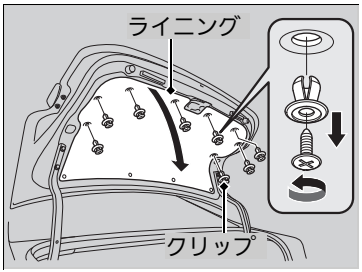
3. 新しい電球を差し込む。

後退灯、尾灯電球

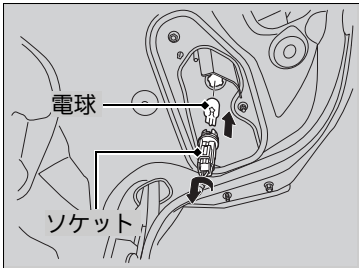
尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

後退灯を交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯：12V−16W



1. プラスドライバーでトランクリッド内側のクリップを外し、ライニングをめくる。



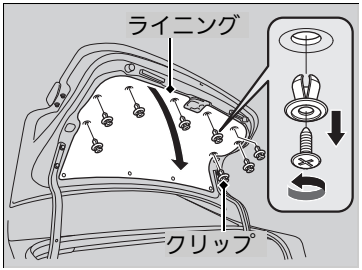
2. ソケットからカプラーを外す。
3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

番号灯電球

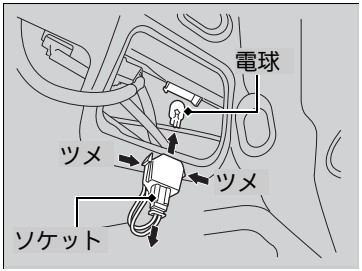
電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯：12V−5W



1. プラスドライバーでトランクリッド内側のクリップを外し、ライニングをめくる。



2. ツメを押しながらソケットを取り外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

LED タイプ

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

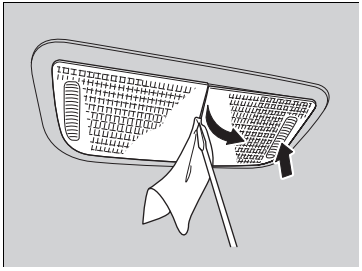
その他の電球

■マップランプ電球

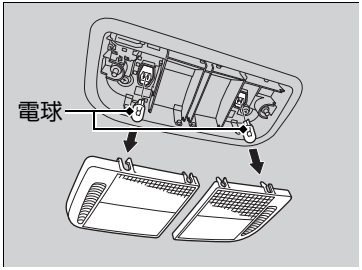
LED 非装着車

下記の電球をご使用ください。

マップランプ：12V―8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



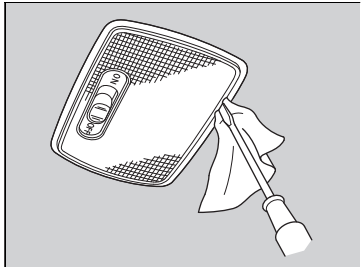
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■室内灯電球

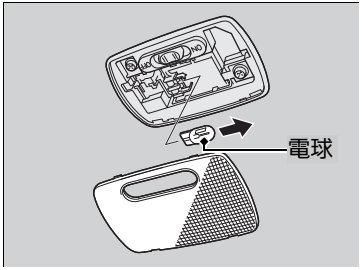
LED 非装着車

下記の電球をご使用ください。

室内灯：12V―8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

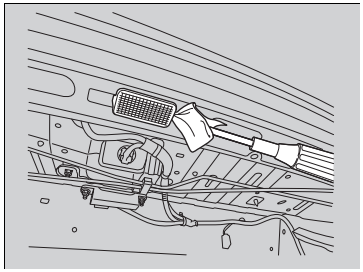


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

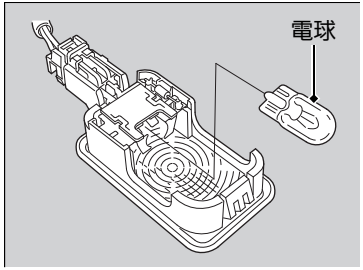
■トランク照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

トランク照明灯：12V−5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

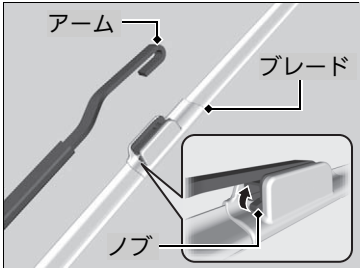
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードラバーの交換



1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。

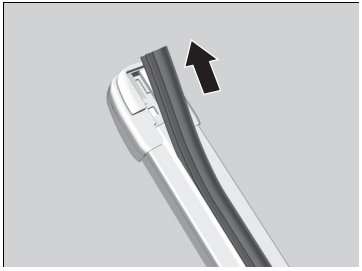
»フロントワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

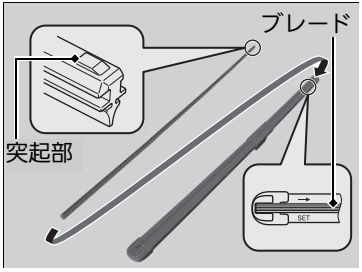
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

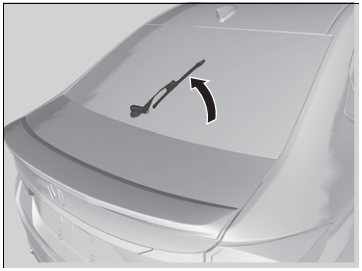


4. ラバーを突起部がない側からブレードに沿って差し込む。
▶ ラバーの突起部がブレードのツメに挿入されるまで差し込み、確実に固定します。

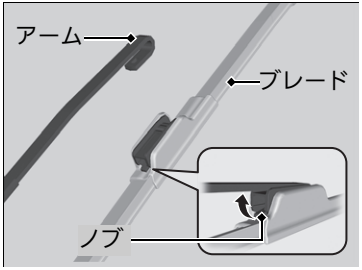
5. ブレードをワイパーアームに取り付ける。

6. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

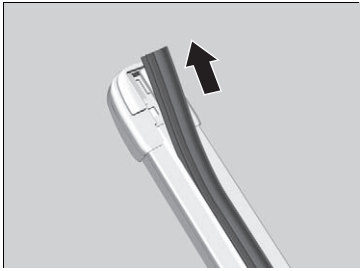
リヤワイパーブレードラバーの交換*



1. ワイパーアームを起こす。



2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。



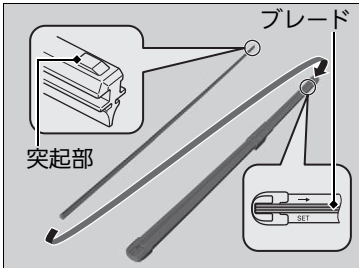
3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

リヤワイパーブレードラバーの交換*

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



4. ラバーを突起部がない側からブレードに沿って差し込む。
▶ ラバーの突起部がブレードのツメに挿入されるまで差し込み、確実に固定します。

5. ブレードをワイパーアームに取り付ける。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

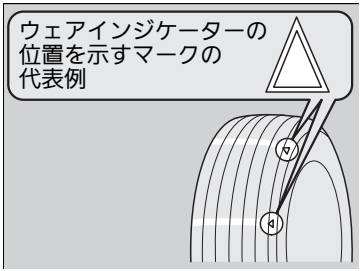
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

資料 P.369

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

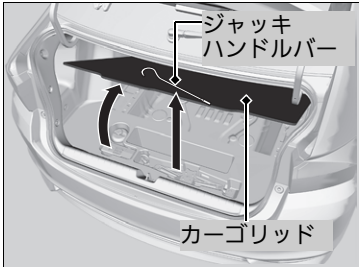
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

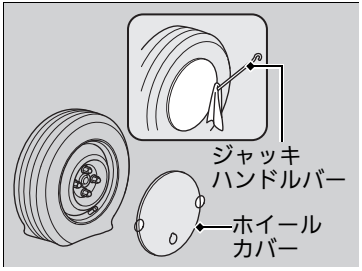
取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

次ページに続く

■ホイールカバー✤ の脱着方法



1. カーゴリッドを開けて、ジャッキの下にあるジャッキハンドルバーを取り出す。



2. ジャッキハンドルバーの先を切り欠き溝に差し込み、タイヤ側にこじってホイールカバーを外す。

▶ ホイールカバーが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーに布などを巻き付けてください。

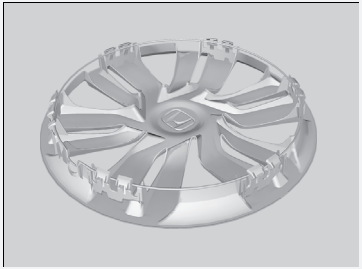
▶ 場所を変えて2カ所繰り返すと外れやすくなります。

≫ホイールカバー✤ の脱着方法

⚠注意

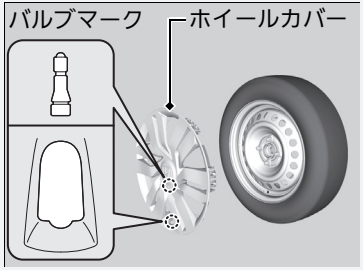
ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

ホイールカバーを取り付ける前に、裏面の爪がリングに正しく組み付いていることを確認してください。
正しく組み付いていないとホイールカバーが外れる原因となります。また、爪が折れているときはホイールカバーを取り付けないでください。



✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ホイールカバー✤の脱着方法



ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての４つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

タイヤとホイールの交換

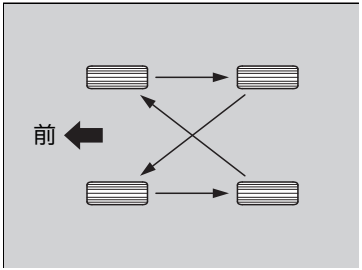
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

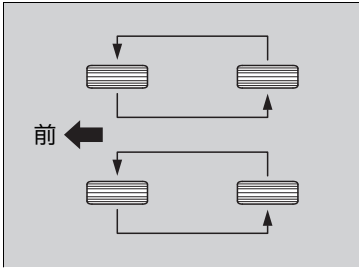
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

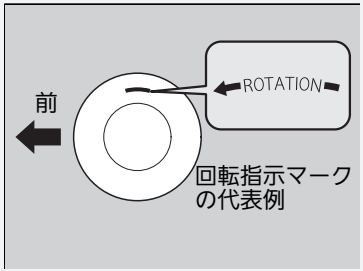
■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：
- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■取り扱いについて

Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

≫取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

≫電池交換のしかた

⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

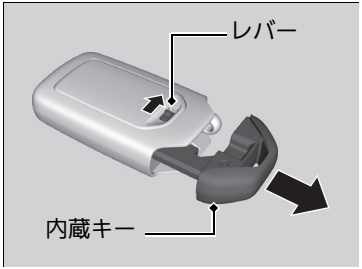
電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

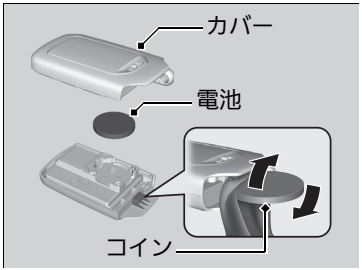
次ページに続く

■Honda スマートキー



ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。



2. カバーを外す。
▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

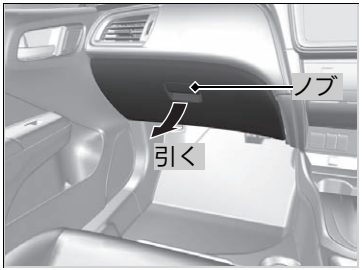
3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

エアクリーンフィルター

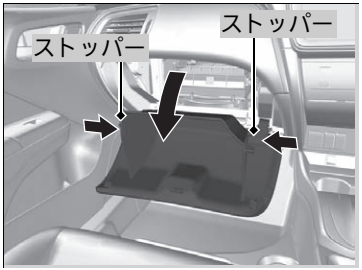
■エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。
粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリーンフィルターの交換



1. グローブボックスを開ける。



2. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

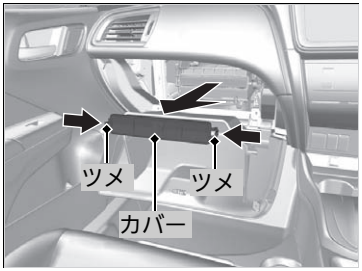
エアクリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

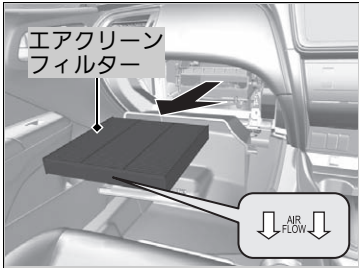
エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉・粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。

次ページに続く



3. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。



4. エアクリーンフィルターを引き出す。

5. 新品と交換する。

▶「AIR　FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。
ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

»車内の清掃

室内に水をかけないでください。
オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

次ページに続く

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■スーパーUV カット / IR カットドアガラスのお手入れ

前席ウィンドー(ドアガラス)の車内側に UV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

■本革✤ のお手入れ

塵やほこりを掃除機や乾いた布で取り除いてください。
ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布を固く絞り、洗剤分をきれいに拭き取ります。乾いた布で水分を拭き取り、風通しをよくして日陰で乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまうことがあります。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

≫ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

UV カット膜や IR カット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤などは使わない

フロントセンサーカメラ装備車

フロントセンサーカメラのカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

➔ **フロントセンサーカメラ** P.277

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。
以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない

■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- エンジンルームには水をかけない

車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。
故障の原因になります。



次ページに続く

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラス* について

前席ウィンドー(ドアガラス)にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

≫ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

≫バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

≫ガラスのお手入れ

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤などは使わない
- 金属製のもので霜取りなどを行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■アルミホイール✤ のお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合はHonda販売店で点検を受けてください。

アルミホイール✤ のお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。
変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■親水ミラー✤ のお手入れ

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗浄後、十分な水で洗い流してください。
3. 5 ～ 9 時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

⩙親水ミラー✤ のお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグ✤の作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。
Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクタ ー は、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

次ページに続く

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。
電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

アクセサリーと改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA

GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

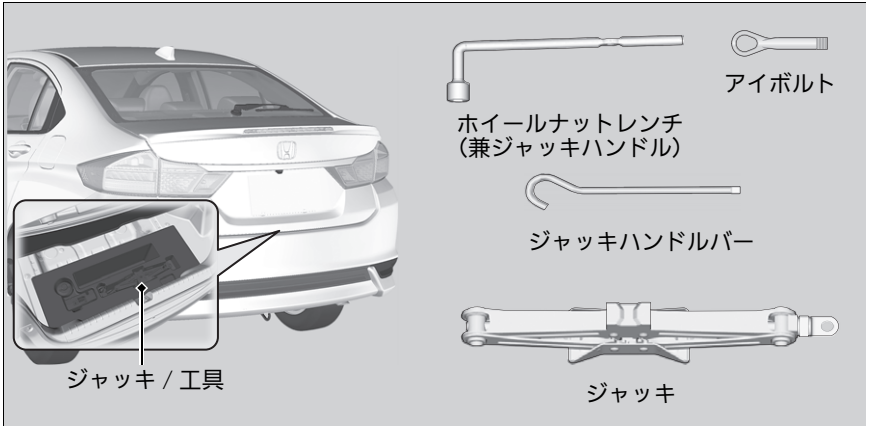


万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒
工具の種類 332
発炎筒 332
パンクしたとき
パンクしたタイヤの応急修理 333
ジャッキの取り扱い
ジャッキのかけかた 343
パワーシステムが起動しない
パワーシステムの確認 345
Honda スマートキーの電池が切れたとき 347
緊急時のパワーシステム停止方法 348
ジャンプスタート
ジャンプスタートの方法 349
オーバーヒートしたときの対処方法 ... 351
油圧警告灯が点灯した 353
12V バッテリー充電警告灯が点灯した ... 354
PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した 354
ブレーキ警告灯（レッド）が点灯した ... 355
EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した 355
トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した 356
オーバーヒート 351
警告灯の点灯 / 点滅 353
ヒューズ
ヒューズの設置場所 357
ヒューズの点検と交換 366
けん引
非常時のけん引 367

工具の種類



発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➔ **発炎筒** P.2

▶工具の種類

工具はトランクルーム内に収納されています。

▶発炎筒

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

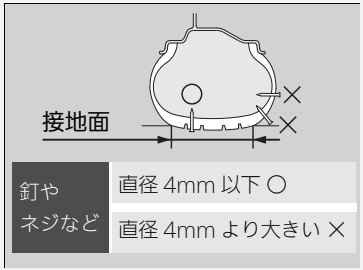
タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. シフトポジションを P にする。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

≫パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

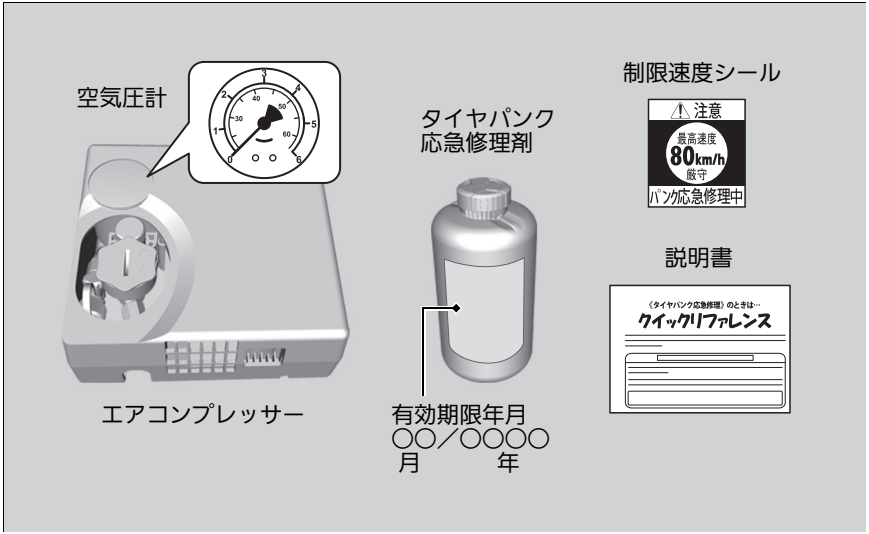


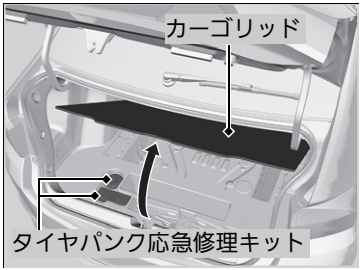
- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

次ページに続く

■タイヤ応急修理の準備



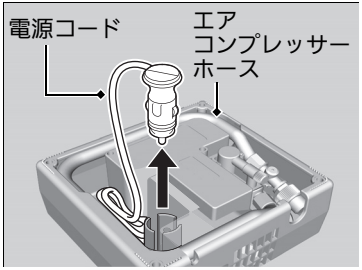


1. カーゴリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

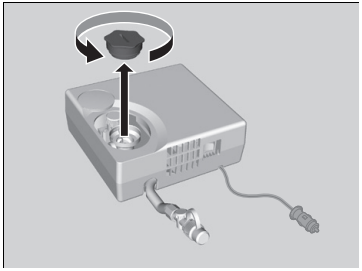
▶タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

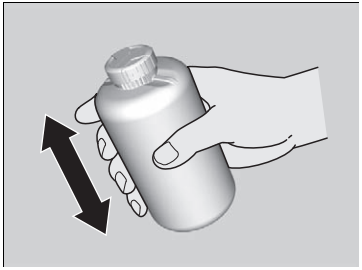
■応急修理剤とエアの注入



1. エアコンプレッサーからエアコンプレッサーホースと電源コードを取り出す。



2. エアコンプレッサーキャップを外す。



3. 応急修理剤のボトルをよく振る。

⨌応急修理剤とエアの注入

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

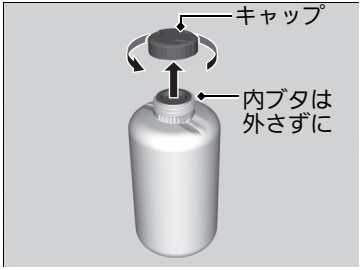
目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

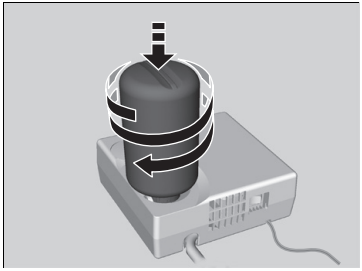
外気温が氷点下以下のときはシーラントは容易に流れないかもしれません。車内で温めると流れやすくなります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

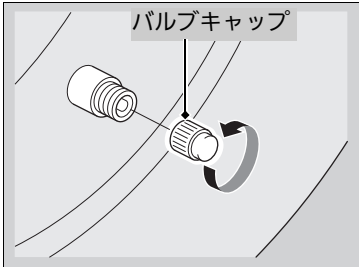
次ページに続く



4. 応急修理剤のキャップを外す。
▶ 内ブタは取り外さないでください。



5. 応急修理剤の内ブタを付けたままの状態で、ボトルをエアコンプレッサーにねじ込む。
▶ ボトルがゆるまないようしっかりねじ込んでください。

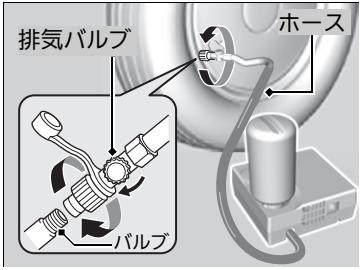


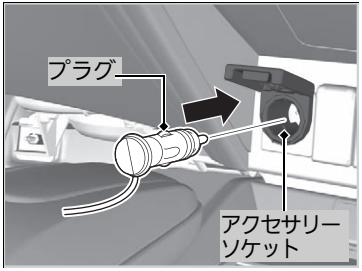
6. バルブからバルブキャップを取り外す。

≫応急修理剤とエアの注入

注入が終わった空ボトルはエアコンプレッサーから取り外さないでください。

ボトルは取り外さずに、Honda 販売店か専門修理工場までお持ちください。





7. エアコンプレッサーホースをバルブにねじ込む。
▶ 排気バルブが閉まっていること、エアコンプレッサースイッチが OFF であることを確認してください。

8. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
➔ **アクセサリーソケット** P.180

9. パワーシステムを起動する。
➔ **一酸化炭素について** P.63

応急修理剤とエアの注入

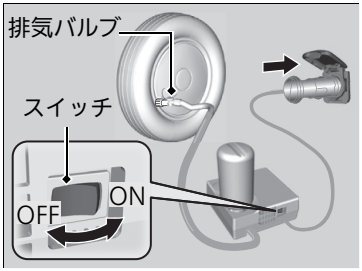
⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

エアコンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

次ページに続く



10. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、空気圧を、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm²)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm²)まで高める。

11. エアコンプレッサーの電源をOFFにする。
- ▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
- ▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。応急修理剤のふきこぼれに注意してください。

12. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。

13. エアコンプレッサーホースを取り外し、ホースキャップを取り付ける。
- ▶ エアコンプレッサーホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。

ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。

14. タイヤパンク応急修理キットをトランクに格納する。
- ▶ ボトルはエアコンプレッサーから外さないでください。

≫応急修理剤とエアの注入

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。
- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

■点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。

2. 点検走行を開始する。

▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。

3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。

次ページに続く

点検走行

⚠警告

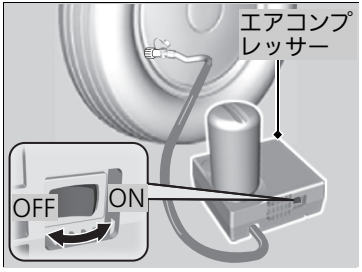
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。



4. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。

▶ エアコンプレッサーの電源をONにしないでください。

- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)未満の場合：
  応急修理剤では修理はできません。
  運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
- 空気圧が、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm²)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm²)の場合：
  応急修理は完了です。
- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)以上、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm²)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm²)以下の場合：
  エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
  Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 4 までを繰り返す。

▶ 高速道路では 80 km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

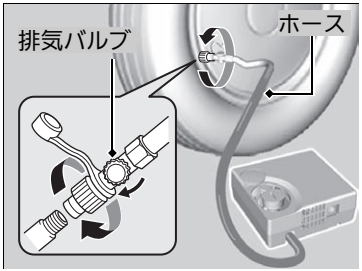
5. エアコンプレッサーなどをトランクに収納する。

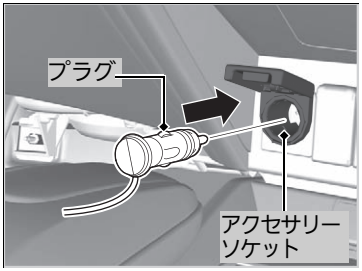
点検走行

走行前に、空ボトルの取り付けられたエアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。





1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付ける。
   ▶ 排気バルブが閉まっていることを確認してください。
5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
6. パワーシステムを起動する。

➡ **一酸化炭素について** P.63

タイヤ空気圧の補充

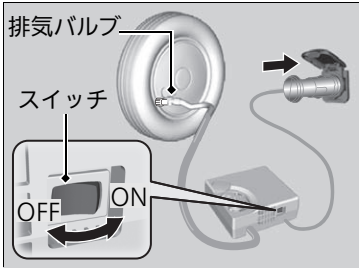
⚠警告

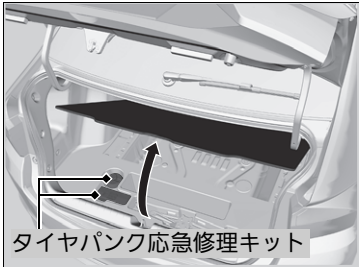
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

次ページに続く





7. エアコンプレッサーのスイッチをONにして、空気圧を、前輪の場合は 220kPa (2.2kgf/cm^2)、後輪の場合は 210kPa (2.1kgf/cm^2)まで高める。

8. エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
- ▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
- ▶ 空気を入れすぎたときは、排気バルブをゆるめて空気を抜きます。

9. パワーシステムを停止し、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。

10. エアコンプレッサーホースを外す。

11. エアコンプレッサーをトランクに収納する。

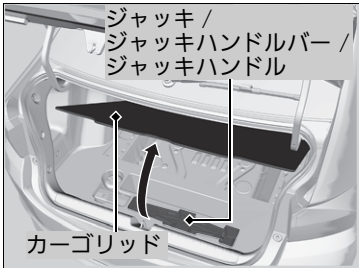
タイヤ空気圧の補充

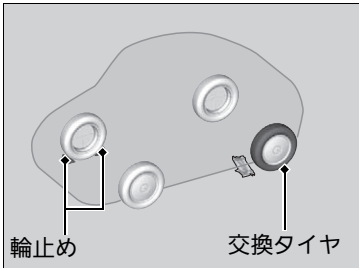
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

ジャッキのかけかた





1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. シフトポジションをPにする。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードをOFFモードにする。
5. カーゴリッドを開けて、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
6. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。
7. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

ジャッキのかけかた

⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

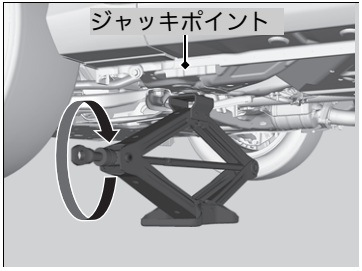
⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

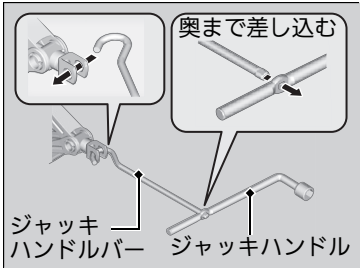
- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

次ページに続く



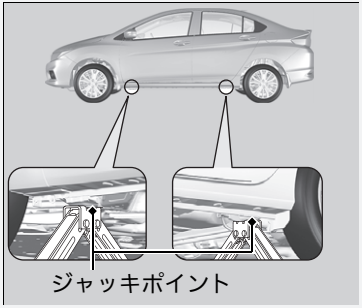
8. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



9. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

»ジャッキのかけかた

ジャッキポイントは、下記の通りです。



パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯せず、「READY TO DRIVE」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

パワーシステムの確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

➡ **ジャンプスタートの方法** P.349

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯か警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	キーが見つかりませんのメッセージが表示されているとき	パワーシステム起動の作動範囲を確認します。 ➡ **POWER スイッチ** P.149
	キーでスイッチに触れて下さいのメッセージが表示されているとき	ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.347
	外気温が低いために起動できませんのメッセージが表示されているとき	➡ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P.86
	パワーシステム警告灯が点灯する	Honda 販売店で点検を受けてください。
	トランスミッション警告灯が点滅し、「トランスミッション点検 停車時はパーキングブレーキを確実にかけて下さい」もしくは、「停車時はパーキングブレーキをかけてください」とメッセージが表示されているとき	応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 ➡ **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.356

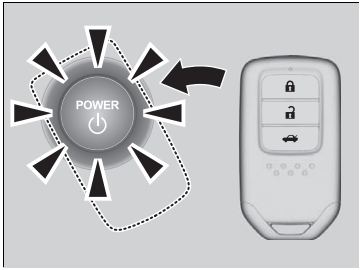
次ページに続く

項目	状況	対処のしかた
室内灯の明るさを確認する	室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合	Honda 販売店で 12V バッテリーの点検を受けてください。
	室内灯などの明るさに問題がない場合	全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ヒューズの点検と交換** P.366
シフトポジションの位置を確認する	P 以外のシフトポジションが選択されている	パーキングスイッチを押してください。
パワーシステム起動の手順を実行する	もう一度、正しいパワーシステム起動操作をしてみてください。	➔ **パワーシステムの起動** P.196
イモビライザーシステム表示灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	➔ **イモビライザーシステム** P.145 ➔ **イモビライザー システム表示灯** P.76

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

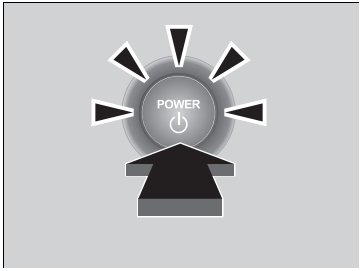
Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、 POWER が点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。
以下の手順でパワーシステムを起動してください。



1. POWER を押す。
▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、 POWER が約 30 秒間点滅します。

2. POWER が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶「ピッ」とブザーが鳴り、 POWER が約 10 秒間点灯します。



3. POWER が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、
POWER を押す。
▶ READY 表示灯が点灯します。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER スイッチは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。
パワーシステムを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください：

- POWER を約 2 秒以上押す
- POWER を 3 回連続して押す

このときハンドルはロックしません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
車が停止すると、自動的にシフトポジションが P になり、パワーモードが OFF モードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に POWER を押さないでください。

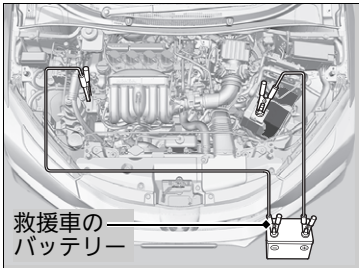
ジャンプスタートの方法

■処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



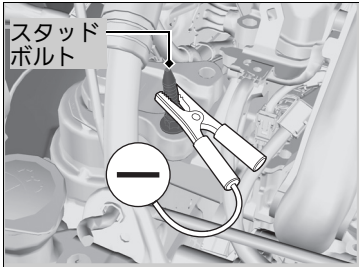
1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。

2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。

3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。

▶救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。

▶自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。



4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。

5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。

6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。

7. 自車のパワーシステムを起動する。

次ページに続く

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。
パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外の端子に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。
- ▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
- ▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。
- ▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

≫システム起動後の作業

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯(レッド)が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」と表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
▶パーキングスイッチを押し、パーキングブレーキをかけます。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
▶**蒸気が出ていない場合：**パワーシステムを起動させたままボンネットを開ける。
▶**蒸気が出ている場合：**パワーシステムを停止させ、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

≫オーバーヒートしたときの対処方法

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

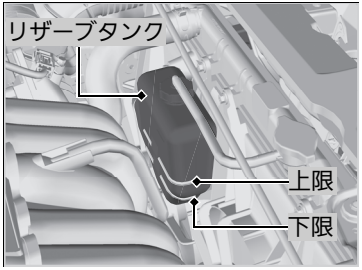
アドバイス

高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

次ページに続く

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからパワーシステムを停止する。
▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止します。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動し高水温警告灯を確認する。警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。

2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. パワーシステムを停止させ、3 分間ほど放置する。

2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。

▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。

3. パワーシステムを起動し、油圧警告灯を確認する。

▶ **消灯した：**運転を再開してください。

▶ **10 秒以内に消灯しない：**パワーシステムを停止させ、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

≫油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。

パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

外気温− 30 ℃以下でパワーシステムを起動すると警告灯が点灯することがあります。高電圧バッテリーの温度が上がると消灯します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

▩ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。
ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。
ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した





■点滅の理由

トランスミッションが故障すると表示します。

■点滅したらすること

•ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

•パワーシステムを起動するときは、シフトポジションを N にします。

▶表示灯の N が点灯/点滅しているのを確認してください。

▶パーキングブレーキがかかっていないと起動しません。

➡**パワーシステムの起動** P.196

⊠トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

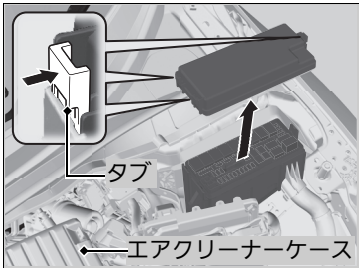
走行できないときは、専門業者に連絡してください。

➡**非常時のけん引** P.367

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



■タイプ A ヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側に付いているエアクリーナーケースの隣にあります。タブを押して開けてください。

≫ヒューズの設置場所

タイプ A ヒューズボックス

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

次ページに続く

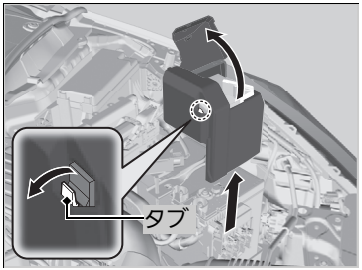
■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		ヘッドライト	20A
2		DCT	20A
3		非常点滅表示灯	10A
4		ドライブバイワイヤー	15A
5		ワイパー	(30A)
6		制動灯	10A
7		PGM-FI	15A
8		イグニッションコイル	15A
9		DCT	20A
10		ー	(20A)
11		DCT	30A
12		冷却ファン	30A
13		オートスターター	(30A)
14		ウォーターポンプ	30A
15		バッテリーセンサー	(7.5A)
16		サブファン	(20A)
17		CMBS✤	(7.5A)
18		ホーン	10A
19		フォグライト✤	(20A)
20		アクセサリーライト	(7.5A)

	表示	装備	容量
21		バックアップ	15A
22		室内灯	(7.5A)
23	ー	ー	ー
24		ー	(40A)
25		オートスターター	(7.5A)
26		ー	(7.5A)
27	ー	ー	ー
28		ー	(7.5A)
29		バックアップ	(10A)
30		LAF センサー	(10A)
31		PGM-FI サブ	(7.5A)
32	R	右側ヘッドライト ロービーム	10A
33	L	左側ヘッドライト ロービーム	10A

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

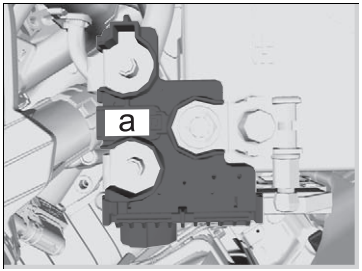


■タイプ B ヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側に付いている、12V バッテリーの ⊕ 端子の隣にあります。

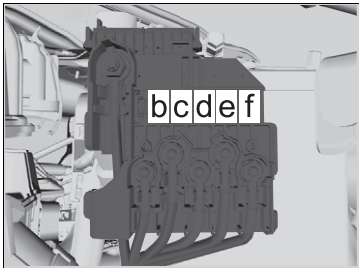
1. ⊕ 端子部分のフタを開ける。

2. タブを引いてカバーを取り外す。



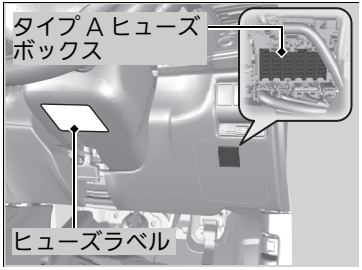
■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
a		バッテリーメイン	170A
b		RB メイン 1	60A
c		RB メイン 2	80A
d		デュアルクラッチドライブ	60A
e		EPS	70A
f		電動サーボブレーキ	40A



次ページに続く

■室内運転席側のヒューズボックス



■タイプ A ヒューズボックス

ハンドル右側のインストルメントパネルの奥にあります。

▶ 下から確認できます。

≫室内運転席側のヒューズボックス

タイプ A ヒューズボックス

コラムカバーの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

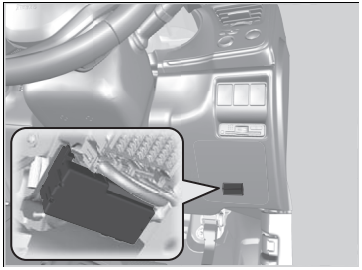
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

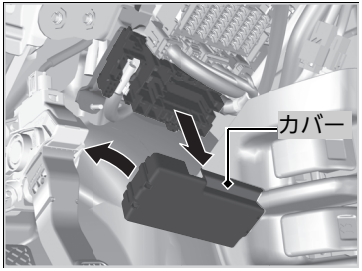
	表示	装備	容量
1		ドアロック	20A
2	—	—	—
3		Honda スマートキーシステム	(10A)
4		左側ドアアンロック	10A
5		右側ドアアンロック	10A
6		—	(10A)
7		—	(10A)
8	DR	運転席パワーウィンドー	20A
9	AS	助手席パワーウィンドー	20A
10	RR L	助手席側リヤパワーウィンドー	20A
11	RR R	運転席側リヤパワーウィンドー	20A
12		左側ドアロック	10A
13		右側ドアロック	10A
14		—	(10A)
15	R	右側ヘッドライトハイビーム	10A
16		—	(7.5A)
17		—	(20A)
18		—	(20A)
19		シートヒーター✤	(20A)
20	—	—	—

	表示	装備	容量
21	—	—	—
22		ウォッシャー	15A
23		リヤワイパー✤	(10A)
24		エアコン	7.5A
25		アクセサリーライト	(7.5A)
26		スターター	(7.5A)
27		ABS/VSA	7.5A
28		SRS エアバッグシステム	10A
29	L	左側ヘッドライトハイビーム	10A
30		オルタネータ	10A
31		パワーウィンドー	10A
32		フューエルポンプ	15A
33		—	(7.5A)
34		メーター	7.5A
35		ミッションソレノイド	7.5A
36		アクセサリーソケット	20A
37		ACC	7.5A
38		ACC キーロック	7.5A
39		オプション	(10A)
40		リヤワイパー✤	(10A)
41	—	—	—
42	—	—	—

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く





■タイプ B ヒューズボックス

室内のタイプAヒューズボックス下にあります。
カバーを開けてください。

▨タイプ B ヒューズボックス

ヒューズボックスのカバーに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とカバーの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

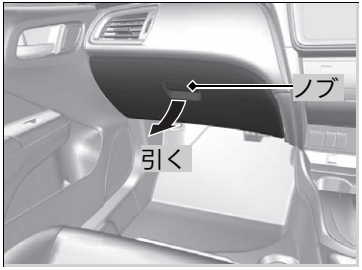
	表示	装備	容量
1	—	—	30A
		リヤデフロスター	40A
		ヒューズボックス（タイプ A 2）	50A
		ABS/VSA	40A
		ヒューズボックス（タイプ A）	30A
		ヒューズボックス（タイプ A 3）	40A
2	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—

	表示	装備	容量
3		ヒーターモーター	40A
4	—	—	—
5		ABS/VSA	30A
6		フロントデフロスター	(10A)
7		オートリトラミラー	(7.5A)
8		アクセサリーソケット（コンソール 2）	(20A)
9		スモールライト	10A
10		アクセサリーソケット（コンソール 1）	(20A)
11	—	—	—
12		—	(7.5A)
13		ヒーテッドドアミラー✤	(10A)
14		—	(7.5A)
15		—	(30A)

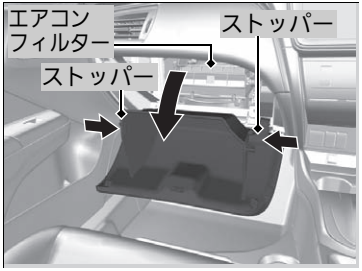
✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

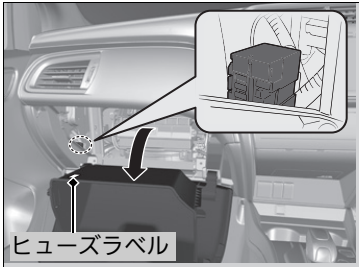
■室内助手席側のヒューズボックス



1. グローブボックスを開ける。



2. グローブボックスの両端に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。
▶ エアコンフィルターの左側にあります。



≫室内助手席側のヒューズボックス

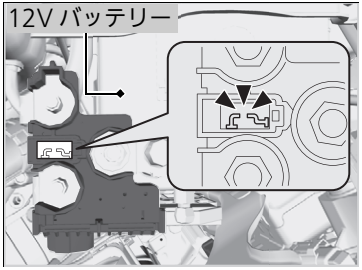
グローブボックスに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

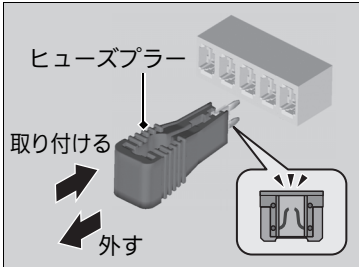
■各ヒューズの装備と容量

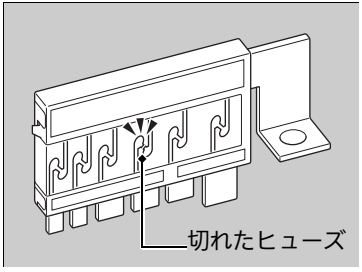
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1	📖	IG メイン	(30A)
2	📖	DCT	10A
3	📖	Honda スマートキーシステム	(10A)
4	📖	IMA1	10A
5	—	—	—
6	📖	IG メイン 2	(30A)
7	📖	IMA2	15A
8	—	—	—

ヒューズの点検と交換







1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. 12V バッテリーの ⊕ 端子の隣にあるカバーを開ける。
3. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、Honda 販売店に修理を依頼してください。
4. エンジンルーム内のタイプAヒューズボックスのフタを取り外す。
5. 内部のヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

6. 室内の大きいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
7. 室内の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

≫ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

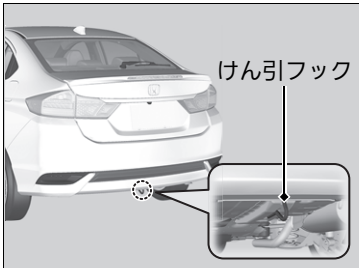
ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。
規定容量はヒューズの設置場所に記載している一覧で確認してください。
➡ **各ヒューズの装備と容量** P.358、359、361、363、365

エンジンルーム内のタイプAヒューズボックスには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は、専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

■やむをえず他車をけん引する場合



やむをえず他車のけん引を行う場合、リヤバンパー下にあるけん引フックにロープをかけてください。

≫非常時のけん引

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

≫やむをえず他車をけん引する場合

アドバイス

けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
車体が破損、変形する場合があります。

ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

自車より重い車のけん引は避けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。



仕様：Hybrid 369

仕様：Hybrid

■仕様

名称	GRACE
排気量	1,496 cm³
車体形状	4 ドアセダン
乗車定員	5 名

■調節

点火プラグ	NGK	DILZKAR7C11S
	DENSO	DXE22HCR11S

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	7.4-14.6mm
	床板とのすき間	89.1mm 以上 [約 196N (20kgf) の力]
	カーペットとのすき間(参考値)	78.6mm 以上 [約 196N (20kgf) の力]
パーキングブレーキ	引きしろ	8～10 ノッチ [約 196N(20kgf) の力]

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン
	レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	40 ℓ

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■ 12V バッテリー

容量 / タイプ	28AH(5)/38B19L-MF

■ウォッシャー液

タンク容量	1.8 ℓ ※1 2.0 ℓ ※2

※1 ： 2WD
※2 ： 4WD

■電球

ヘッドライト ※1	ロービーム	LED
	ハイビーム	LED
ヘッドライト ※2	ロービーム	12V-55W
	ハイビーム	12V-60W
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯		12V-21W(橙色)
車幅灯		LED
アクセサリーライト		LED
フォグライト✤		LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯		LED
後部側方灯		LED
制動灯 / 尾灯		LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯		12V-21W(橙色)
尾灯		LED
後退灯		12V-16W
ハイマウントストップランプ		LED
番号灯		LED※1 12V-5W※2
マップランプ		12V-8W※3 LED※4
室内灯		12V-8W※3 LED※4
トランク照明灯		12V-5W

※1 ： LED ヘッドライト装備車
※2 ： ハロゲンヘッドライト装備車
※3 ： LED 室内灯非装備車
※4 ： LED 室内灯装備車

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ATF-DW1	
規定量	2WD	1.3 ℓ (交換時)
	4WD	1.6 ℓ (交換時)

■デファレンシャルオイル 4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.34 ℓ (交換時)

■推奨エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル	ULTRA NEXT※1	
	ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN 以上 SAE 0W-20
規定量	オイル交換時	3.1 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.3 ℓ

※1 ： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.83 ℓ (交換時 : リザーブタンク 0.44 ℓ 含む)

■タイヤ

サイズ	185/60R15 84H※1	
	185/55R16 83V※2	
空気圧 (kPa[kgf/cm²])	前輪 220[2.2]/ 後輪 210[2.1]※1、※3 前輪 230[2.3]/ 後輪 210[2.1]※4	
リムサイズ	15×6J※1	
	16×6J※2	

※1 ： 15 インチホイール装備車
※2 ： 16 インチホイール装備車
※3 ： 2WD 16 インチホイール装備車
※4 ： 4WD 16 インチホイール装備車

✤：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

数字

12Vバッテリー充電警告灯 66, 354
4WD(四輪駆動機構) 216
7速マニュアルシフトモード 207
M(7速マニュアルシフトモード)
表示灯 78, 204
シフトインジケーター 78, 204

A

A/C(エアコン) 183, 321
ABS(アンチロックブレーキシステム)
ABS警告灯 68, 282
ACC
(アダプティブクルーズコントロール) 234
ACC警告灯 72
ACC表示灯 79

C

CHARGE(チャージメーター表示) 96
CMBS(衝突軽減ブレーキ) 219
CMBS警告灯 73
CRUISE CONTROL
(クルーズコントロール) 211

E

ECONスイッチ 209
ECON表示灯 78
ECOスコア 7, 103
ECOドライブディスプレイ 102
EPS(電動パワーステアリング)システム
警告灯 71, 355
ETC車載器 ..... 別冊
EV表示灯 77

H

HDMIジャック ..... 別冊
Hondaインターナビシステム ..... 別冊
Hondaスマートキー 127, 128, 129
Hondaスマートキーシステム警告灯 70
Hondaスマートキー持ち去り警告 151
緊急時のパワーシステム停止方法 348
電池交換のしかた 319
Hondaスマートキーシステム警告灯 70

I

IRカットガラス 324
ISOFIX/i-Size 対応アンカレッジでの
取り付け 58
ISOFIX/i-Size チャイルドシートについて .. 52

L

LKAS(車線維持支援システム) 248
LKAS警告灯 72
LKAS表示灯 79

M

M(7速マニュアルシフトモード)
表示灯 78, 204
MAINスイッチ 236, 251
MIST 160
M表示灯 78, 204

P

PGM-FI警告灯 66, 354
POWER(パワー表示) 96
POWERスイッチ 149

R

READY表示灯 77

S

SEL/RESETスイッチ 99, 100
SPORTメーター 107
SRSエアバッグ 39
エアバッグシステム警告灯 46, 69
Sモードスイッチ 209
Sモード表示灯 78, 204

U

USB/HDMIジャック ..... 別冊

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 215
VSA OFF警告灯 70, 216
VSA警告灯 70, 215

W

W(ワット)数 369

ア

アームレスト 173
フロントシート 173
リヤシート 173
アイボルト 332
アクセサリー 329
アクセサリーソケット 180, 337, 341
アクセサリーライト 153, 301
アダプティブクルーズコントロール(ACC) 234
ACC警告灯 72
ACC表示灯 79
安全に関する表示 28
安全のための確認事項 31
アンチロックブレーキシステム(ABS) 282
ABS警告灯 68, 282
アンビエントメーター 6

イ

一酸化炭素の危険性 63
イモビライザーシステム 145
イモビライザーシステム表示灯 76
イルミネーションコントロール 162
インフォメーションスイッチ 99
インフォメーション表示灯 77

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器) 152
ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給 298
ウィンドウォッシャースイッチ 160
ウィンドーの開閉 147
ウェアインジケーター 313
運転
クルーズコントロール 211
シフト操作 203
ブレーキ操作 280

エ

エアクリーナーエレメント 369
エアコン 183, 321
エアクリーンフィルター 321
オートエアコンの使いかた 184
窓の曇りや霜の取りかた 186
エアバッグ 39
SRSエアバッグ 39
エアバッグシステム警告灯 46
エアバッグのお手入れ 47
サイドエアバッグ 42
サイドカーテンエアバッグ 44
エアバッグシステム故障診断記録装置 28
エコアシストシステム 6
エマージェンシーストップシグナル 284
エンジンオイル 297
推奨エンジンオイル 297, 369
油圧警告灯 66, 353
エンジン作動表示 108
エンジンの始動
ジャンプスタート 349
エンジンルーム内のメンテナンス 295
ウィンドウォッシャー液の補給 298
エンジンルーム内のメンテナンス項目 295
推奨エンジンオイル 297, 369
ボンネットを開ける 296
冷却水の点検と補給 351
エンジン冷却水 369

オ

オートドアロック / オートドアアンロック 141
追越合図(パッシング) 153
応急修理剤(タイヤパンク) 333

オーディオ装置..... 192
オーディオリモートコントロールスイッチ..... 1
オートエアコン..... 184
オートハイビーム..... 156
オートリトラミラー..... 167
オーバーヒート..... 351
オドメーター..... 101
温度センサー..... 97

カ

外気温表示..... 97
鍵(かぎ)..... 127
カスタマイズ機能..... 110
ガソリン..... 288, 369

キ

キー
Hondaスマートキー..... 127, 128, 129
キー閉じ込み防止装置..... 137
キーナンバータグ..... 128
キーの種類と機能..... 127
キーレスエントリー..... 135
キーレスエントリーでドアが開かない..... 26
後席ドアが開かない..... 26
電池交換のしかた..... 319
内蔵キー..... 127
Hondaスマートキーの電池が切れたとき..... 347
キー閉じ込み防止装置..... 137
キーナンバータグ..... 128
キーレスエントリー..... 135
キックダウン..... 202
給油..... 288
給油のしかた..... 288
指定燃料..... 288, 369
燃料計..... 101

ク

空気圧..... 369
グラブレール..... 3
クリープ現象..... 202
クルーズコントロール..... 211
クルーズコントロール表示灯..... 79
クルーズメイン表示灯..... 79
車の改造..... 329
グローブボックス..... 176

ケ

経過時間表示..... 106
計器..... 64
警告灯..... 65
12Vバッテリー充電警告灯..... 66, 354
ABS警告灯..... 68, 282
ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯(オレンジ)..... 72
CMBS(衝突軽減ブレーキ)警告灯..... 73
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯..... 71, 355
Hondaスマートキーシステム 警告灯..... 70
LKAS(車線維持支援システム)警告灯(オレンジ)..... 72
PGM-FI警告灯..... 66, 354
VSA OFF警告灯..... 70
VSA警告灯..... 70, 215
エアバッグシステム警告灯..... 69
高水温警告灯..... 71
シートベルト非着用警告灯..... 68
充電警告灯..... 66, 354
トランスミッション警告灯..... 67, 356
パワーシステム警告灯..... 72
ブレーキ警告灯..... 65, 355
ブレーキシステム警告灯..... 69
油圧警告灯..... 66, 353
路外逸脱抑制機能警告灯..... 74
警告灯の点灯/点滅..... 353
けん引..... 367

コ

交換
アクセサリーライト電球..... 301
後退灯、尾灯電球..... 304
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球..... 303
室内灯電球..... 306
車幅灯電球..... 302

制動灯/後部側方灯/尾灯電球 302
前面方向指示器/
前面非常点滅表示灯電球 301
側面方向指示器/
側面非常点滅表示灯電球 302
トランク照明灯電球 307
ハイマウントストップランプ電球 305
番号灯電球 305
フォグライト電球 302
ヘッドライト電球 299
マップランプ電球 306
ワイパーブレードラバー 308
工具 332
高水温警告灯 71
航続可能距離表示 99, 106
後退灯、尾灯電球 304
高電圧バッテリーの特性 217
高電圧バッテリー残量 108
後部側方灯 302
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 303
コートフック 181
コンソールボックス
センターコンソールボックス 176

サ

サービス診断記録装置
データの開示について 28
サービス診断記録装置について 28
サイドエアバッグ 42
サイドカーテンエアバッグ 44
サンバイザー 3

シ

シートヒーター 182
シートの調節 168
アームレスト 173
フロントシート 168
ヘッドレスト 171
シートベルト 32
アンカーポイント 38
シートベルトの着用 35
シートベルトの点検 38
シートベルト非着用警告灯 68
シートベルトプリテンショナー 34
シートベルトリマインダー 33
妊娠中のかたのシートベルト着用の
しかた 37
時刻の設定 124
室内装備品 176
室内灯 174
室内灯電球 306
指定燃料 288, 369
シフトインジケーター 78, 204
シフトスイッチ 208
シフト操作 203
シフトポジション表示灯 78, 204
車外の清掃 325
車線維持支援システム(LKAS) 248
LKAS警告灯 72
LKAS表示灯 79
ジャッキ 332, 343
ジャッキハンドルバー 332
**ジャッキハンドル
(ホイールナットレンチ)** 332
車内の清掃 323
車幅灯 302
車両接近通報装置 210
ジャンプスタート 349
充電警告灯 66, 354
瞬間燃費表示 105
仕様 369
衝撃感知ドアロック解除システム 141
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 219
CMBS(衝突軽減ブレーキ)警告灯 73
ショルダーアンカー 36
親水ミラー 328

ス

スイッチ
ECONスイッチ 209
POWERスイッチ 149
Sモードスイッチ 209
セレクト/リセットノブ 100, 162
フォグライトスイッチ 155
フロントガラス熱線スイッチ 163

ヘッドライトレベリングダイヤル..... 159
方向指示器(ウィンカースイッチ)..... 152
ライトスイッチ..... 153
リヤデフロスタースイッチ..... 163
ワイパー/ウォッシャー..... 160
スイッチ操作
MAINスイッチ..... 236, 251
スーパーUVカットガラス..... 324
ステアリング..... 164
スパークプラグ..... 369
スピードメーター..... 96
スポーツ ハイブリッドi-DCD（インテリジェント デュアルクラッチドライブ）..... 8

セ

清掃..... 323
制動灯 / 後部側方灯 / 尾灯電球..... 302
セキュリティシステム..... 145
イモビライザーシステム..... 145
セキュリティアラームシステム..... 145
セレクトポジション..... 203
セレクトレバー
セレクトレバーの操作..... 204
先行車発進お知らせ機能..... 266
センターコンソールボックス..... 176
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯..... 301

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯..... 302

タ

タイヤ..... 312
ウェアインジケーター..... 313
指定空気圧..... 313, 369
タイヤの点検..... 312
タイヤのローテーション..... 317
タイヤパンク応急修理キット..... 333
冬期のタイヤ..... 318
パンク..... 333

チ

チャージメーター表示(CHARGE)..... 96
チャイルドシート
ジュニアシート..... 61
乳児のチャイルドシート..... 49
幼児のチャイルドシート..... 50
チャイルドプルーフ..... 140
駐停車操作..... 285

テ

停止表示板入れ..... 177
低水温表示灯..... 76
データの開示について..... 28
デフロスター..... 186
リヤデフロスター..... 163
デュアルクラッチトランスミッション..... 202
点火プラグ..... 369
電子制御ブレーキアシスト..... 283
電池交換..... 319

ト

ドアの施錠と解錠..... 127
Hondaスマートキー..... 127, 128, 129, 130
キー閉じ込み防止装置..... 137
キーナンバータグ..... 128
キーの種類と機能..... 127
キーレスエントリー..... 135
キーレスエントリーでドアが開かない..... 26
後席ドアが開かない..... 26
車外でのドアの施錠/解錠..... 130
車内での施錠と解錠..... 138
衝撃感知ドアロック解除システム..... 141
チャイルドプルーフ..... 140
ドア開閉警告 / トランク開閉警告..... 31, 82
ドアミラー..... 166
冬期のタイヤ..... 318
時計の表示..... 97
トップテザーアンカレッジ..... 59
トップテザーアンカレッジシンボル..... 59
トップテザーストラップ..... 59

トラブルシューティング
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 26
オーバーヒートした 351
キーレスエントリーでドアが開かない 26
警告灯が点灯/点滅した 353
けん引してもらいたい 367
後席ドアが開かない 26
ジャンプスタートしたい 349
走行するとブザーが鳴る 27
ドアを閉めるとブザーが鳴る 27
ハイオクガソリンは使える？ 27
パワーシステムが起動しない 345
パンクした 333
ヒューズが切れた 357
ブレーキを踏むと音がする 27
ブレーキを踏むと振動する 26
トランク照明灯
電球の交換 307
トランクの開閉 142
ドア開閉警告 / トランク開閉警告 31, 82
トランスミッション警告灯 67, 356
トランスミッションフルード 369
トリップメーター 101
ドリンクホルダー 178

ナ

内蔵キー 127

ネ

燃料 288, 369
燃料計 101

ハ

パーキングブレーキ 280
排気ガスの危険性 63
ハイビーム 153
電球の交換 299
ハイビーム表示灯 75
ハイマウントストップランプ 5, 305
ハザードスイッチ ..... 表紙ウラ
発炎筒 332
パッシング 153
バッテリー
12Vバッテリー充電警告灯 66, 354
ジャンプスタート 349
容量/タイプ 369
発話スイッチ 1
バニティミラー 3
パワーウィンドーの開閉 147
パワーシステム
パワーシステムの起動 196
パワーシステムの停止 197
パワーシステム警告灯 72
パワーシステムの起動
ジャンプスタート 349
パワーシステムが起動しない 345
パワー表示(POWER) 96
パワーフロー 108
パワーモード
オートオフ機能 150
警告ブザー 150
パワーモードの切り換えかた 149
パンク 333
番号灯 305
ハンドル 164
ハンドル位置調節レバー 164

ヒ

非常点滅表示灯スイッチ ..... 表紙ウラ
尾灯 302, 304
ヒューズ 357
ヒューズの設置場所 357
ヒューズの点検と交換 366
標識認識機能 270
表示灯 75
ACC(アダプティブクルーズコントロール)
表示灯(グリーン) 79
ECON表示灯 78
EV表示灯 77
LKAS(車線維持支援システム)表示灯
(グリーン) 79
M(7速マニュアルシフトモード)
表示灯 78, 204
READY表示灯 77

Sモード表示灯 78
イモビライザーシステム表示灯 76
インフォメーション表示灯 77
クルーズコントロール表示灯 79
クルーズメイン表示灯 79
シフトインジケーター 78, 204
シフトポジション表示灯 78, 204
セキュリティアラームシステム
作動表示灯 76
低水温表示灯 76
ハイビーム表示灯 75
フォグライト点灯表示灯 75
方向指示器 / 非常点滅表示灯 75
ライト点灯表示灯 75

フ

ブースターケーブル 349
フォグライト 302
フォグライトスイッチ 155
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 26
走行するとブザーが鳴る 27
ドアを閉めるとブザーが鳴る 27
フューエルリッドの開けかた 288
ブレーキ警告灯 65, 355
ブレーキシステム 280
ABS（アンチロックブレーキシステム） 282
エマージェンシーストップシグナル 284
電子制御ブレーキアシスト 283
パーキングブレーキ 280
フットブレーキ 281
ブレーキ警告灯 65, 355
ブレーキを踏むと音がする 27
ブレーキを踏むと振動する 26
ブレーキフルード 369
ブレーキ警告灯 65, 355
フロントガラス熱線スイッチ 163
フロントシート 168
アームレスト 173
ヘッドレスト 171
フロントセンサーカメラ 277

ヘ

平均車速表示 99, 106
平均燃費表示 105
平均燃費履歴表示 99, 105
ヘッドライト 153, 327
追越合図（パッシング） 153
電球の交換 299
ハイビーム 153
ハイビーム表示灯 75
ライト点灯表示灯 75
ロービーム 153
ヘッドライトオートオフ機能 154
ヘッドライトレベリングダイヤル 159
ヘッドレスト 171
フロントシート 171
リヤシート 171

ホ

ホイールサイズ 369
ホイールナットレンチ
（ジャッキハンドル） 332, 343
方向指示器（ウィンカースイッチ） 152
方向指示器表示灯 75
ホーンスイッチ 1
歩行者事故低減ステアリング 228

マ

マスタードアロックスイッチ 139
マップランプ 175
マップランプ電球 306
マルチインフォメーションディスプレイ 98
メッセージ 80

ミ

ミラー 165
ドアミラー 166
バニティミラー 3
ルームミラー 165

メ

メーター 13, 96
SPORTメーター 107
スピードメーター 96
チャージメーター表示(CHARGE) 96
燃料計 101
パワー表示(POWER) 96
マルチインフォメーションディスプレイ .. 98
メンテナンス 291
Hondaスマートキー 319
エンジンルーム内のメンテナンス 295
清掃 323
タイヤの点検と整備 312
メンテナンスに関する注意事項 294
メンテナンスを安全に行うために 293
ライト類の点検と整備 299
ワイパーブレードラバーの点検と整備 308

ユ

油圧警告灯 66, 353
有料道路自動料金支払いシステム(ETC)車載器 ..... 別冊

ラ

ライトスイッチ 153
追越合図(パッシング) 153
ハイビーム 153
ハイビーム表示灯 75
ライト点灯表示灯 75
ロービーム 153
ライト類の点検と整備 299
アクセサリーライト電球 301
後退灯、尾灯電球 304
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球 303
室内灯電球 306
車幅灯電球 302
制動灯/後部側方灯/尾灯電球 302
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球 301
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 302
トランク照明灯電球 307
ハイマウントストップランプ電球 305
番号灯電球 305
フォグライト電球 302
ヘッドライト電球 299
マップランプ電球 306
ラジエーター 351, 352

リ

リザーブタンク 351, 352
リムサイズ 369
リヤカメラシステム 287
リヤシート 170
アームレスト 173
ヘッドレスト 171
リヤデフロスタースイッチ 163

ル

ルームミラー 165

レ

冷却水 351, 352, 369
オーバーヒート 351
高水温警告灯 71
低水温表示灯 76
補給 351, 352
レーダーセンサー 279

ロ

ロアアンカレッジ 58
ロービーム 153
電球の交換 299
路外逸脱抑制機能 259
路外逸脱抑制機能警告灯 74

ワ

ワイパー/ウォッシャー 160
ワイパーブレードラバー 308

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まずHonda販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新のHonda販売店を検索することが可能です。
Hondaホームページ　http://www.honda.co.jp/
（Hondaホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用Hondaホームページをご覧ください。
http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/
※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名